

令和3年度

障害者支援施設	めぶき園
ライフサポートセンター	なごみ園
大分県発達障がい者支援センター	ECOAL
ホームヘルプサービスセンター	らすかる
グループホーム	かわしま
障害福祉サービス事業所	どんこの里いぬかい
戸次なごみ園	
相談支援事業所	プラス
いぬかいこども園	
こざいこども園	
へつぎ保育園	
こども発達・子育て支援センター	なかよしひろば
こども発達支援センター	大分なごみ園
こども発達・子育て支援センター	わくわくかん
相談支援事業所	プラスα

事業報告書

社会福祉法人 萌葱の郷

目次

法人本部事業経過	1
----------	---

障害者支援施設 めぶき園 事業報告

第1章 療育活動	3
第2章 給食	24
第3章 医療・保健衛生	27
第4章 防災関係	30
第5章 家族との連携	31
第6章 利用者の状況	32
第7章 職員研修実施状況	33
第8章 日中一時・ショートステイ利用状況	34

ライフサポートセンター なごみ園 事業報告

第1章 療育活動	35
第2章 利用者の来園状況	39
第3章 職員の体制	40
第4章 地域・施設交流実施状況	40
第5章 総括	45

大分県発達障がい者支援センター ECOAL 事業報告

第1章 相談支援・発達支援	47
第2章 就労支援	50
第3章 普及啓発・研修	53
第4章 職員の体制	53
第5章 職員への研修	54
第6章 総括	54

ホームヘルプサービスセンター らすかる 事業報告

第1章 基本理念	55
第2章 利用者の利用状況	56
第3章 総括	56

グループホームかわしま 事業報告

目的	58
総括	61

障害福祉サービス事業所 どんこの里いぬかい 事業報告

第1章 運営理念	63
第2章 施設の概要	63
第3章 事業概要	63
第4章 利用者の利用状況	67
第5章 社会適応訓練	68
第6章 職員研修実施状況	68

戸次なごみ園 事業報告

第1章 療育活動	70
第2章 利用者の来園状況	75
第3章 職員の体制	76
第4章 職員の研修	76
第5章 総括	77

相談支援事業所 プラス 事業報告

第1章 計画作成状況	79
第2章 職員研修・協議体・講師等実施状況	79
第3章 職員体制	80
第4章 総括	80

いぬかいこども園 事業報告

第1章 施設運営	81
第2章 施設管理	90
第3章 諸機関との連携	90
第4章 総括	93

こざいこども園 事業報告

第1章 施設運営	94
第2章 施設管理	102
第3章 諸機関との連携	102
第4章 総括	103

へつぎ保育園 事業報告

第1章 施設運営	104
第2章 施設管理	111
第3章 諸機関との連携	111
第4章 総括	112

こども発達・子育て支援センター なかよしひろば 事業報告

第1章 療育活動	113
第2章 利用者の来園状況	119
第3章 職員の体制	119
第4章 地域・施設交流実施状況	120
第5章 総括	123

こども発達支援センター 大分なごみ園 事業報告

第1章 療育活動	124
第2章 利用者の来園状況	128
第3章 職員の体制	129
第4章 研修等実施状況	129
第5章 総括	131

こども発達・子育て支援センター わくわくかん 事業報告

第1章	療育活動	132
第2章	利用者の来園状況	138
第3章	職員の体制	138
第4章	地域・施設交流・研修等実施状況	138
第5章	総括	143

相談支援事業所 プラスα 事業報告

第1章	計画作成状況	144
第2章	職員研修・協議体・講師等実施状況	144
第3章	職員体制	145
第4章	総括	145

法人本部事業経過

令和3年

4月 1日 こども発達・子育て支援センター わくわくかん
相談支援事業所 プラスα（大分市屋山）開設

5月31日 令和3年度第1回理事会（萌葱の郷 法人本部）

議案

- 第1号議案 社会福祉法人萌葱の郷令和2年度事業報告について
- 第2号議案 社会福祉法人萌葱の郷令和2年度決算報告について
- 第3号議案 社会福祉法人萌葱の郷定款変更について
- 第4号議案 その他

6月26日 令和3年度定時評議員会（萌葱の郷 法人本部）

議案

- 第1号議案 社会福祉法人萌葱の郷令和2年度決算の承認について
- 第2号議案 社会福祉法人萌葱の郷定款変更について
- 第3号議案 社会福祉法人萌葱の郷新役員の選任について
- 第4号議案 その他

6月26日 令和3年度第2回理事会（萌葱の郷 法人本部）

議案

- 第1号議案 社会福祉法人萌葱の郷理事長及び業務執行理事の選任について
- 第2号議案 社会福祉法人萌葱の郷評議員選任・解任委員の選任について
- 第3号議案 社会福祉法人萌葱の郷経理規程の改定について
- 第4号議案 社会福祉法人萌葱の郷クレジットカード取扱規程の制定について
- 第5号議案 その他

11月15日 令和3年度第3回理事会（萌葱の郷 法人本部）

議案

- 第1号議案 めぶき園空調機器の入替工事について
- 第2号議案 なごみ園の土地購入について
- 第3号議案 その他

令和4年

3月29日 令和3年度第4回理事会（萌葱の郷 法人本部）

議案

- 第1号議案 令和3年度社会福祉法人萌葱の郷最終補正予算について
- 第2号議案 令和4年度社会福祉法人萌葱の郷事業計画について
- 第3号議案 令和4年度社会福祉法人萌葱の郷当初予算について
- 第4号議案 令和4年度社会福祉法人萌葱の郷事業所管理者について
- 第5号議案 社会福祉法人萌葱の郷職員就業規則の改定について
- 第6号議案 社会福祉法人萌葱の郷育児・介護休業等に関する規則の改定について
- 第7号議案 社会福祉法人萌葱の郷給与規則の改定について
- 第8号議案 その他

めぶき園事業報告

第1章 療育活動

1. 日 課

時 間	日	課
7 : 0 0		起床 (更衣、洗面、布団あげ、検温)
8 : 0 0		朝食 (与薬、歯磨き、食堂清掃) 清掃 (全体及び居室) 洗面、歯磨、髭剃、(火曜日は爪切、隔週の金曜日でリネン交換)
1 0 : 0 0		午前生産活動開始 (各課毎にミーティング) (全体行事の時は全体ミーティング)
1 1 : 5 0		午前生産活動終了
1 2 : 0 0		昼食 (与薬、歯磨き、食堂清掃)、自由時間 (毎月第3週の1週間、昼食後にコーヒータイトム実施)
1 3 : 3 0		午後生産活動開始 (火曜日はグループ別療育活動、水曜日はウォーキング、 木曜日はクラブ活動)
1 5 : 3 0		午後生産活動終了 (夏期は草取り)
1 5 : 4 5		お茶の時間
1 6 : 0 0		入浴 自由時間
1 8 : 0 0		夕食 (与薬、歯磨き、食堂清掃)
1 8 : 3 0		余暇活動 (カラオケ、ビデオ、音楽鑑賞、太鼓) 自由時間 (火曜日・おやつ 金曜日・コーヒータイトム)
2 0 : 3 0		与薬、学習 (日記、小遣い帳記入)
2 1 : 0 0		就寝準備
2 2 : 0 0		就寝

2. 生 活

(1) 食 事

<目 標>

正しい食事マナーを身につけ、健康・衛生に留意し、好き嫌いなく楽しく食べる。

<総 括>

食事の時間前になると、自ら食堂に来る利用者も多く、着席して落ち着いて待つことが出来ている。食前の手洗いは身に付きつつあるが、液体石鹸を使用しない、指先等の部分的にしか洗わないことがあるため、見守りや声かけを継続し、定着していくよう支援していく。

配膳時はアレルギーや食事量など、制限がある利用者のお膳には名札を付け、取り違えないように声かけ等の支援をすることで、自分のお膳を間違わずに取ることが出来てきている。また、1人ずつ名前を呼んでお膳を取る事で利用者同士が接触してトラブルに至ることは減少しているが、勢いよくお膳をもっていきお膳を傾けて持つ事、激しくお膳を置いて汁物をこぼす等は依然としてみられる為、今後も継続して支援していく。

食事中は、正しい姿勢で着席し、食事を摂ってもらう事で食べこぼしが減少している。しかし、床に落ちた物を拾って食べようとする事がある為、声かけ等の支援を行う。お茶を多量に飲むことや多量に注ぎコップから溢れることがあり、食べにくい状態になると手を使用して食べる、皿を舐める事がある為、今後も継続して声かけ等の支援を行う。また、状態が不安定になると皿やお膳、コップを投げる事がある為、職員が傍に付き、見守りなどの支援をしていく。

食事量は、体重等を考慮しながら白米の1杯目の量やおかわりの量を調整することで、過食や嫌いな物に手を付けないなどの偏食も改善されている。苦手な物は、職員が見守り等の支援を行いながら少量ずつ食べることで完食することが増えた。しかし、苦手な物をシンクに投げ入れる等の行為も見られる為、見守りや声かけ等の支援を今後も行う。

反芻のある利用者には、食後も職員が見守る事で吐き出す事は減少しているが、職員が離れるとゴミ箱や洗面所等に吐き出してしまうこともある為、今後も支援を継続していく。かき込むように口いっぱい頬張り、咀嚼せずに飲み込んでしまう利用者もいる為、今後も注意して見守りや声かけをしていく。また、咀嚼せずに飲み込んでしまう利用者には刻み食にして、小皿に移して少量ずつ食べるよう対応している。

冬季には温かいお茶を提供することで、好んで飲む利用者も増えており、今後も継続していく。

下膳時、「いただきます」「ごちそうさま」や「おいしかったです」など挨拶をする利用者も増えたが、残菜やゴミを捨てる際は声かけ等の支援が必要な利用者もいる為、声かけ等の支援を行う。お膳をカウンターに置く際に、カウンターの隅に置いて落としそうになることや他利用者を押しのけて置くこと等がある為、今後も支援を継続していく。

(2) 排 泄

<目 標>

失禁、夜尿、放尿を改善し、排泄後の処理を身につける。

<総 括>

ドアの開閉を強く行うことや、必要以上に開閉を繰り返すことで蝶番の部分が破損することやペーパーホルダーを外して壊してしまうこと、電気のスイッチを強く押すことや叩くことで壊してしまうことがある為、見守りや声かけ等の支援を行い、可能な限り一緒に修理に取り組んだ。

トイレのスリッパを履き替えないことや履いている室内スリッパの上から履く、裸足で入る利用者もいる為、今後も声かけ等の支援をしていく必要がある。居室やトイレに入る前の廊下、トイレ内の個室入り口でズボンを脱衣することや、トイレの床に脱いで汚してしまう利用者には都度声かけ等の支援を行っているが、依然として見られる為、今後も継続して支援をしていく。

排尿しながら便器を移動することで衣服を濡らすことや便器内に排尿や排便せずに周囲を汚してしまうこともある為、今後も声かけ等の支援を行う。

使用したい便器にこだわり、空くまで我慢して失禁してしまう利用者や他者が使用していると割り込む、他利用者がトイレに入っている際に電気を消す等でトラブルに至ることがあった為、今後も定期的に観察し、見守りや声かけ等の支援を継続していく。

トイレ誘導は日中、夜間に関わらず定期的に行っているが、居室内や中庭等のトイレ以外の場所で排尿・排便することは依然として見られており、トイレに行くが間に合わないことがある為、早めに声かけしていく等しながら継続して支援する。

トイレットペーパーを使用せずにズボンを履く、少量しか使用せずに拭き残しのある利用者もいるため、声かけ等の支援を行っている。

強いこだわりで多量にトイレットペーパーを使用することや量が少なくなると芯から無理に外そうとする利用者もいる為、トイレットペーパーが無くならないよう定期的に補充を行った。トイレットペーパーを全て巻き取り使い切る利用者もいることから、トイレ内に必要以上置かないようにしている。また、補充の記録をつけ、トイレットペーパー使用の状況をチェックしている。

トイレ使用後の手洗いは、定期的に声かけ等の支援を行った結果、身につきつつあるが、液体石鹸を使用せずに洗うことや、指先等の部分的にしか洗わないことがあるため、見守りや声かけを継続し、定着していくよう支援していく。

(3) 身だしなみ

<目 標>

衣服の乱れに留意し、爪切り、整髪、髭剃などの身だしなみを身につける。

<総 括>

上着の前後表裏が反対になっていることや下着のシャツが出た状態であること、ボタンを掛け違えている等の衣服の乱れは依然として見られている為、声かけ等の支援を今後も継続していく。また、ズボンのチャックの上げ忘れもある為、着替えの後やトイレに行った際などは特に注意して観察し、その都度声かけ等をしている。

衣服の取り扱いや交換が難しい利用者には、職員が衣服を管理することで適切で清潔な衣類を保つことが出来た。

気候などを見ながら季節に応じて、タンスの衣類を調整し、声かけ等の支援を続けた

結果、季節に合った服装をすることが定着してきている。寒暖差がある際は上着を着て調整した。また、運動などで身体を動かした際は、衣服の調節を行う必要があるため特に注意、観察し支援を行った。

同じ衣類を繰り返し着衣する、特定の衣類を身に着けない、何枚も重ね着をする等のこだわりがある利用者に対して職員と一緒に更衣を行うことや一緒に洗濯に持って行くなど声かけ等の支援を行っている。破れやほつれ、肌への感覚を気にして衣類を意図的に破ってしまい破棄することもあるため、着替えを行う、補修や交換などの素早い対応を今後も心掛ける。

髭剃りは利用者個別のものを使用し、本人に取り組んでもらうが、残しや力の加減が出来ずに出血することもあった。剃る場所を職員が声かけ、指差しなどで提示することで髭剃りの技術が身につくにつれ、今後も継続していく。

爪切りも利用者個別のものを使用し、毎週水曜日に取り組んだ。水曜日に行事等で取り組めない時は木曜日に行い爪の清潔さを保っている。切り終えた後は、かき傷にならないようヤスリで磨いている。しかし、爪を気にして触る、爪や皮をはがす、逆剥けを触るなどすることで出血する利用者もいた為、今後も継続して支援していく。

(4) 入 浴

<目 標>

洗身、洗髪、拭き取りなどの入浴技術を身につける。

① 男 性

<総 括>

入浴前、排泄の拭き残しがある人には、声かけ等の支援を継続して行った。入浴前にトイレ誘導を行うことで、浴室や浴槽内で排尿することは減少しているが、排便や嘔吐することがあった。入浴までは自らタオルや衣類などを準備し食堂や居室で過ごすことが出来ているが、時間や順番が待たずに状態が落ち着かなくこともあった。また、入浴時間になると、走って浴場に向かうことや他者を押しのけて入ろうとすることは依然として見られており、トラブルに至ることもある為、継続して支援をしていく。

入浴準備の際、衣類等の過不足や気候に合わせた衣類の選択ができていないこともある為、今後も声かけや職員と一緒に準備する等の支援が必要である。

皮膚が過敏な利用者には個別のシャンプーや石鹸、洗顔等を準備した。

スリッパを揃えて入浴に向かう利用者も増えているが、他利用者のスリッパを押しつけること等がある為、今後も声かけ等の支援を継続していく。

石鹸やリンスインシャンプー等を多量に使用することや石鹸等にこだわることは減少しており、浴槽に飛び込むことや浴槽や蛇口の水を飲むことも見られなくなってきた。洗身洗髪の際、同じ個所のみ洗い、手が届きにくい所などが不十分である利用者もいる為、声かけ等の支援を行いながら自分で洗うよう促し、足りない部分は職員が仕

上げを行った。

長時間、浴槽につかり、遊んでいる利用者には時間を区切る等をしたことで、スムーズに浴槽からでてもらうことが出来てきている。

衣類を着衣しない状態で館内に出て行くことやトイレに行くこと、髪を乾かさずに出ることもある為、今後も声かけ等を行っていく。

入浴時の観察により、皮膚の異常や怪我の早期発見・処置を行うことができた。

② 女 性

<総 括>

入浴時間まで食堂や居室で過ごすことが出来ているが、時間が待てずに状態が落ち着かないこともあった。

入浴準備の際、衣類等の過不足や気候に合わせた衣類の選択になっていないことは依然として見られる為、今後も確認して声かけ等の支援をしていく必要がある。

皮膚が過敏な利用者には個別にシャンプー等を準備している。

リンスインシャンプーを多量に使用することは、減少しているが、今後も事前の声かけなどを継続する。洗身洗髪は、丁寧に取り組めるようになってはいるが、本人の見えにくい所や手が届きにくい所は不十分であり、洗い残しや泡が残っていることもある為、声かけ等の支援を行った。拭く行為も特に背中など拭き残しがある為、今後も声かけ等の支援を継続していきながら足りない部分は職員が仕上げを行う。

下着の紐等がねじれていることや正しく着衣できていないことがあった為、声かけ等の支援で利用者自身に取り組んでもらい、手の届きにくい所は職員が行った。

道具の取り扱いについては、丁寧に取り扱うよう声かけを続けたことでドライヤーのコードの片付けなど身に付いてきており、破損することは減少している。

乾燥肌の利用者には、入浴後のクリーム塗布や化粧水使用を今後も継続していく。入浴時の観察により、皮膚の異常や怪我の早期発見・処置を行うことができた。

(5) 洗面・歯磨き

<目 標>

洗顔、手洗い、うがいや正しい歯磨きの習慣を身につける。

<総 括>

歯磨きや洗面は、磨くことや洗うことが身につくつつあるが、部分的になってしまうことがある為、丁寧に取り組むよう今後も声かけ等の支援を継続していく。

歯磨き粉のチューブに直接口をつけて歯磨き粉を食べることは減少しているが、今後も注意して管理していく必要がある。職員が毎日、仕上げ磨き用の歯ブラシを使用して仕上げ磨き、歯ブラシでの歯茎のマッサージを行った結果、歯肉の腫れや歯周病の予防ができ、清潔な口腔が保たれた。また、口腔内の状態観察により虫歯や腫れなどの異常を早期に発見することで、早目に歯科受診をすることができ、治療を行った。仕上げ磨

き後の唾液を飲み込むことは依然として見られる為、今後も支援を継続していく。

本人用のコップは毎週末に洗浄し、歯ブラシは月に1回定期的に交換した。また、毛先の破損が激しい利用者は個別に購入し、その都度交換を行っている。力を入れ過ぎて磨く利用者には個別に毛先の柔らかい歯ブラシを準備するなど個別の対応を行った。うがいも洗浄液を利用するなど、より口腔内が清潔に保たれるよう対応を行っている。義歯を使っている利用者には、毎食後や歯磨き指導時に手入れを行い、使用していない時間は洗浄液に浸け、清潔さを保った。

手洗い・うがいの励行を行い、特に活動等で外から戻ってきた際は声かけ等の支援を行ったが、液体石鹸を使用しない、指先等の部分的にしか洗わないことがあるため、不十分なところは声かけや手を添えて一緒に洗う等などの支援を今後も継続していく。

手洗い後は、液体石鹸がついていることや拭き残しがあり、濡れた状態のままであることや濡れた手を衣類で拭くことある為、ペーパータオルやタオルで拭きとるよう声かけ等の支援を継続していく必要がある。また、ペーパータオルを多量に使用することや少量しか使用せず拭けていないことがある為、適量使用するよう声かけ等の支援を行う。今後も正しい手洗い・うがいの手順を声かけ等の支援を継続していく。また、手洗いの際は液体石鹸を過度に使用する、故意に流す、顔や身体を洗う等、用途以外に使用していることもある為、今後も注意していく。

(6) 整理・整頓

<目 標>

衣類や本、私物を区別して所定の位置に片付け、居室内を清潔に保つ。

<総 括>

タンスから衣類や布団を出した状態にしていることは依然として見られている。収納する際に、乱雑に扱う、タンスに無理やり入れる、上着やズボンなどを分けずに入れていることがある為、声かけをしていくとともに職員と一緒に収納する等の支援を継続し、定期的にタンスの確認を行っていく。

着衣した衣類や汚れた衣類、濡れたタオル等をタンスに入れる利用者には声かけして専用のカゴに入れる、洗濯に出してもらうように支援している。また、汚れていない衣類を洗濯に出す利用者もいるため、洗濯物を定期的に確認し必要であれば本人に返却している。

季節ごとに衣替えを行い、季節に合わない衣服は天袋等に収納する、職員が預かって管理する等の支援をしている。気温が変わりやすい時期は細かく段階的に衣替えを行い、時間帯によって寒暖差がある時期は上着で調節してもらうようにした。

玄関の靴の放置や泥のついた靴で玄関付近が汚れることは、繰り返し声かけをしたことで減少してはいるが、今後も継続して支援を行っていく。

リネン交換は隔週金曜日に行い、天候の良い日は布団を干し、布団の清潔さを保つよ

う支援した。また、月1回畳のハイター拭きも行い、机やテレビ等の雑巾がけに取り組んだ。定期的に居室ゴミ箱のゴミを捨て、いらなくなった私物を捨てずに乱雑に置いた状態にしていることもあったため、必要かを確認しながら捨てるよう声かけ等の支援を行った。また、チラシ等を居室にためている利用者には本人に確認しながらため込まないようにした。

掃除機などを使用した際、乱雑に出し入れすることある為、丁寧に扱うよう声かけ等の支援を行いながら職員と一緒に使用し、片付けてもらう等して支援を行っている。

(7) 生 理

<目 標>

生理用品の使用方法や後始末と管理を身につける。

<総 括>

生理用品の交換・後始末が不適切な利用者にはその都度指導し、職員が生理用品を管理した。時間を決めて定期的に交換して記録に残すことで、衣類の汚れは減少しているが、生理中でもナプキンを使用していないことや終了しても付けていることがあった為、入浴時等の確認を今後も継続して支援していく。また、ナプキンを取りに来る時間が曖昧になることは依然として見られている為、今後も確認しながら声かけ等していく。ナプキンを流してしまう利用者には、流せるナプキンを使用してもらっている。

療育日誌に生理日を記入し、生理用ノートに交換の回数や時間、日数を記録し、チェック表を作成することで、職員間での引き継ぎを行い、医療機関受診の際にも資料として使用できている。

(8) 洗 濯

<目 標>

洗濯、乾燥、取り込み等の方法を身につける。

<総 括>

洗濯の手順は身につけており、洗剤の使用量は職員と一緒に取り組むことで身に付きつつある。道具の使用については、丁寧に扱うことが出来ている。洗濯物を過剰に詰め込むことや少量で回すこと、汚れがひどい衣類を手洗いせずに入れてしまうことは依然として見られている為、洗濯物を確認しながら一緒に取り組む支援を今後も継続していく。洗濯物同士の間隔をあげずに干すことで洗濯物が重なっていることやズボンの裾や上着の袖を出さずに干していることもある為、声かけ支援していく必要がある。また、乾いていない衣類を取り込むことが見られる為、今後も声かけ等の支援していく。取り込んだ後はしわを伸ばして綺麗にたたむように声かけ等の支援を継続する。

3. 生産活動

(1) 陶芸課

<利用者> 6名

<職員> 4名

<活動方針> 陶芸作業や販売を通して、各利用者の能力を伸ばし、豊かな人生の自己実現を図り、社会参加を目指して生きがいを得る。

<活動内容> ・手びねり～花器、器、皿、コーヒーカップ等

- ・タタラ成型～マグカップ、ビアカップ、フリーカップ、角皿、丸皿、豆皿等
- ・機械ろくろ～丸皿、大皿、湯のみ、小鉢、どんぶり等
- ・型抜き～箸置き
- ・土砕き～陶土再生のため、乾燥した陶土を粉状につぶす作業
- ・撥水材塗り～作品の底に撥水材を塗る作業
- ・施釉～素焼きに釉薬を付ける作業
- ・素焼きや本焼きの窯入れ・窯出し作業
- ・販売準備（底削り、値段シール貼り、梱包）
- ・立体作品等の造形表現

<成果> ・道具の修理や窯庫の整備など定期的に取り組み、エアコンフィルターや大掃除も昨年度同様継続して行った。また、不要なものを処分し、作業スペースを確保した。

- ・今年度もコロナウイルス感染拡大防止のため、各イベントの中止やこれまで来てもらっていた陶芸家の先生にも来園してもらえず、先生指導の下の造形作業を実施することができなかった。しかし、職員独自で造形に取り組むことで、利用者と共に新たな作品を作ることができた。
- ・日頃の頑張りとも成果を認め、月一回程度コロナ禍での感染予防に努めながら、気分転換のドライブやレクリエーションを行った。

<総括> ・活動開始前のミーティングで、利用者一人ひとりに作業内容と1日の流れを伝えるようにすることで、1日の見通しを持つことができた。また、終わりのミーティングでその日の頑張りや大いに褒めることで落ち着いて過ごすことが出来ている。

- ・作業に取り組むやすいように、道具の修理や棚の整理整頓に努めるとともに、不要の物を処分してスペースを確保することで、利用者の作品を飾ることが出来、制作意欲の向上につながった。また、道具の準備や片付けの声掛け、活動終了後の掃除と一緒に取り組むことで活動棟内を清潔に保つことが出来た。土練機の不調より作業を一時中断することがあったが、職員間で連携し、早期に修繕を行い作業を再開することが出来ている。
- ・窯の使い方や釉薬など専門的作業においては職員間での引継ぎを徹底して行

い、定期的に作品の焼成作業ができるようになった。また、新しい専門業者を開拓し、アドバイスをもらうことで専門的知識を得ることが出来た。

- ・今年度も継続して、素焼き時の窯出しの際に作品部分が取れているものに素焼き用接着剤を使用することで作品のロスを減らすことが出来た。
- ・今年度はコロナウイルスの影響により、各イベントの中止等で作品を展示する場所が減少したが、MOE展を開催することで作品を見てもらえる場所を確保できた。
- ・作品棚の配置を入れ替え、少しでも見学者や研修者が見やすいように整理することで興味を持ってもらえた。

(2) 手工芸課

<利用者> 8名

<職員> 5名

<活動方針> 各利用者の個性や能力を生かし、機織り作業などの活動や販売を通して、利用者との信頼関係を深め、安定した日常生活を確立し、自己実現を図る。

<活動内容> 機織り機での織物製作、加工及び販売を行う。

- <成果>
- ・機織りの作業では、適度な力加減で丁寧に織ることができる利用者が増えている。
 - ・力加減が難しい利用者には緯糸がほどけにくい、切れにくい糸を使用することで、落ち着いて作業に取り組めるようになってきている。
 - ・座席の向きやカーテンの使用、パーテーションで作業場所を分けることで集中して作業に取り組んでいる。
 - ・様々な色や素材の糸を継続して用意し、利用者が選択できる幅を広げることで、個性的で色鮮やかな作品を作ることができた。
 - ・機織りだけでなく、糸巻きや糸結び、布切りや布貼り等の作業にも昨年同様取り組んでもらった。
 - ・ミシンを使用して加工にも取り組むことで、新しい商品を作成し、販売につなげることができた。
 - ・クリスマスツリー等、季節に合わせた作品を制作することで、外部の人から購入してもらえた。
 - ・コロナの影響でイベントでの展示・販売は減少したが、MOE展を開催したことで利用者の作品を知ってもらうことが出来た。

- <総括>
- ・作業前に1日の流れを確認することで、見通しを持って作業に取り組んでいる。
 - ・今後も利用者がより落ち着いてスムーズに作業に取り組めるよう道具や作業環境を整えていく。

- ・機織りや糸巻き、糸結び、布切り等の作業以外にも利用者が興味を持ち、意欲的に取り組めるような活動を今後も検討していきたい。
- ・様々な色や素材の糸を用意し、利用者を選択してもらうことで、色鮮やかで個性的な作品を増やすことが出来ている為、加工にも力を入れ、作品の質の向上や新たな作品の制作にも取り組んでいく。また、商品の売れ筋を把握し、販売場所も拡大していきたい。
- ・MOE 展が開催され、多くの人に作品に触れてもらえる機会があった。
- ・斜めに織り込むことがある為、姿勢よく作業に取り組めるように声かけ等の支援を継続して行う。
- ・月1回のレクリエーションは、コロナの影響もあったが、テイクアウトや公園に行くなどで実施し、活動への意欲や励みにつながった。

(3) アート課

<利用者> 9名

<職員> 5名

<活動方針> 絵画・造形などの創作活動を通して感受性と表現の幅を広げる。利用者主体の自由な発想を大切にし、個性あふれる表現による作品づくりを目指す。

<活動内容> 絵画の他、モザイクタイル、段ボール、アルミホイル、木材、消しゴムなどを使用した創作活動

<成果> ・メンバーそれぞれの興味関心を考慮しながら、創作に用いる新たな素材を提案し、表現の幅を広げることができた。

- ・アトリエの整理を行い各々が落ち着いて制作に取り組める環境を整えた。
- ・県立美術館で大規模な展覧会を開催し、多くの人に作品を鑑賞してもらうことができた。また、メンバー自身も会場を訪れ、展示にふれることで日々の創作の成果を感じてもらうことができた。
- ・作品をモチーフにしたグッズ開発に取り組み、雑貨ショップ等の委託販売等により、作家としての収益と評価を得ることができた。
- ・SNSを活用し世界中に作品をPRした結果、昨年度に続き海外のギャラリーへの出展を実現することができた。
- ・JRおおいたシティ、大分銀行など県内企業とのコラボレーションイベントを開催し、多くの人にめぶき園の活動を知ってもらうことができた。

<総括> ・年間を通して落ち着いた環境の中で作品制作に取り組むことができた。今も制作意欲の向上に繋がるような素材の提案や工夫を行っていく。また、展

示会場に足を運ぶことで制作意欲の向上にもつながった。

- ・展覧会やグッズ販売を通じて、多くの人々に作品を楽しんでもらうことができた。海外のギャラリーや有名ファッションブランドのショップに展示されるなど、作品の持つ可能性の大きさに改めて気付かされた。今後もより多くの人々に知ってもらう為、情報発信を積極的に行っていきたい。

(4) ECO課

<利用者> 10名

<職員> 5名

<活動方針> 主にアルミ缶リサイクルの活動に取り組む中で、能力を伸ばし、一日の生活の充実を図る。また環境にやさしく、地域にも貢献できるような作業内容を検討し取り組むことで、地域の人との関係を深めていく。

<活動内容> アルミ缶を回収し、潰して出荷する・地域貢献活動・椎茸栽培（原木準備）

<成果>

- ・年間を通して計画的にアルミ缶リサイクルに取り組み、定期的に出荷することができた。
 - ・利用者個々の状態や特性に合わせて、作業回数やアルミ缶の量を調整した。
 - ・椎茸栽培を通じて新しい作業に取り組むことができた。
 - ・気候や季節に合わせて冷暖房を使い、作業場所や休憩場所の環境に配慮することができた。
 - ・作業の準備（道具・カゴ・軍手等）片づけをすることが継続的にできていた。
 - ・利用者にとって、心地よい作業場にする為に、活動終了後に作業場や道具の洗浄を行い、衛生面の改善を行った。
 - ・環境整備を行うことで利用者の安心・安全な場を提供することができた。
 - ・アルミ缶回収を通じて新規に行政や他事業所と連携を図ることができた。
- <総括>
- ・年間を通して利用者は落ち着いて作業に取り組むことができた。今後も継続して落ち着いて作業ができる環境作りをしていく。
 - ・アルミ缶の数を確保するため、引き続き法人内外や地域にもさらなる呼びかけを行い、より多くの方々と協力体制を強化しながら、確保・増加に繋げていきたい。
 - ・休憩棟で穏やかに過ごせるよう、個々に応じた休憩の取り方の配慮を行い、また活動時の写真やアルバム・雑誌等を準備することで、休憩時の課題行動の減少に繋がった。
 - ・夏季は、気温が高い日も多い為、休憩棟窓によしず・ミストシャワーを設置し、水分をこまめに摂ったりするなどの対応を行った。また、継続して

環境を整えていきたい。

- ・作業の内容や作業道具を見直し、環境整備や椎茸栽培の準備に取り組んだ。

4. グループ別療育活動

(1) ジャイアンツグループ

<利用者> 13名

<職員> 9名

<活動方針> 活動を楽しく行うことにより、利用者とのやり取りを通して信頼関係を深めソフトボールの技術向上を目指す。

<活動日時> 毎週火曜日 13:30～15:30

<活動場所> 犬飼グラウンド、犬飼リバーパーク、大野町運動公園、大分県社会福祉会館(夏季プール)、臼杵市総合公園

<活動内容> 準備体操、ランニング、ウォーキング、キャッチボール、バッティング、守備練習、グラウンド整備、整理体操、水泳(夏季)

<総括> ・ランニングでは、決められた時間を自分のペースでしっかりと走ることが出来ている。今後も継続していけるよう、声かけや一緒に走る等の支援を行っていく。

・キャッチボールでは相手を見ないで投げることや、投げられたボールを取らずに見逃すことがある為、今後もしっかりキャッチボールが出来るよう、声かけ等の支援を行っていく。

・キャッチボールや守備練習では、グローブを使えるようになってきている。今後は捕球後、決められた場所に送球出来るように声掛け等の支援を行っていく。

・今年はバッティング練習にも力を入れる事ができ、バットにボールをあてる事が出来るようになってきた。今後もバッティングの技術向上に努めていきたい。

・今後も各々の特性や能力、年齢、環境を考慮した上で技術指導をしていくと共に、基礎体力の維持向上や心身のリフレッシュに取り組む。

・道具の準備・片付けでは、利用者各々が自主的に動けるようになってきている。今後もグラウンド整備をより丁寧に行えるように支援していく。

・夏季は、熱中症対策のため涼しい場所でのウォーキング等、天候や気温などの環境に配慮した活動場所にて活動を行うことができた。

・夏季(8月)はタイガースと交互に大分県社会福祉会館のプールに行った。

・コロナウイルス感染予防の為、人混みを避けた活動場所を選び、熱中症等のリスクを考慮し、運動中はマスクを外して各々距離を取り活動を行った。休憩時となるべくマスクを外せるよう、人混みには行かず距離を取りなが

ら水分補給等、穏やかに過ごせている。

(2) タイガースグループ

<利用者> 20名

<職員> 10名

<活動方針> ストレッチ、動作法、ウォーキング、水泳などを通して、運動機能の向上、健康増進及び自閉症状の改善を図り、信頼関係を構築する。

<活動日時> 毎週火曜日 13:30～15:30

<活動場所> なかよしホール、犬飼体育館、犬飼公民館ホール、大分県社会福祉会館(夏季プール)

<活動内容> 準備体操、ウォーキング、ストレッチ及び動作訓練(スーパーバイザーによる指導)、水泳(夏季)

- <総括>
- ・犬飼体育館が修繕作業の為7月より使用できなくなった為、なかよしホールの使用を始めている。ホールの広さを考慮しランニングを省いてウォーキング、ストレッチ、動作法の流れで取り組んだ。
 - ・なかよしホールに変更したことで都合により、活動の終了時間が早まった事により、時間配分や活動内容の見直し、帰園時間を調整することで、帰園後も落ち着いて過ごす事が出来た。
 - ・活動内容の変更により、ランニングが無くなったが、以前より使用していたBGMを使うことで混乱することなく落ち着いた取り組みが出来た。
 - ・活動終了後、使用会場の清掃(モップがけ)は時間配分を工夫することで清掃にも丁寧に取り組むことができた。また、使用会場の換気や消毒を徹底し、コロナウイルス感染予防にも努めた。
 - ・今年度も多くの職員が動作法の研修を受講している。療育活動中も阿部京子先生の指導のもと、個々の利用者に応じた動作法の活動を実施した。
 - ・夏季(8月)は、ジャイアンツと交互に大分県社会福祉会館のプールに行き、楽しく活動に取り組んだ。トイレ誘導も定期的に行い、失禁などのトラブルもなかった。
 - ・なかよしホールを使用し始めたことで、夏季(7月～9月)は、その日の暑気に応じて、空調設備の使用が可能になった。また、活動内容をドライブに変更するなど体調面に配慮した。
 - ・利用者の体力や年齢に応じた活動内容を今後も検討・提案していく。

5. ウォーキング活動

(1) グループ1

<利用者> 10名

<職員> 5名

<活動方針> 四季折々の景色を楽しみながらウォーキングに取り組み、個々の健康増進と情緒の安定を図る。

<活動日時> 毎週水曜日 13:30～15:30

<活動場所> 犬飼リバーパーク、大野町総合運動公園、臼杵市総合運動公園、師田原ダム、大辻公園、めぶき園近郊

<総括>

- ・晴天時にはめぶき園近郊を歩くことで長距離のウォーキングに取り組み、利用者の体力の維持向上に繋げることができた。
- ・今年度は新たに利用者が増えたが、大きなトラブル等なくしっかりと歩くことができています。
- ・コロナウイルス感染予防の為、人混みを避けた場所を選んで活動した。
- ・雨天時は活動できる場所が限られた為、今後は雨天時でも活動できる場所を新たに探していく必要がある。
- ・夏季時は日陰や涼しい場所で活動を行い、水分や塩分補給にも配慮するなど熱中症対策にも努めた。今後も利用者の体調を十分に把握しながら継続していきたい。
- ・今後も年齢や利用者一人ひとりの体力や状態を考慮し、休憩時間の確保や各利用者のペース配分を行っていきながら、健康増進と心身のリフレッシュに努めていく。

(2) グループ2

<利用者> 10名

<職員> 5名

<活動方針> 四季折々の景色を楽しみながらウォーキングに取り組み、個々の健康増進と情緒の安定を図る。

<活動日時> 毎週水曜日 13:30～15:30

<活動場所> 犬飼リバーパーク、臼杵市総合運動公園、大野町運動公園、用作公園、道の駅あさじ（トイレ休憩）

<総括>

- ・季節や天候を見て行き場所を変えることで、楽しみながら身体の活性をはかり活動に参加することができた。
- ・夏季は歩く距離を短くしドライブに切り替えたり、塩飴・お茶を多めに用意し体調面に配慮したりと、熱中症対策を十分に行って活動に取り組むことができた。
- ・別グループと合同になることもあったが、利用者同士のトラブルを避ける為配車を考慮しトラブルなく過ごすことが出来た。またドライブ移動中もストレスなく過ごせるように気分転換を図った。

- ・利用者の様子や体力を考慮しながらペース配分を考えて歩く等、落ち着いて活動に参加できるように努めていきたい。
- ・出発時にトイレ誘導を行うことで、移動中に急遽トイレを探すことなく、目的地まで移動することができた。今後も継続して移動前のトイレ誘導を徹底して行っていきたい。
- ・感染予防の為限られた場所での活動になったが、今後も体力作りや健康増進に努める為、安全かつ安定して歩くことができる場所や活動内容・ペースを検討していく。
- ・車内の換気を行い、感染予防に今後も努めていく。

(3) グループ3

<利用者> 13名

<職員> 8名

<活動方針> 外の空気にふれる事で心身共にリフレッシュしながら、ウォーキングに取り組み、個々の健康増進と情緒の安定を図る。

<活動日時> 毎週水曜日13:30~15:30

<活動場所> 犬飼リバーパーク、臼杵市総合運動公園、大野町総合運動公園

- <総括>
- ・利用者個々のペース配分を考えて歩くことで落ち着いて参加でき、体力の増進や健康維持に繋がった。
 - ・外の景色を見ながらウォーキングする事で、心身ともにリフレッシュすることができた。
 - ・夏季は体調面に配慮してドライブに切り替える等、臨機応変に対応した。
 - ・配車の都合で別グループと合同になることがあったが、トラブルなく過ごすことができた。利用者の様子や体力を考慮しながらペース配分を考えて歩く等、落ち着いて活動参加できるように努めた。
 - ・コロナウイルス感染予防の為、人混みを避けた活動場所を選んだ。
 - ・気候に合わせて歩く距離を伸ばす事で、体力向上に努めた。

6. クラブ活動

(1) スポーツクラブ

<利用者> 9名

<職員> 5名

<活動方針> ランニングや登山を中心に楽しく活動に取り組むことにより、心身を鍛え、健康増進と体力の向上を目指すとともに、豊かな生活、自己実現を図る。

<活動日時> 毎週木曜日13:30~15:30

<活動場所> 犬飼リバーパーク、大野町総合運動公園、用作公園、師田原ダム、大辻公園、

白杵市総合運動公園、佐野植物公園

〈活動内容〉 グラウンドでのランニング、ウォーキング

- 〈総括〉・大野町総合運動公園のランニングコースを中心とする長距離のランニングに重点をおいて取り組んだ結果、持久力の維持向上に繋げることができた。
- ・今年度はランニングを中心に活動に取り入れた。今後は利用者がより意欲的に取り組むことができるような活動内容を考えるとともに、体力の維持向上にも繋げていきたい。
 - ・今年度はコロナウイルスの影響でマラソン大会が中止となり、日ごろの成果を発揮する場を設けることができなかったが、来年度以降も大会への参加を目標に活動に取り組んでいく。
 - ・活動へ意欲的に参加し、ペース配分を考えながら最後まで走り切れるようになってきているので、今後は個々に応じたタイムを設定するなど目標を持って取り組むことができるようにしていきたい。
 - ・今後も陸上記録会強化選手に選出される利用者を増やしていけるように、日ごろの活動に取り組んでいきたい。
 - ・夏季は体調等を考慮し、熱中症予防の為に塩飴を提供した。また、活動内容や場所など臨機応変に対応した。
 - ・今年度はコロナウイルスの影響で中止となったが、今後も風船バレー大会に参加し、他施設とも交流することができる機会を設けていきたい。

(2) 美術クラブ

〈利用者〉 10名

〈職員〉 7名

〈活動方針〉 絵画制作や工作等を楽しむことを通して、感受性と表現の幅を広げる。

〈活動日時〉 毎週木曜日 13:30～15:30

〈活動場所〉 めぶき園食堂内

〈活動内容〉 モザイクタイル貼り、絵画（ペン画、鉛筆画、クレヨン画）、花紙貼り、ぬり絵

- 〈総括〉・利用者一人一人がモザイク・絵画・花紙貼り等で意欲的に制作に取り組むことができた。また、一人一人の制作状況、興味・関心毎に沿いながら新たな素材を提案することで、作品制作の幅を広げられた。
- ・利用者が意欲的に取り組めるために本人のニーズに添った素材を提供した。
 - ・感染症予防の為に室内の換気を行い健康面に留意し活動を行った。
 - ・活動中は過度な声掛けを控え、利用者自らのタイミングや自身の中から生まれる気持ちを優先し、落ち着いた環境の中での作品制作が行えるように努めた。
 - ・作品が完成した際は、職員と利用者で喜びと達成感を共感し合い、次の意欲へ

と繋がるよう努めた。今後も利用者一人一人に合った作品制作の場となるよう努めていきたい。

(3) ウォーキングクラブ

〈利用者〉 15名

〈職員〉 7名

〈活動方針〉 ウォーキングを通して、健康増進と情緒の安定を図る。

〈活動日時〉 毎週木曜日 13:30～15:30

〈活動場所〉 臼杵市総合運動公園（野球場周辺、テニスコート周辺）、大野町総合運動公園

〈活動内容〉 ウォーキング

〈総括〉・今年度は、臼杵総合運動公園や、大野町総合運動公園を中心にウォーキングに取り組んだ。広い運動公園を歩くことで、長い距離を歩くことが出来た。活動場所が前年度より少なくなったが、特定の場所で活動することで見通しを持ってウォーキングに取り組むことができた。

- ・雨天時や気温の高い日はドライブであったが、活動を実施することができた。
- ・夏季の暑さが厳しい時は、水分補給や塩分補給を積極的に行った。
- ・コロナウイルス感染予防の為、利用客の多い場所を避けて活動に取り組んだ。公園内でも人が多い際は歩く場所を変更することで人混みを避けて活動を実施することができた。
- ・前年度から利用者が2名増えたが、移動のバス車内の席やウォーキング中の利用者間の距離に気を配る等、利用者同士のトラブルが起らないよう配慮している。
- ・感染予防の為限られた場所での活動になったが、運動量が少なくならないように活動内容やペースを検討していく。

(4) 太鼓クラブ

〈利用者〉 4名

〈職員〉 2名

〈活動方針〉 全身で演奏する楽しさと爽快感を得ると共に、正しい姿勢による体幹の維持、ストレス解消と集中力の持続による情緒の安定を図る。

〈活動日時〉 毎週木曜日 13:30～15:30

〈活動場所〉 なかよしホール

〈活動内容〉 太鼓演奏の基礎から段階的に練習を進めていく。

〈総括〉 補助金申請をしていた為、太鼓の購入が秋以降になってしまったことや職員の不足等により、今年度はまともに活動することが困難な状況であった。来年度は本格的に始動し、しっかりと練習を進めていきたい。

7. 余暇活動

(1) 基本方針

様々な余暇活動を経験することにより楽しみを見つけ、自由時間を1人または皆で有意義に過ごす。

<学 習>

活動方針 実際の生活に役立つ金銭の計算の習得と計算機の基本的な使い方の習得を目指す。また1日の出来事を日記帳に記す。

メンバー 学習：1名 日記：4名

担当者

活動内容 夕食後や余暇活動終了後の空いた時間を利用し、各自専用の計算機と小遣い帳を使い、用意したレシートを用いて支出計算を行う。また1日の出来事を日記帳に記入する。漢字の練習に取り組む。

総 活 職員と共に一日の出来事を確認しながら振り返り、各自毎日取り組む事ができた。また、レシート品目の転記と電卓を使つての収支計算は正確にできており、違算は殆ど見られなかった。声掛けを行うことで丁寧に取り組むことが出来ているが、時折、書き方が雑になることもあった為、継続して職員が指導しながら取り組みを行った。

<カラオケ>

活動方針 カラオケを通して気分転換を図り、歌うだけでなく踊ることや聴くことで楽しい余暇の時間を過ごす。

メンバー 希望利用者全員

担当者

活動内容 夕食後にカラオケ機材を用いて希望があれば随時行う。

総 活 今年度も利用者からの希望が多く、随時実施することができた。普段の余暇活動に参加しない利用者も自ら参加する姿がみられたり、カラオケには参加しないが他利用者の歌う姿を見て体を揺らしたり手拍子をするなど、楽しむ姿が見られた。カラオケ機械の更新がうまくできない事もあり、歌いたい曲が検索できない事もあったため、今後も定期的に更新し利用者の歌いたい曲が歌えるようにしていく。

<太鼓クラブ>

活動方針 全身で演奏する楽しさと爽快感を得ると共に、正しい姿勢による体幹の維持、ストレッチ解消と集中力の持続による情緒の安定を図る。

メンバー 希望利用者全員

担当者

活動内容 夕食後に、和太鼓演奏を行う。

総括 演奏経験のある職員のもと、楽しく太鼓演奏を行い、基礎から段階的に練習を進めていき、将来的に成果発表の場としてイベント等で演奏する機会を設けていきたい。

8. 行事（レクリエーション）

<花見>（令和3年4月7日）

・目的 利用者、職員で花見をしながら食事をし、親睦を深める。

・参加者 利用者33名、職員28名

・場所 めぶき園

・費用 材料費 ￥120,582

消耗品・おやつ代 ￥4,772

総額 ￥125,354

<5月レクリエーション>（令和3年5月19日）～コロナウイルス感染症により運動会中止の代替

・目的 日頃の労をねぎらい、心身のリフレッシュを図る。

・参加者 利用者33名、職員22名

・場所 めぶき園（ドライブ・映画鑑賞）

・費用 弁当代 ￥54,000

DVDレンタル料 ￥1,000

おやつ代 ￥6,213

総額 ￥61,623

<6月レクリエーション>（令和3年6月16日）～ゆうあいスポーツ大会中止の代替

・目的 日頃の労をねぎらい、心身のリフレッシュを図る。

・参加者 利用者33名、職員18名

・場所 めぶき園（ドライブ・映画鑑賞）

・費用 昼食代 ￥58,090

DVDレンタル料 ￥1,000

おやつ代 ￥6,311

総額 ￥65,401

<8月レクリエーション> (令和3年8月26日)

・目的 日頃の労をねぎらい、心身のリフレッシュを図る。

・参加者 利用者32名、職員14名

・場所 めぶき園 (ドライブ・映画鑑賞)

・費用 昼食代 ￥45,330

DVDレンタル料 ￥1,000

おやつ代 ￥5,148

総額 ￥51,478

<バーベキュー> (令和3年9月24日) ~一泊旅行の代替

・目的 利用者、職員でバーベキューを楽しみ、花火をしながら心身のリフレッシュと親睦を深める。

・参加者 利用者33名、職員20名

・場所 めぶき園

・費用 材料費 ￥101,901

おやつ代 ￥5,630

総額 ￥107,531

<ハイキングレクリエーション①> (令和3年10月28日)

・目的 マナーを守って行動し、日頃の運動の成果を発揮すると共に心身のリフレッシュを図る。

・参加者 利用者11名、職員9名

・場所 志高湖・七瀬川自然公園

・費用 昼食代 ￥11,200

おやつ代 ￥2,220

総額 ￥13,420

<ハイキングレクリエーション②> (令和3年10月28日)

・目的 マナーを守って行動し、心身のリフレッシュを図る。

・参加者 利用者10名、職員6名

・場所 岡城址・大野町総合運動公園

・費用 岡城址入園料 ￥4,800

弁当代 ￥10,920

おやつ代 ￥4,885

総額 ￥20,605

<ハイキングレクレーション③> (令和3年10月28日)

・目的 日頃の活動の成果を発揮すると共に、心身のリフレッシュを図る。

・参加者 利用者13名、職員12名

・場所 道の駅うめ・風連鍾乳洞・道の駅みえ

・費用 風連鍾乳洞入園料 ￥17,500

昼食代 ￥19,560

おやつ代 ￥5,366

総額 ￥42,426

<ジャイアンツレクレーション> (令和3年11月25日)

・目的 団体行動のマナーを守って行動し、心身のリフレッシュを図る。日頃の練習の成果を試す。

・参加者 利用者13名、職員9名

・場所 バッティングセンターZIP・焼肉なべしま・カラオケ

・費用 バッティング代 ￥6,000

昼食代 ￥33,000

カラオケ代 ￥18,150

おやつ代 ￥962

総額 ￥58,112

<タイガースレクレーション> (令和3年11月25日)

・目的 団体行動のマナーを守って行動し、心身のリフレッシュを図る。

・参加者 利用者20名、職員14名

・場所 とよ常本店・大分農業文化公園

・費用 昼食代 ￥49,380

高速道路通行料 ￥4,270

おやつ代 ￥2,580

総額 ￥56,230

<クリスマス・忘年会> (令和3年12月17日)

・目的 マナーを守って行動すると共に、季節の行事を感じ、一年を振り返る。

・参加者 利用者34名、職員24名

・場所 焼肉ダイニングJUJU・めぶき園(カラオケ)

・費用 昼食代 ￥150,191

おやつ代(焼き菓子) ￥16,853

クリスマス飾付け ￥2,251

総 額 ￥169,295

<新年会> (令和4年1月19日)

- ・目的 新年を迎えるにあたり、一年の健康等を祈願し、慶びを分かち合う。
- ・参加者 利用者33名、職員26名
- ・場 所 春日神社・めぶき園
- ・費用 昼食代 ￥85,500
おやつ代 ￥7,840
御祈願費用 ￥10,000
総 額 ￥103,340

<2月レクリエーション> (令和4年2月16日) ~課レクの代替

- ・目的 利用者、職員でゲームをして楽しみながら、心身のリフレッシュと親睦を図る。
- ・参加者 利用者33名、職員25名
- ・場 所 めぶき園
- ・費用 昼食代 ￥58,000
ゲーム費用 ￥6,010
おやつ代 ￥11,969
総 額 ￥75,979

<合同レクリエーション> (令和4年3月16日)

- ・目的 日頃の労をねぎらい、心身のリフレッシュを図る。
- ・参加者 利用者34名、職員24名
- ・場 所 めぶき園 (ドライブ・映画鑑賞)
- ・費用 食材代 ￥70,200
DVDレンタル料 ￥1,000
おやつ代 ￥20,100
総 額 ￥91,300

第2章 給 食

1. 総 括

献立作成は、栄養基準量や食品構成に基づき実施した。肉、魚、卵をバランスよく取り入れた献立を作成し、味つけや切り方など工夫し調理を行った。その結果、今年度も残菜はほとんど見られなかった。揚げ物を揚げ焼きにするなど、脂質摂取量を抑える調理の工夫もし

ている。今年度アレルギー対応者2名、刻み食対応者5名。

行事食は、誕生会（毎月）・バイキング（行事のない月）、クリスマス会、新年会も実施。おやつは、月・火、木、金曜日は牛乳と菓子類、水曜日はヨーグルトと麦茶。土・日曜日はジュースで実施した。夜のおやつタイムは、火曜日は菓子類、金曜日はコーヒータイムで実施した。また毎月1週のみ（月から金曜日）は昼食後にコーヒータイムを実施している。木曜日には、毎週交代で、各課どんこの里レストランに行き、自分の好きなものを注文して食事を行っている。

2. 資料

(1) 令和3年度カロリー・主要栄養素目標及び実績平均値（1日量）

	エネルギー cal	蛋白 g	脂肪 g	カルシウム mg	鉄 mg	ビタミンA レチノール	ビタミン B1 mg	ビタミン B2 mg	ビタミン C mg
目標	2.100	70.0	48.0	600	10.4	598	1.19	1.34	92
実績	1.973	79.6	68.5	495	8.7	580	1.17	1.28	91

(2) バイキング

日付	内容
4月7日	園遊会 おにぎり 焼き肉 ジュース
5月20日	筍ご飯 味噌カツ アスパラベーコン巻き 鯖の西京焼き タコ酢 ミニドック 柏餅 ちまき リンゴジュース
6月17日	エビピラフ ハンバーグ エビフライ 鰹たたき風サラダ ブルーベリームース コーラ（ミニ缶）
7月15日	あさりご飯 キス穴子天ぷら 焼きとうもろこし 鯖の塩麹焼き 冷やし茶碗蒸し
8月19日	ご飯 冷やしすまし汁 うなぎ ミニステーキ 天ぷら盛合せ 梅ゼリー
9月22日	焼肉（レク） おにぎり 焼肉 ジュース
10月21日	栗ご飯 塩焼きそば とり唐揚げ ミニハンバーグ レンコン揚げ ベーコンとほうれん草のキッシュ ゆで餅 ジュース
11月18日	ご飯 とり唐揚げ エビフライ ヒレカツ パンプキンスープ リンゴジュース 里芋プリン
12月17日	クリスマス忘年会

	(めぶき園食堂にて)
1月19日	新年会 (めぶき園食堂にて)
2月24日	イクラのせちらし寿司 海鮮サラダ 甘鯛の西京焼き エビカツ カニ風味磯辺天 とりカツ 味噌汁 桜もち
3月18日	ガーリックライス コーンスープ 仔羊のロースト盛合せ 焼きタン ハンバーグ・オ・フロマージュ ナポリタン たっぷり野菜の付合せ 里芋のプリン・ハチミツとシナモンの香り添え

(3) 誕生日会

日付	内容
4月22日	ご飯 エビフライ ローストビーフサラダ コーンポタージュ ゼリー ジュース
5月27日	ご飯 ステーキ 野菜サラダ コーンポタージュ ショートケーキ ジュース
6月24日	ご飯 ステーキ 野菜サラダ コーンポタージュ プリン ジュース
7月29日	ご飯 ステーキ 野菜サラダ コーンポタージュ プリン ジュース
8月25日	ご飯 ステーキ 野菜サラダ コーンポタージュ プリン ジュース
9月16日	ご飯 エビフライ ビーフかつ 野菜サラダ コンソメスープ プリン ジュース
10月14日	ご飯 ハンバーグ スパゲティサラダ コーンポタージュ プリン ジュース
11月24日	ご飯 ハンバーグ マカロニサラダ コーンポタージュ プリン ジュース
12月23日	ご飯 ステーキ チキンフリット 野菜サラダ コーンポタージュ ショートケーキ ジュース
1月27日	ご飯 エビフライ ヒレカツ スパゲティサラダ コーンポタージュ ゼリー ジュース
2月17日	ご飯 ステーキ 野菜サラダ コーンポタージュ プリン ジュース
3月31日	ガーリックライス シーフードサラダ 羊のロースト エビフライ とり唐揚げ コーンスープ みたらし団子 りんごジュース

第3章 医療・保健衛生

1. 定期検診及び検査

《 内科検診 》年2回実施

(内容) 一般診察・検尿・血圧測定

(対象) 利用者全員

日付	実施医療機関	利用者
令和3年8月5日	博愛診療所	32名
令和4年2月7日	長尾 医師	32名

《 血液検査 》

(内容) 血液一般、生化学

(対象) 利用者全員

日付	実施医療機関	利用者
令和3年10月29日	地域保健支援センター	32名

《 胸部レントゲン検査 》

(対象) 利用者全員、日付	実施医療機関	利用者
令和3年10月29日	地域保健支援センター	32名

《 婦人科検診 》

日付	実施医療機関	利用者	検査内容
令和3年12月	みえ病院	女性利用者4名	子宮(下腹部)エコー
令和4年1月	安達産婦人科		乳腺エコー

《 上部消化管内視鏡検査(胃カメラ) 》

日付	実施医療機関	利用者
令和3年4月 ～令和4年3月	大久保内科外科(内視鏡)クリニック	36歳以上で保護者の同意が得られた利用者

《 貯水槽清掃及び上水水質検査 》

令和4年1月31日貯水槽清掃、令和4年2月4日上水水質検査実施 異常なし
簡易水質検査毎日実施 異常なし

《 厨房職員便細菌検査 》

日 付	職 員
2021年 4月5日	6名
5月10日	5名
6月7日	5名
7月5日	5名
8月10日	5名
9月6日	5名
10月11日	5名
11月8日	6名
12月6日	6名
2022年 1月11日	6名
2月7日	6名
3月7日	6名

全員異常なし

2. 健康管理

《 歯科検診及び治療 》

月に2回、どんこの里と合同で高橋歯科医院（大分市都町）を受診している。昨年度よりそれとは別の日にめぶきの利用者のみで受診する日も設けた。また利用者の特性に応じて大分県口腔保健センター（大分市王子新町・大分県歯科医師会館内）を利用している。医療機関を使い分けながら利用者32名全員が年に1回以上の歯科検診が受けられるよう配慮している。

《 検 温 》

毎朝、朝食前に全員検温を実施している。有熱者は職員ミーティングで報告・経過 観察した。昨年度から今年度も新型コロナウイルスの流行があり、感染症対策マニュアルに沿って普段以上に慎重に対応している。

《 体重測定 》

毎月1回、測定・記録し、必要に応じて食事量の調整等行っている。

3. 衛生管理

《 居室や施設内の清掃・消毒 》

毎朝居室ドアノブや館内の窓など消毒・清掃している。毎月第3土曜日は居室内の

イター拭きを行うなど、衛生的な環境整備に努めた。

《 寝具の日光消毒 》

天気のいい日は出来るだけ実施し、1人で行えない利用者の場合職員が介助している。

4. 看護記録

《 看護日誌 》

体調の悪い利用者の健康状態を記録することで、経過的に状態を把握・対応できるよう努めた。

《 服薬 》

服薬内容は個別にファイリングし、お薬手帳でも管理している。変更があった際は、その都度療育日誌に記録したり職員ミーティングで報告したりすることで服薬間違いがないよう努めた。

《 女性利用者の生理 》

療育日誌の生理の欄に、氏名と経過日を記録し状況を把握することで女性特有の健康トラブルの早期発見に努めている。

《 健康診断 》

二次健診の対象になった利用者に対しては速やかに対応し、その結果も併せて分かるようファイリングしている。

5. 総括

昨年度に引き続き、令和3年度も新型コロナウイルス感染予防対策に追われた年となった。特にコロナワクチン接種に関しては、1年のうちに3回も接種するという異例の事態となり、ご家族の皆様にはご心配をおかけしました。また日頃から外出等に関する園の方針にご理解・ご協力を賜り誠に有り難うございます。コロナ対策に限らず、利用者の高齢化や受診件数の増加など看護の課題は年々増えておりますが、皆さんがそれぞれのライフステージに合った適切なケアを受けられるよう努力していきたい。

第4章 防災関係

年	月 日	訓練種別・避難タイム	備 考
令和3年	4 / 14	防火管理委員会	次回訓練の予告
	4 / 17	安全マニュアルの確認	反省
	5 / 18	防火管理委員会	次回避難訓練の予告
	5 / 21	避難訓練（3分49秒）	避難訓練反省
	6 / 19	防火管理委員会	次回避難訓練の予告
	6 / 22	避難訓練（3分13秒）	避難訓練反省
	7 / 20	防火管理委員会	次回避難訓練の予告
	7 / 26	避難訓練（2分47秒）	避難訓練反省
	8 / 17	防火管理委員会	次回訓練の予告
	8 / 25	訓練マニュアルの確認	感染対策の為
	9 / 24	防火管理委員会	次回避難訓練の予告
	9 / 27	避難訓練（3分43秒）	避難訓練反省
	10 / 25	防火管理委員会	次回避難訓練の予告
	10 / 27	避難訓練（3分53秒）	避難訓練反省
	11 / 11	防火管理委員会	次回夜間避難訓練の予告
	11 / 16	夜間避難訓練（4分13秒）	夜間避難訓練反省
	12 / 24	防火管理委員会	次回避難訓練の予告
	12 / 28	避難訓練（2分44秒）	避難訓練反省
令和4年	1 / 19	防火管理委員会	次回避難訓練の予告
	1 / 26	避難訓練（2分53秒）	避難訓練反省
	2 / 22	防火管理委員会	次回避難訓練の予告
	2 / 25	避難訓練（2分49秒）	避難訓練反省
	3 / 21	防火管理委員会	次回総合避難訓練の予告
	3 / 30	総合避難訓練（3分02秒）	総合避難訓練の反省

※避難訓練では、「避難場所に素早く集合」を目標にし、出火場所に合わせて避難場所を食堂の外（第1避難場所）と洗濯室前（第2避難場所）に変更し行なっている。また、訓練開始時間も午前・午後と様々なパターンを想定して行った。

ほとんどの利用者は大きな混乱もなく、スムーズに避難出来るようになってきたが、こだわりで動けなくなる利用者の避難が遅れる事もあった為、職員を中心に通報連絡の放送を聞き避難誘導出来るようにしていく。また、指定された避難場所へ集まり座って点呼を待つことが出来るようになって来たので引き続き取り組んでいきたい。

第5章 家族との連携

1. 週末帰宅状況

4月3日	14名在園
4月10日	9名在園
4月17日	15名在園
4月24日	10名在園
5月1日	13名在園
5月2日	15名在園
5月3日	19名在園
5月4日	19名在園
5月8日	14名在園
5月15日	14名在園
5月22日	11名在園
5月29日	13名在園
6月5日	13名在園
6月12日	13名在園
6月19日	13名在園
6月26日	12名在園
7月3日	13名在園
7月10日	12名在園
7月17日	15名在園
7月22日	28名在園
7月23日	26名在園
7月24日	11名在園
7月31日	13名在園

8月7日	14名在園
8月8日	12名在園
8月13日	24名在園
8月14日	11名在園
8月21日	14名在園
8月28日	31名在園
9月4日	31名在園
9月11日	13名在園
9月18日	15名在園
9月19日	21名在園
9月25日	11名在園
10月2日	13名在園
10月9日	12名在園
10月16日	16名在園
10月23日	11名在園
10月30日	17名在園
11月6日	10名在園
11月13日	14名在園
11月20日	14名在園
11月27日	15名在園

12月4日	9名在園
12月11日	15名在園
12月18日	13名在園
12月25日	14名在園
12月30日	19名在園
12月31日	4名在園
1月1日	4名在園
1月2日	9名在園
1月3日	24名在園
1月8日	17名在園
1月9日	20名在園
1月15日	12名在園
1月22日	16名在園
1月29日	10名在園
2月5日	14名在園
2月11日	27名在園
2月12日	10名在園
2月19日	15名在園
2月26日	10名在園
3月5日	13名在園
3月12日	12名在園
3月19日	15名在園
3月20日	21名在園
3月26日	13名在園

2. 家族連絡会実施状況

- ・新型コロナウイルス感染防止の為、家族会役員と協議した結果、対面での家族連絡会は控えたが、資料のみ配布を行った。

第6章 利用者の状況

1. 年齢別利用者の状況（R4.3.31）

年齢	20	22	23	33	35	37	38	39	40	41	44
男性	1	1	1	3	2	2		1	2	1	1
女性							1				
合計	1	1	1	3	2	2	1	1	2	1	1

年齢	45	46	47	48	49	50	53		合計	平均年齢
男性	1	1	3	3	3	1	1		28	40.3
女性	1	1			1				4	44.5
合計	2	2	3	3	4	1	1		32	41.2

2. 市町村別利用者の状況（R4.3.31）

	大分市	別府市	日田市	津久見市	臼杵市	杵築市	豊後大野市	由布市	佐伯市		合計
男性	18	1	1	1	3	1	1	1	1		28
女性	4										4
合計	22	1	1	1	3	1	1	1	1		32

3. 判定別利用者の状況

<療育手帳>

	A1	A2	B1	B2	合計
男性	10	16	1	1	28
女性	2		2		4
合計	12	16	3	1	32

<障害支援区分>

	6	5	4	3	合計
男性	27	1			28
女性	3	1			4
合計	28	2			32

4. 入園前の状況

	支援学校高	支援学校中	通所授産	作業所	在宅	合計
男性	7	6	4	2	9	28
女性	2	1	1			4
合計	9	7	5	2	9	32

第7章 職員研修実施状況

期 日	研 修 名	場 所	参加者
4/15～16	社福施設等新任職員研修会	大分県介護研修センター	佐藤亮太
6/2	ホスピタリティを表現する接遇マナー研修会	大分県総合福祉会館	矢野
6/4～5	社福施設等指導監督職員研修会	大分県介護研修センター	内村
6/17	九州自閉症協議会第24回大会 in 大分	iichiko 総合文化センター 音の泉ホール	能一
7/6	九州知障関係施設職員研修大会佐賀大会 (WEB)	めぶき園 (リモート)	能一・渡邊
6/23	感染症対策と予防研修会 (WEB)	めぶき園 (リモート)	神野・能一・ 内村
9/15	メンタルヘルス研修会	大分県総合社会福祉会館	高山
10/20	効果的な部下育成の実務研修会	大分県総合社会福祉会館	後藤優香
11/17	社福施設等経営支援セミナー	大分県総合福祉会館	内村
12/8	権利擁護・虐待防止とリスクマネジメント研修会	大分県総合社会福祉会館	神野
1/12	アンガーマネジメント研修会 (WEB)	めぶき園 (リモート)	能一

第8章 日中一時・ショートステイ利用状況

1. 日中一時

(1)利用人数	1名
(2)利用回数	25回
(3)利用延べ日数	25日
(4)利用者居住地域	豊後大野市1名
(5)利用者性別	男性1名、女性0名
(6)利用者年齢区分	児童（18歳未満）1名 成人（18歳以上）0名

2. ショートステイ

(1)利用人数	7名
(2)利用回数	66回
(3)利用延べ日数	417日
(4)利用者居住地域	大分市6名、豊後大野市0名、佐賀市1名
(5)利用者性別	男性6名、女性1名
(6)利用者年齢区分	児童（18歳未満）2名 成人（18歳以上）5名

令和3年度

ライフサポートセンターなごみ園事業報告

第1章 療育活動

「放課後等デイサービス事業」

1. 療育方針

- ① 発達支援 人との関係を軸にしなが、遊びや課題を通して一人一人のお子さんの発達段階に応じた支援を行います。
 - ・人とのコミュニケーションの中で自己表現方法の獲得や自立心を促していくとともに、社会的なスキルの向上をねらいとした遊びや課題内容を提示していくことによって子どもの発達を促し、行動の改善を行った。
- ② 才能援助 様々なことを経験する機会を通して、一人一人の可能性を引き出し、自己表現力や有用感を高めます。
 - ・既存の枠組みにとらわれず、利用児童の興味や関心をもとにして、文字や計算などの学習課題や、社会的なスキルの習得を目指した活動を展開した。
- ③ 家庭援助 子育てについての相談や学習会を通して、お子さんへの理解を深めながらこどもの育ちと暮らしを支援します。
 - ・子育ての相談を受けるだけでなく、なごみの会において保護者同士でお子さんの近況報告を行ったり、発達支援計画を通したりしながら親御さんと一緒に子どもの発達理解を深めた。
- ④ 地域援助 ボランティアの要請や研修会を開催し、保育園や学校などの関係諸機関との連携を密にしなが、地域でのお子さんの暮らしを支えます。
 - ・定期的に学生ボランティアを要請したり、行事を通して地域ボランティアを要請したりすることで、いろいろな人との交流を深めた。
- ⑤ 心のケア 「癒し」をテーマとしたメンタルケアを行うことで、心身の発達を促進します。
 - ・こどもの状態や周囲の生活状況などに合わせて、集団活動や課題内容を変更したり、自分の好きな事をじっくりと取り組める活動をメインにした状況をつくるなどの配慮を行った。

2. 日 課

- | | |
|----------|---------------|
| ①平日午後コース | 15時00分～17時00分 |
| ②土曜日午前 | 9時30分～11時30分 |
| ③土曜日午後 | 14時00分～16時00分 |

時 間	内 容	具 体 的 な 活 動 内 容
① 15:00 ② 9:30 ③ 14:00	登園 自由遊び 個別学習	ブランコやトランポリン、ボールプール等の大型遊具や三輪車、プラレール、積み木などの玩具を共有して遊びながら集団のルールや動作技能の習得を目指します。
① 16:15 ② 10:45 ③ 15:00	集団活動 ・芸術活動 ・制作活動・調理実習 ・課外活動・専門活動 ・リラクゼーション	工作や調理等といった技能的な課題状況や、SST プログラムを通して社会的な適応力を育てます。
① 16:45 ② 11:15 ③ 15:30	おやつ 準備・片付け	自己表出支援とともに、集団のルールに応じることや、片付け、準備などの整理意識を育てます。
① 17:00 ② 11:30 ③ 16:00	帰りのお集まり 降園	今日の活動内容や次回の活動内容の確認をすることで、自己意識や先の見通しを得る力を育みます。

内容

◎集団活動：自ら集団活動へ入っていくことで、自己意識や集団への適応意識を高め、社会適応力を身につけていく。

・強制をしなくても、回数を重ねていく中で子ども自身が流れや内容を理解し、自ら意識的に活動に入れていた。

◎制作活動：行事用の制作活動を通しながら、季節感や創作意欲を獲得していく。

・すべてのグループにおいて、同じ内容の作業に取り組んだり、リレー作業を行ったりしたことで、「なごみ園」という集団に対する帰属意識を育てることができた。

◎調理実習：生理的な欲求を自分の力で満たす経験や、準備から片づけまでの経験を得ていくことで、自立心を育てる。(ホットケーキ、やきそば、お好み焼きなど)

・お友達と一緒に調理したことで、今まで苦手だった物も食べられるようになったり、道具を揃える準備から調理、皿洗いなどのお片づけも回数を重ねる度に上手になった。また、調理場面では、自分がやりたいという自己主張が強く表れる機会も多くみられた。

◎野外活動：居住地域での適応範囲を広げる(リバーパーク、吉四六ランドなど)

・買い物や公園に出かけたり、電車に乗車する体験を行ったりすることで、こどもの居住地域における社会適応力や、保護者との行動範囲にも広がりが見えた。

◎SST (ソーシャルスキルトレーニング) : 社会生活を営む上で重要視されてくるマナーやルールを子どもたちが興味のある活動を通して学んでいった。

- ・ 子ども同士で意見を出し合う話し合いの中で、お互いに妥協点を見つけ出し、折り合いをつけていける経験を得られた。

3. 行 事・内部研修・職員会議

※新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から保護者が参加する行事は全て行われなかった。

「生活介護事業」

1、目的

利用者の自立と社会参加を図ることを目的とし、生きがいとしての生産活動や余暇的、文化的活動を提供する。

2、方針

- ① 人権と主体性を尊重し、常に利用者の立場に立って支援する。
- ② 自立した日常生活及び社会生活を営めるように支援する。
- ③ 安心感と信頼関係に基づき、チームワークによる支援を行う。
- ④ 地域や家族との結びつきを重視し、関係機関との連携に努める。

3、日課

時間	活動内容
9:00	通所・更衣
10:00	朝の会・ラジオ体操
10:10	活動開始（生産活動）※1時間ごとに10分休憩をはさむ。
12:00	昼食・休憩
13:00	活動開始（生産活動・余暇活動）
15:00	帰りの会、帰宅

4、作業の種類

アルミ缶潰し ピザ作り 和紙作り（牛乳パックカット、フィルムはがし、紙すき、ポチ袋組み立て） 絵画制作 アイロンビーズ作品制作 モザイクアート作品制作 織物 調理活動 農作業

5、社会適応訓練

月	行事
4月29日(木・祝)	コロナ感染対策の為 なごみ園内レク
5月5日(水・祝)	コロナ感染対策の為 なごみ園内レク バーベキュー
6月27日(日)	コロナ感染対策の為 なごみ園内レク ピザ
7月23日(金・祝)	イルカ島レク
8月9日(月・祝)	パルクラブ 焼肉レク
9月20日(月・祝)	コロナ感染対策の為 なごみ園内レク お弁当
10月24日(日)	別府鶴見岳ロープウェイ ランチレク
11月23日(火・祝)	アフリカンサファリレク
12月19日(日)	クリスマス会
1月10日(月・祝)	初詣レク 成人式
2月23日(水・祝)	コロナ感染対策の為 なごみ園内レク ピザ
3月21日(月・祝)	竹田パルクラブ 焼肉・温泉レク

「日中一時支援事業」

1、目的

利用者の自立と社会参加を図ることを目的とし、生きがいとしての生産活動や余暇的、文化的活動を提供する。

2、方針

- ① 人権と主体性を尊重し、常に利用者の立場に立って支援する。
- ② 自立した日常生活及び社会生活を営めるように支援する。
- ③ 安心感と信頼関係に基づき、チームワークによる支援を行う。
- ④ 地域や家族との結びつきを重視し、関係機関との連携に努める。

3、日課

時間	活動内容
15:00	活動開始(創作活動、体力づくり)
16:00	おやつ
16:50	帰りの会
17:00	帰宅

第2章 利用者の来園状況

「放課後等デイサービス事業」

	利用児数 (人)	送迎 (回)	訪問支援	開園日数 (日)	1日平均利用 (人)
4月	257	474	0	26	9.8
5月	251	440	3	25	10
6月	259	467	2	27	9.5
7月	272	490	0	26	10.4
8月	243	447	0	24	10.1
9月	208	379	6	25	8.3
10月	250	450	0	27	9.2
11月	238	434	1	25	9.5
12月	252	462	0	26	9.6
1月	180	337	0	23	6.5
2月	198	349	0	23	8.6
3月	245	435	3	27	9.0
合計	2853	5164	15	304	9.3

「生活介護事業」

	利用者数 (人)	送迎 (回)	開所日数 (日)	1日平均利用 (人)
4月	173	302	22	7.8
5月	152	298	21	7.2
6月	184	324	22	8.3
7月	178	312	22	8.0
8月	167	292	21	7.9
9月	171	296	22	7.7
10月	168	292	22	7.6
11月	172	298	22	7.8
12月	175	289	22	7.9
1月	151	262	20	7.8
2月	151	248	20	7.5
3月	217	337	23	9.4
合計	2059	3550	259	7.9

「日中一時支援事業」 ※3月よりスタート

	利用者数 (人)	送迎 (回)	開所日数 (日)	1日平均利用 (人)
3月	34	34	19	1.7
合計	34	34	19	1.7

第3章 職員の体制

「放課後等デイサービス事業」

管理者・児童発達支援管理責任者（専任）	1名		
保育士（常勤・専任）	4名	保育士（非常勤・兼務）	1名
児童指導員（非常勤・兼務）	1名	臨床心理士（非常勤・兼務）	1名
理学療法士（常勤・専任）	1名		

「生活介護事業」

管理者（常勤・専従）	1名	サービス管理責任者（常勤・専従）	1名
生活支援員（常勤・専従）	3名	生活支援員（非常勤・兼務）	4名
看護師（常勤・専従）	1名	嘱託医（非常勤・兼務）	1名

「日中一時支援事業」

管理者（常勤・専従）	1名		
生活支援員（常勤・専従）	1名	生活支援員（非常勤・兼務）	1名

第4章 地域・施設交流実施状況

「全体」

1、外部研修会（0件）

※新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から外部への研修会の参加は控えた。

2、内部研修会・内部会議（8件）

日付け	内容	参加職員
4月16日	全体職員会議	全職員
4月27日	中堅職員会議	秋月正博、橋本友紀、宮野史徳、三浦佳菜子、三宮英朗
5月7日	放課後デイサービス事業担当職員会議	秋月正博、橋本友紀、三浦佳菜子、三宮英朗
6月25日	中堅職員会議	秋月正博、橋本友紀、宮野史徳、三浦佳菜子、

		三宮英朗
9月3日	中堅職員会議	秋月正博、橋本友紀、宮野史徳、三浦佳菜子、三宮英朗
12月10日	中堅職員会議	秋月正博、橋本友紀、宮野史徳、三浦佳菜子、三宮英朗
1月21日	中堅職員会議	秋月正博、橋本友紀、宮野史徳、三浦佳菜子、三宮英朗
3月4日	全体職員会議	全職員

3、外部機関実習（0人）

※新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から外部機関の実習は控えた。

4、学生実習受け入れ（7人）

実習生氏名	受け入れ期間	学校・機関名	担当職員
前田 桃子さん	11月24日～11月30日	大分大学教育福祉課学部	秋月正博
西口 絢菜さん	11月24日～11月30日	大分大学教育福祉課学部	秋月正博
関谷 美紀さん	11月24日～11月30日	大分大学教育福祉課学部	秋月正博
村田 諒太さん	2月14日～2月19日	別府大学人間関係学科	秋月正博
長田 明希さん	2月14日～2月19日	別府大学人間関係学科	秋月正博
向 珠緑さん	3月2日～3月12日	大分保育専門学校	秋月正博
和田 萌花さん	3月2日～3月12日	大分保育専門学校	秋月正博

5、豊後大野市・竹田市巡回支援専門員派遣整備事業（5件）

件数	派遣日	派遣申し込み先	機関種類	S V資格の有無
1	9月15日	百枝小学校	小学校	あり
2	9月29日	竹田支援学校	支援学校	あり
3	10月29日	久住小学校	小学校	あり
4	12月15日	百枝小学校	小学校	あり
5	1月26日	犬飼公民館	公民館	あり

「放課後等デイサービス」

1、個別支援会議（16件）

日にち	会議内容	場所	参加者
5月25日	Y・Mさん支援会議	菅尾小学校	橋本友紀 三浦佳菜子
5月28日	A・Tさん支援会議	千歳小学校	秋月正博 橋本友紀

6月28日	N・Kさん支援会議	百枝小学校	秋月正博
7月28日	M・Kさん支援会議	三重第一小学校	秋月正博
8月2日	R・Aさん支援会議	三重東小学校	秋月正博
8月3日	N・Kさん支援会議	百枝小学校	秋月正博
8月10日	N・Kさん支援会議	百枝小学校	秋月正博
9月15日	N・Kさん支援会議	百枝小学校	秋月正博
10月7日	H・Uさん支援会議	三重中学校	秋月正博
10月28日	N・Kさん支援会議	百枝小学校	秋月正博
11月18日	N・Kさん支援会議	百枝小学校	秋月正博
11月24日	Y・Mさん支援会議	菅尾小学校	橋本友紀
12月15日	N・Kさん支援会議	百枝小学校	秋月正博
1月28日	R・Aさん支援会議	三重東小学校	秋月正博
3月15日	R・Aさん支援会議	三重中学校	秋月正博
3月28日	H・Kさん支援会議	エデュサポ大分	秋月正博

2、関係機関連携・支援（4件）

日にち	内容	場所	担当職員
5月17日	竹田支援学校先生見学	竹田支援学校	秋月正博
6月30日	T・Wさん病院受診同行	博愛病院	秋月正博
7月8日	豊後大野市自立支援協議会児童部会	豊後大野市役所	秋月正博
6月30日	S・Oさん病院受診同行	博愛病院	橋本友紀

「生活介護事業・日中一時支援事業」

1、手帳・区分調査・年金関係（2件）

日にち	内容	場所	担当職員
11月4日	赤嶺由佳さん年金申請受診同行	博愛病院	秋月正博
1月5日	赤嶺由佳さん年金申請同行	大分市年金事務所	秋月正博

2、保護者会議（4件）

日にち	内容	場所	担当職員
5月6日	生活介護保護者会	なごみ園	秋月正博・橋本友紀
7月1日	生活介護保護者会	なごみ園	秋月正博・橋本友紀
9月30日	生活介護保護者会	なごみ園	秋月正博・橋本友紀
2月24日	生活介護保護者会	なごみ園	秋月正博・橋本友紀・三宮英朗

3、支援学校生徒実習受け入れ(5回)

実習生氏名	受け入れ期間	学校	担当職員
麻生 雅貴さん	5月31日～6月11日	竹田支援学校	秋月正博 橋本友紀
深田 翔太さん	5月31日～6月11日	竹田支援学校	秋月正博 橋本友紀
芦刈 拓実さん	6月4日、11日	竹田支援学校	秋月正博 橋本友紀
麻生 雅貴さん	10月11日～10月29日	竹田支援学校	秋月正博 橋本友紀
深田 翔太さん	10月11日～10月29日	竹田支援学校	秋月正博 橋本友紀

4、看護(17回)

日にち	内容	利用者名	場所	担当職員
4月12日	血液検査	岩川日向子	阿部内科	大津留類
5月12日	血液検査	岩川日向子	阿部内科	大津留類
5月20日	定期健診・服薬調整	赤嶺由香 渡邊讓治	博愛病院	大津留類
6月2日	血液検査	岩川日向子	阿部内科	大津留類
6月4日	てんかん検査	渡邊讓治	博愛病院	大津留類
6月17日	定期健診・服薬調整	赤嶺由香 渡邊讓治	博愛病院	大津留類
8月11日	血液検査	岩川日向子	阿部内科	大津留類
9月3日	血液検査	岩川日向子	阿部内科	大津留類
11月17日	血液検査	岩川日向子	阿部内科	大津留類
12月2日	定期健診・服薬調整	赤嶺由香 渡邊讓治	博愛病院	大津留類
12月8日	血液検査	岩川日向子	阿部内科	大津留類
1月14日	血液検査	岩川日向子	阿部内科	大津留類
1月24日	肝臓検査	山本実奈	大分循環器病院	大津留類
2月3日	定期健診・服薬調整	赤嶺由香 渡邊讓治	博愛病院	大津留類
2月4日	婦人科受診	岩川日向子	阿部内科	大津留類
2月9日	血液検査	岩川日向子	阿部内科	大津留類
3月11日	血液検査	岩川日向子	阿部内科	大津留類

5、アート関連会議・関係機関連携（7件）

日にち	内容	場所	担当職員
7月9日	アトリエ MOE 展～星楽花曲～担当者会議	めぶき園	秋月正博 大津留類
8月20日	アトリエ MOE 展～星楽花曲～担当者会議	めぶき園	秋月正博 大津留類
9月10日	アトリエ MOE 展～星楽花曲～担当者会議	めぶき園	秋月正博 大津留類
10月8日	アトリエ MOE 展～星楽花曲～担当者会議	めぶき園	秋月正博 大津留類
10月15日	アトリエ MOE 展～星楽花曲～担当者会議	なかよしホール	秋月正博 大津留類 橋本今日子
10月22日	アトリエ MOE 展～星楽花曲～担当者会議	めぶき園	秋月正博 橋本友紀 大津留類 橋本今日子
12月13日	相談支援事業所ルポーズ見学対応	なごみ園・めぶき園・どんこの里いぬかい	秋月正博

6、新規事業（就労継続支援B型）立ち上げ準備（7件）

日にち	内容	場所	担当職員
4月9日	J K A補助金申請書類作成会議	法人本部	秋月正博 橋本友紀
4月28日	J K A補助金申請書類作成会議	法人本部	秋月正博 橋本友紀
5月14日	J K A補助金申請書類作成会議	法人本部	秋月正博 橋本友紀
5月21日	J K A補助金申請書類作成会議	法人本部	秋月正博 橋本友紀
6月15日	J K A補助金申請書類作成会議	法人本部	秋月正博 橋本友紀
6月16日	ホシザキ調理器具体験会	法人本部	秋月正博 橋本友紀
7月5日	J K A補助金申請書類作成会議	法人本部	秋月正博 橋本友紀

第5章 総括

事業全体を通して、新型コロナウイルス感染症の影響が大きい1年でした。放課後等デイサービス事業においては、登録児童数に変化はないものの、新型コロナウイルス感染症の関係で学校が休校になり、休校期間中はサービスの利用ができないという制限を設けたことで、昨年よりも年間で88人利用児が減少しました。また学校と家庭だけでは対応が困難なケースがあり、緊急的な対応が必要だったため、ほぼ毎月個別支援会議を開催し、安定した生活ができるようにサポートするなど、個別で対応が必要なケースに関しては丁寧な対応を心がけました。

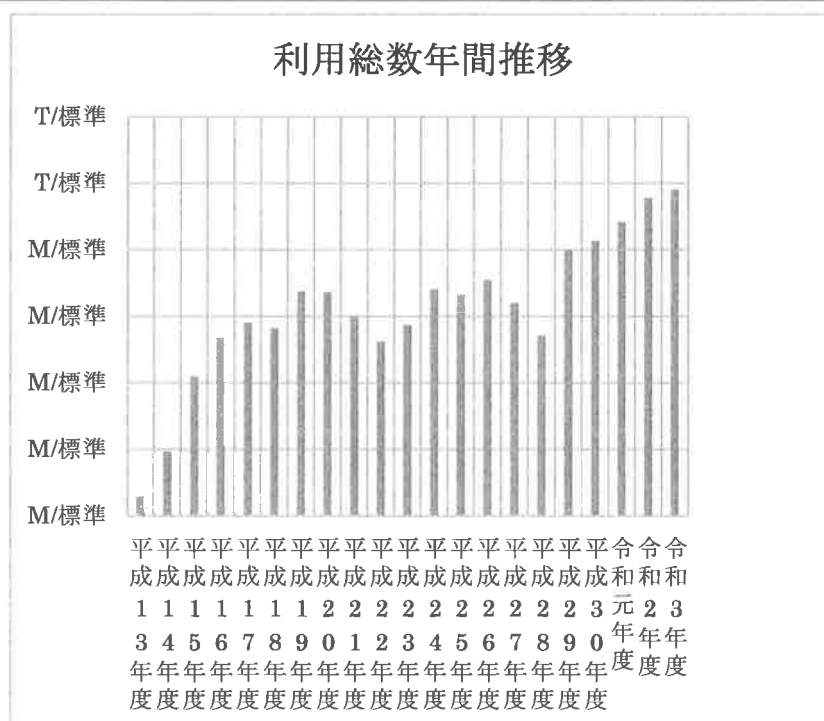
生活介護事業ですが、他施設と併行利用していた利用者より、毎日なごみ工房を利用したいという希望があり受け入れを行ったことで、年間を通して延べ218人分利用が増加しています。また、アート商品が販売される機会がかなり制限される中、全体売上げが705110円、純利益が394072円計上でき、毎月の工賃で支給している額よりも多く純利益があったことから特別賞与を夏と冬に2回利用者に支給しています。特別賞与を支給することで、利用者の中で仕事に励む意欲の向上が見られました。また支援学校の生徒の施設体験実習の受け入れを積極的に行い、高等部卒業後に通所してもらえるように、学校や家庭、利用者との関係作りに努め、令和4年より3名の新規利用者の通所がスタートします。また、11月3日～14日の間に大分県立美術館OPAMにて、めぶき園・どんこの里いぬかい・なごみ工房の3事業所の利用者の作品を展示する展覧会～星楽花曲～を開催しました。1年以上に及ぶ長期構想のもと、毎月担当職員で会議を重ね、延べ2000人を超える方が来場し大変高い評価を得ました。

3月より豊後大野市と契約をして、新たに日中一時支援サービスをスタートしました。今後、生活介護事業のサービス利用後に、在宅での対応が困難なケースに対してサービスを行っていきます。

また、令和5年4月より就労継続支援B型の事業を新たに開始するために、新施設の建築を計画しました。建築のために、補助金の申請を行うことを考え、公益財団法人JKAに補助金の交付要望を行いました。「強度行動障がいの利用者が就労・自立することを目指す建物」というコンセプトでプレゼンをし、補助金の交付が決定しました。

利用総数年間推移

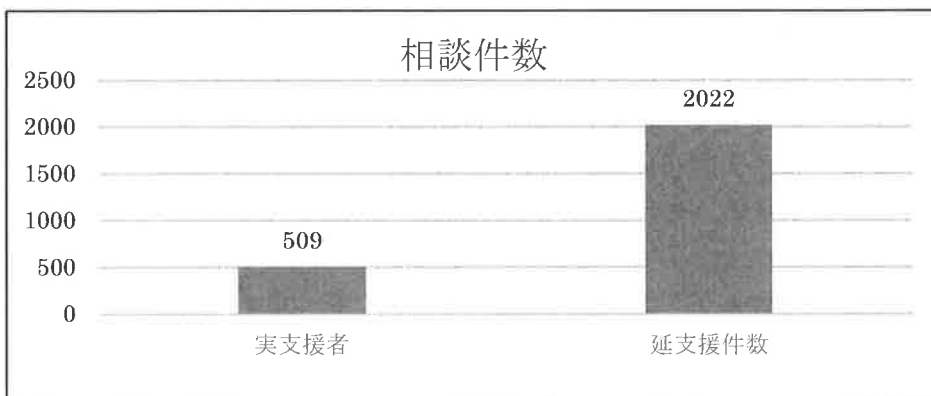
平成 13 年度	302 人
平成 14 年度	963 人
平成 15 年度	2094 人
平成 16 年度	2675 人
平成 17 年度	2906 人
平成 18 年度	2817 人 (うち日中一時が 682 回)
平成 19 年度	3374 人 (うち日中一時が 1118 回)
平成 20 年度	3373 人 (うち日中一時が 1117 回)
平成 21 年度	2997 人 (うち日中一時が 203 回)
平成 22 年度	2622 人
平成 23 年度	2873 人
平成 24 年度	3412 人
平成 25 年度	3316 人
平成 26 年度	3546 人
平成 27 年度	3201 人
平成 28 年度	2714 人
平成 29 年度	3992 人 (生活介護事業 1063 人放課後等デイサービス事業 2929 人)
平成 30 年度	4137 人 (生活介護事業 1206 人放課後等デイサービス事業 2931 人)
令和元年度	4422 人 (生活介護事業 1493 人放課後等デイサービス事業 2929 人)
令和 2 年度	4782 人 (生活介護事業 1841 人放課後等デイサービス事業 2941 人)
令和 3 年度	4912 人 (生活介護事業 2059 人放課後等デイサービス事業 2853 人)



第1章 相談支援・発達支援

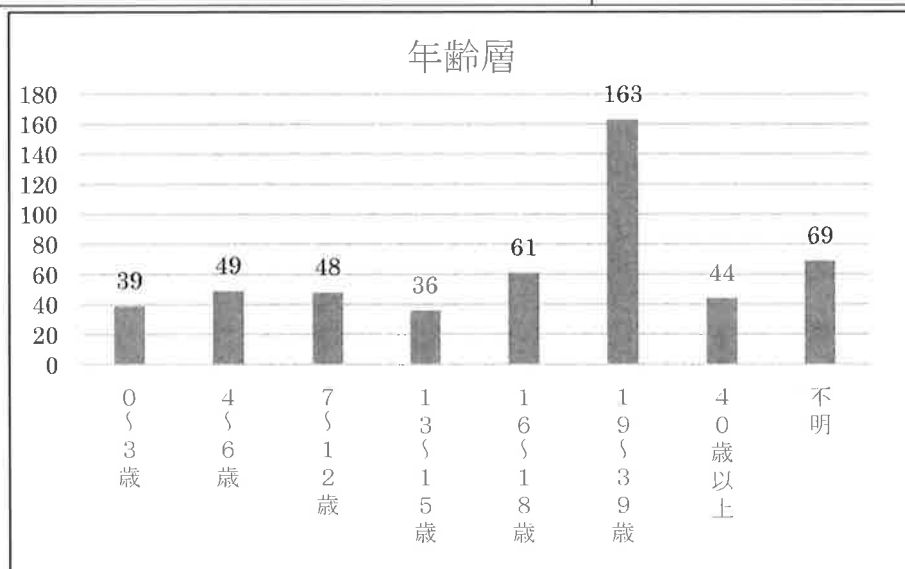
相談者数

実相談者数	509人
延べ相談者数	2022件



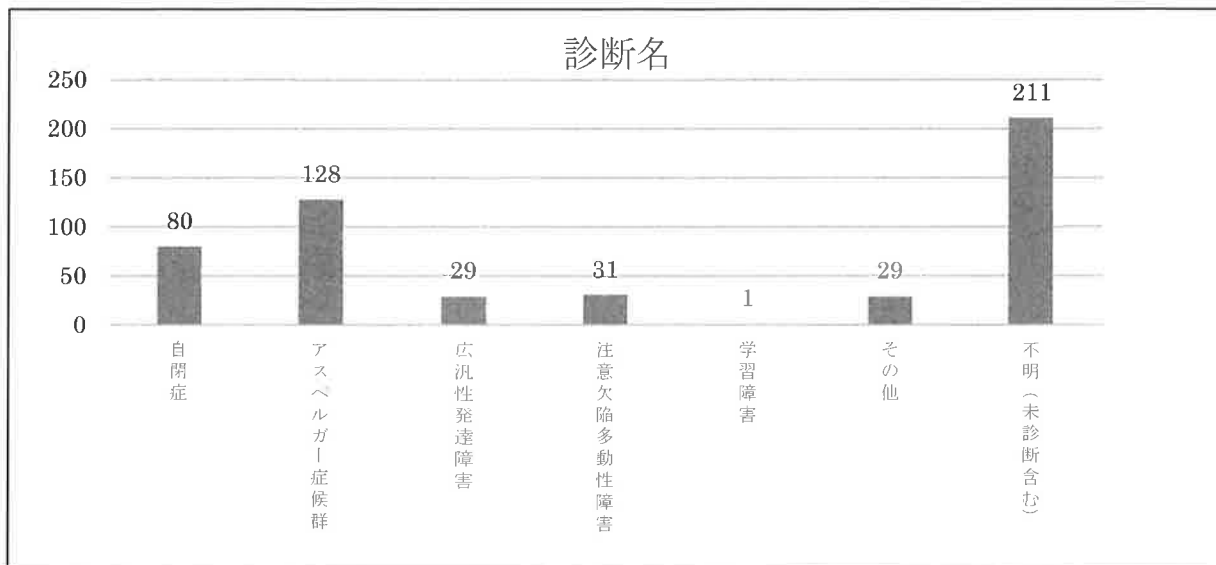
年齢層

0～3歳（幼児期前期）	39人
4～6歳（幼児期後期）	49人
7～12歳（小学生）	48人
13～15歳（中学生）	36人
16～18歳	61人
19～39歳	163人
40歳以上	44人
不明	69人



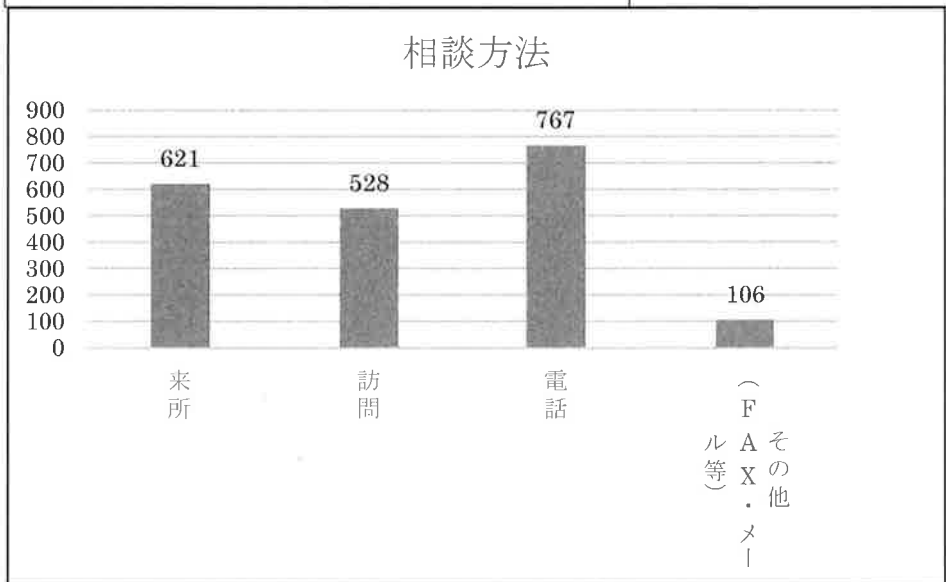
障がい種別

自閉症	80人
アスペルガー症候群	128人
広汎性発達障害	29人
注意欠陥多動性障害 (AD/HD)	31人
学習障害 (LD)	1人
その他 (発達性言語障害・協調運動障害等)	29人
不明 (未診断含む)	211人



相談方法

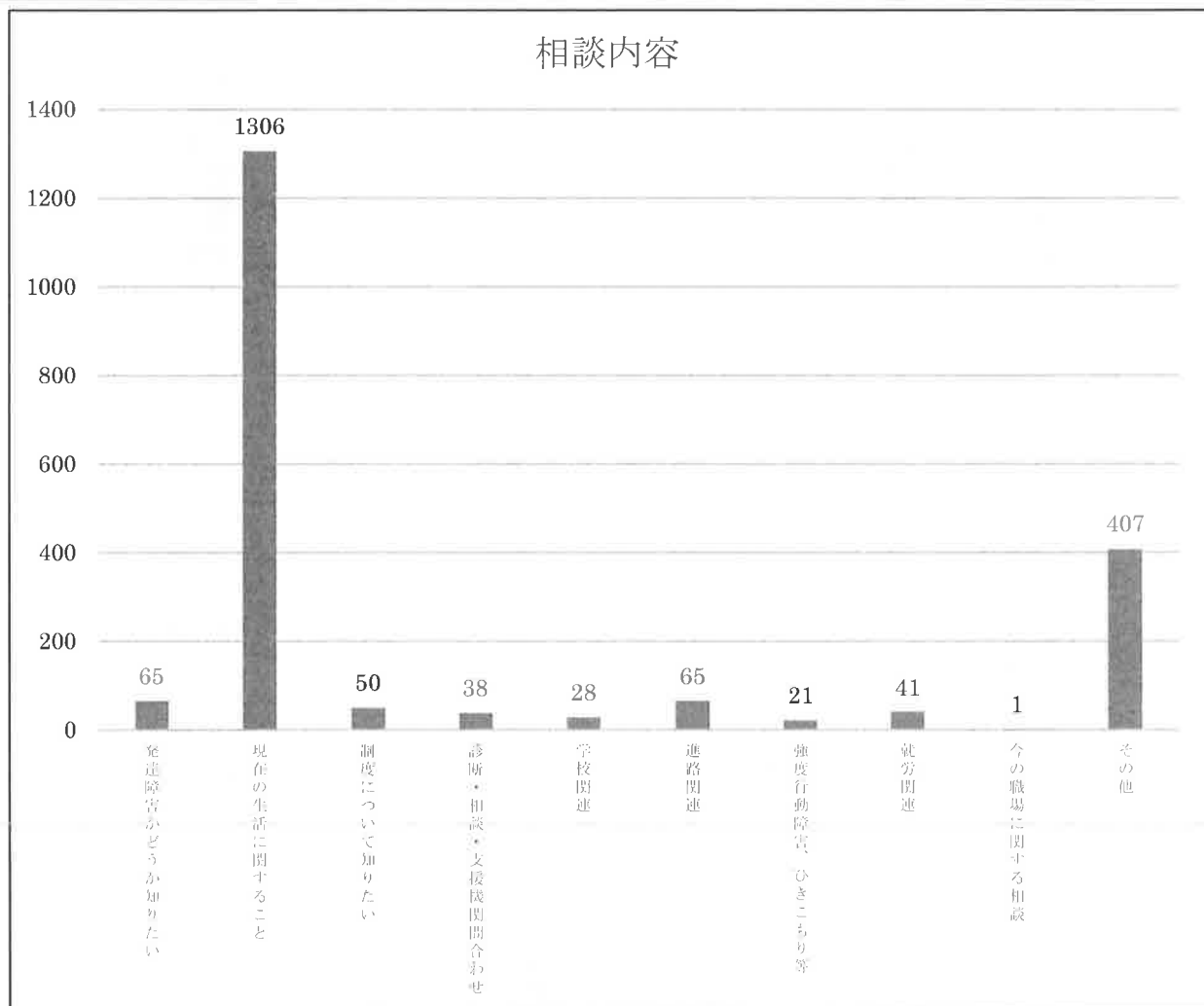
来所	621件
訪問	528件
電話	767件
その他 (FAX・メール等)	106件



相談内容

相談の対象となっている児(者)が発達障害かどうか知りたい	65件
------------------------------	-----

現在の生活に関することや、家庭で家族ができることを知りたい	1306 件
利用できる制度について知りたい（手帳、年金、手当、障害福祉サービスなど）	50 件
診断・相談・支援を受けられる機関について知りたい	38 件
現在通学している学校、利用しているサービス等に関する相談をしたい	28 件
進路や将来の生活に関する相談をしたい	65 件
対応困難な状況の改善について相談したい（強度行動障害、ひきこもりなど）	21 件
今後の就労について相談したい	41 件
現在勤めている職場に関する相談をしたい	1 件
その他	407 件



考察

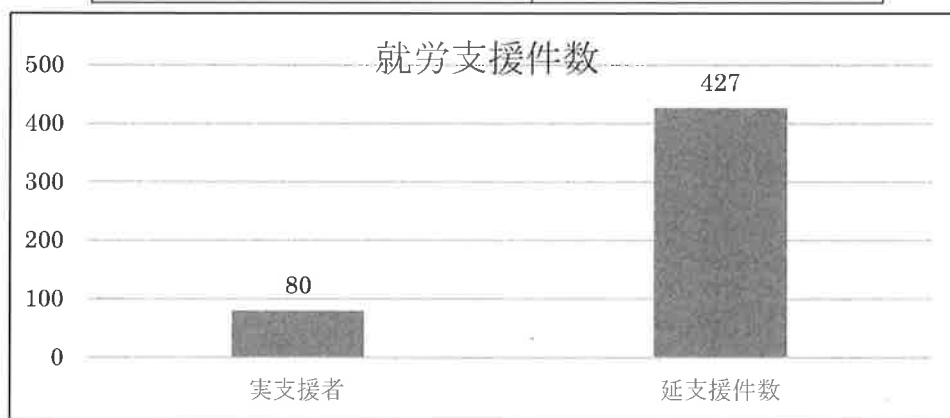
相談件数については、総数として前年度を少し上回りました。原因としては、コロナ関連でキャンセルや施設への訪問などが減っていた分が、前年度ほど消極的ではなくなったことが考えられます。コロナ禍ではあるものの、前年度ほどの混乱や自粛などが減っているように感じます。今年度の傾向としましては、相変わらず成人期の相談が増加傾向にあります。今年度、コロナウイルス感染が言われるようになり、コロナ禍と言われる年ではありましたが、相談支援においては、いくつかの変化が見られました。一つは、コロナ報道に影響され、外に出れていた人が出れなくなったり、感覚過敏などによりマスクができないことが理解されずクビになるなど、うまくいっていた人たちがうまくいかなくなったと

いうこと。そして、逆に引きこもっていた人たちが元気になるという逆のパターンも見られました。引きこもっていることへの罪悪感がなくなったのか、逆に出るようになった方もいらっしゃいました。そして、コロナウイルスの影響で最も増えた相談は、夫婦間のトラブルです。リモートや出勤停止などいろいろなコロナ対策が取られる中で、普段外で働いたり学校に行っていた親や子どもが家にいる時間が増えたことにより、普段気にならなかったところが気になる、家庭での役割の変化（「今までは家事を母がやっていたが、学校なくなったのだから家の手伝いをしなさいと言われ出した。」「父も仕事行かないで家にいるなら家のことやりなさい。」「今まであまり見てなかったから気付かなかったがよく見たら行儀が悪い。直しなさい。」）に対応できない、または「ちょっと変だと思っていたが、ずっといて明らかにおかしいところがあって調べたら発達障がいだった」などの相談が増加した。これまで、成人の発達障がいかどうかの判断において、「仕事ができている＝社会生活が送れているから診断をおろすほどではない」という考え方があったが、コロナウイルスの影響で仕事ができればよいということは言えなくなってきたところがあり、ますます発達障がいが増えることにはないかと考えられます。

第2章 就労支援

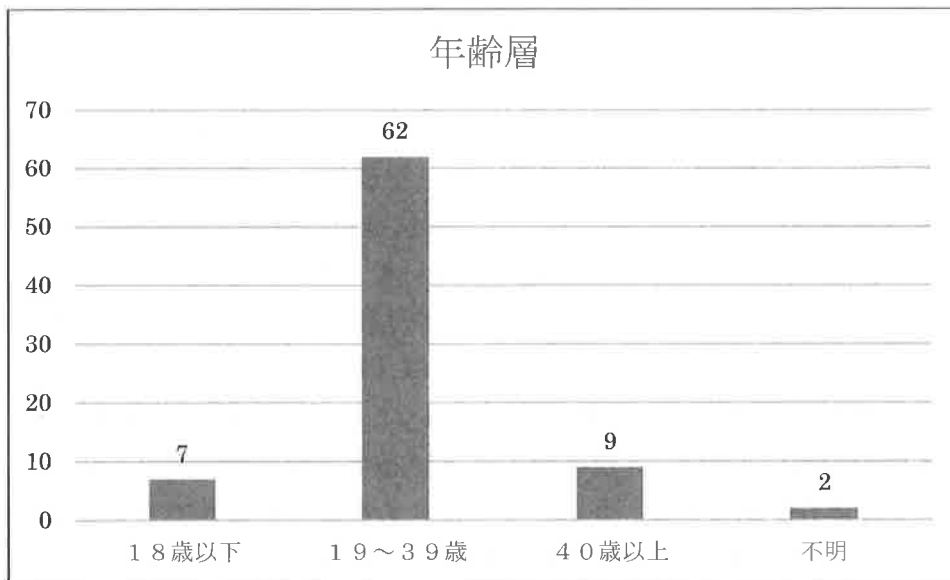
相談者数

実支援人数	80人
延支援件数	427件



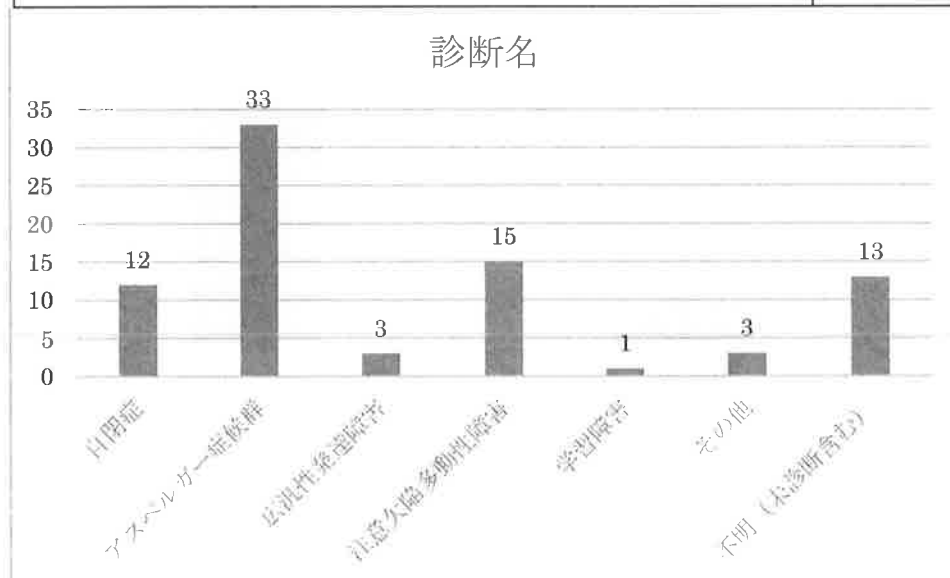
年齢層

18歳以下	7人
19～39歳	62人
40歳以上	9人
不明	2人



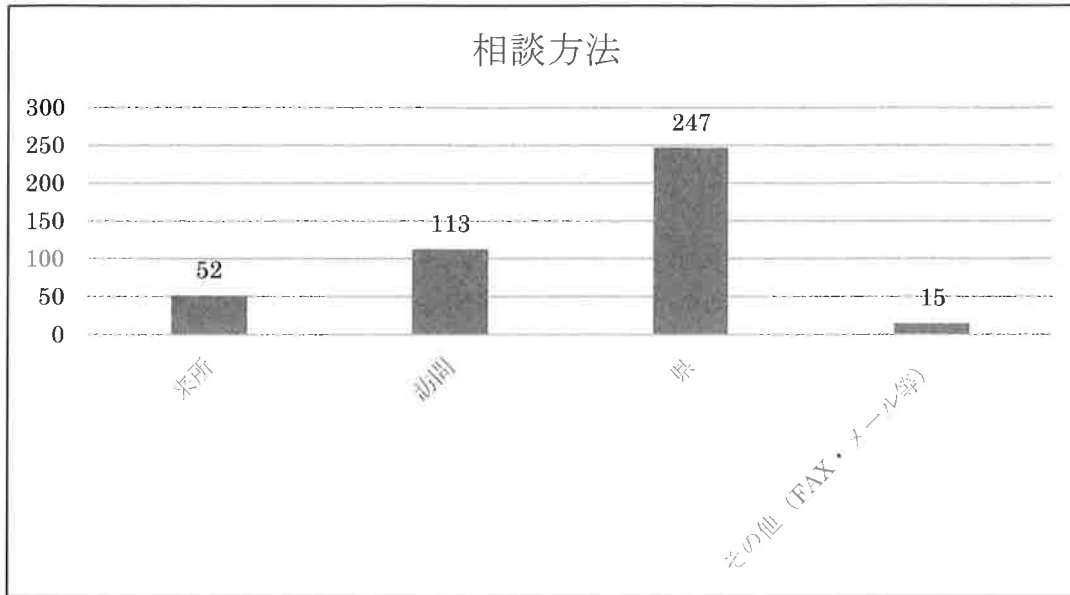
障がい種別

自閉症	12人
アスペルガー症候群	33人
広汎性発達障害	3人
注意欠陥多動性障害 (AD/HD)	15人
学習障害 (LD)	1人
その他 (発達性言語障害・協調運動障害等)	3人
不明 (未診断含む)	13人



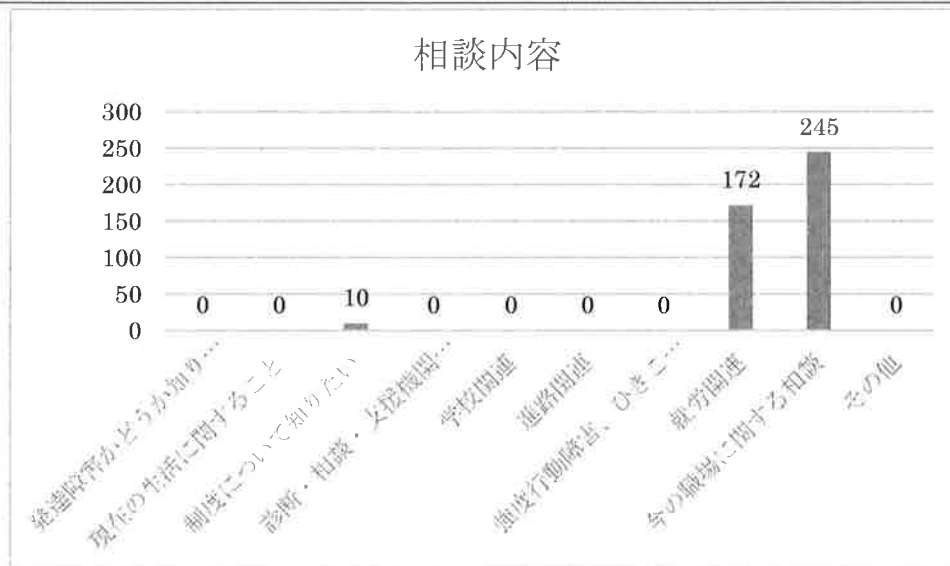
相談方法

来所	52件
訪問	113件
電話	247件
その他 (FAX・メール等)	15件



相談内容

相談の対象となっている児（者）が発達障害かどうか知りたい	0件
現在の生活に関することや、家庭で家族ができることを知りたい	0件
利用できる制度について知りたい（手帳、年金、手当、障害福祉サービスなど）	10件
診断・相談・支援を受けられる機関について知りたい	0件
現在通学している学校、利用しているサービス等に関する相談をしたい	0件
進路や将来の生活に関する相談をしたい	0件
対応困難な状況の改善について相談したい（強度行動障害、ひきこもりなど）	0件
今後の就労について相談したい	172件
現在勤めている職場に関する相談をしたい	245件
その他	0件



考察

就労支援は、前年度より少し件数が減っております。これは、今年度相談員の異動に伴い、就労支援に年齢層もほぼ前年度と変わらず、20代、30代の相談が最も多かったです。今年度は、コロナウイルスの影響で仕事がなくなった、というような相談もありました。また、これまでは仕事に就く前の相談が多かったのに対し、今年度は職場での定着に向けた支援が多くなってきたところがあります。コロナウイルスの影響もあるのかもしれませんが、やはり発達障がい者は、就労できたとしても、環境が変わればうまくいかなくるところがありますし、異動などにより理解のある環境が崩れてしまう可能性もあり、定着や環境の変化に対応していくためにも定期的なチェックや調整が必要であると考えられます。

診断名についてですが、相談同様、自閉症やアスペルガー症候群などのASDが最も多いです。やはりコミュニケーションの問題などがあることで職場でうまくいかないということが多いためと思われます。

第3章 普及啓発・研修

センター主催 又は共催で企画した研修	内 訳	実施形式	実施回数	延参加人数
	教育関係者を参加対象者としているもの		講義中心	0
実技中心			0	0人
教育関係者を参加対象者としていないもの		講義中心	0	0人
		実技中心	43	881人
外部から講師 依頼を受けた 研修（講師派遣）	内 訳	実施形式	実施回数	延参加人数
	教育関係者を参加対象者としているもの	講義中心	10	627人
		実技中心	0	0人
	教育関係者を参加対象者としていないもの	講義中心	25	1397人
実技中心		0	0人	

今年度は、コロナウイルスの影響により、養成研修は講義や事例検討会などをzoomにて行い、視察研修などもビデオやプレゼン研修などに置き換えて対応しました。実習なども抗原検査を実施して行うなどなるべく質を落とさないよう実施致しました。SV派遣については、コロナウイルスの影響はあったものの、最終的には157件派遣を行いました。保育園や幼稚園をはじめ、学童などから、子どもへの接し方、発達障がいについての講義の依頼などがありました。また、メンター派遣のほうも少しずつですが依頼が増えており、メンターが浸透してきているように感じています。コロナウイルスの影響があってもこれだけの依頼が来るということは、それだけSVの需要が増えているということだと感じています。また、講師派遣も、年度後半からいろいろな研修などが再開、リモートでの開催などで行われることが増え、数が増えていました。

第4章 職員の体制

センター長	1名
相談支援担当	1名
発達支援担当	1名
就労支援担当	1名

地域支援マネージャー 1名
非常勤就労支援担当 1名

第5章 職員への研修

発達障がい者支援センター全国連絡協議会
発達障がい者支援センター九州ブロック会議

第6章 総括

大分県発達障がい者支援専門員（以下、SV）養成研修を修了された方が330名を超え、ペアレントメンターも92名となり、地域での発達障がいへの理解や支援の基盤が日々構築されてきています。今年度は、それに加え発達支援コンシェルジュも配置され、より連携、支援体制が強化されています。

相談に関しては、依然として中高生の不登校・引きこもり、成人期は就労に関する相談が増加しています。また、相談の多くは自閉スペクトラム症の方が多く、発達障がい支援においてやはり自閉スペクトラム症の方の支援が最もニーズが高いことが伺えます。相談の中で、当事者の意見を聞いていますが、支援者や親などの発達障がいへの理解が進んでいる一方で、まだまだ理解のない方もいらっしゃるということが多々あります。そういう人たちがせっかく頑張っている本人たちを壊してしまうということが残念ながら起こっています。特に、日本はどうしても「みんな一緒に」精神が強いなあと感じます。例えば、就労支援施設などでは、いまだに「みんなそろっていただきます」をしていたり、みんな一緒に机を囲んで食べることをよしとしている事業所が多いです。今日日、一般企業で「みんな一緒にいただきます」をしているところがあるのでしょうか？外に食べに行く人、公園で食べている人、車の中で食べている人、一人で食べている人はそんなに少数ではないように思います。しかし、福祉の世界ではみんな食べないといけないというところが強く、それがコミュニケーションだとか社会性だとか言う方がいます。私からすればこのご時世に一人で食べることを認めないことのほうがよっぽど非常識ではないかと感じます。しかも、対人が苦手な人がいると緊張するから一人で食べたいというちゃんとした理由があるにもかかわらずその柔軟性がない。多様性がうたわれるようになっても、日本のその根本的な「みんな一緒に」が障がいとなっているように感じます。

コロナウイルスの影響により、発達障がい者だけでなく、誰もが生活に息苦しさを感じているように感じます。毎日感染者数をチェックし、余暇や付き合いを自粛したりしなかったり、かなりのストレスがかかっています。弱毒化したとはいえ、やはりまだまだコロナに左右される状態が続いています。しかし、以前はマスクもつけれないと言っていた人たちも、だんだんと適応してきている人たちも出てきています。最初はリモートとかzoomとかわからないと言っていた人たちもなんとか適応している人たちも出てきています。発達障がいがあろうとなかろうと、変化に対応するのは難しいですが、それでも人は時間をかけ適応していける力も持っているんだなあと感じます。発達障がい者は、適応するのに時間やサポートを必要とすることが多いですが、ちゃんと根気強く、いいサポートがあれば適応していけることもあると思います。イコールではこれからも根気強く、よりよい支援をサポートしていければと考えております。

ホームヘルプサービスセンター らすかる事業報告

第1章 基本概念

1. 基本理念

- ①自立支援 利用者が自ら創る主体的な生活を尊重し、地域社会での自立の支援を行います。
- ・利用者の個性を尊重し、本人の意思または家族の意思をくみ取り、地域生活の場で支援しました。また、地域生活との橋渡しの存在として、利用者の想いを伝えていく支援をしました。
- ②才能支援 様々な経験を通して、個々の能力の保持増進、また、可能性を引き出し、生きがいのある生活を地域で送れるよう支援します。
- ・地域社会に出ていくことで、様々な経験を積み、利用者の個性を育みつつ、自発的なコミュニケーション、活動、創作を生かす支援をしました。
- ③日常生活支援 居宅において安全で快適な日常生活を営むことができるよう入浴、排泄及び食事等の援助、調理、洗濯及び掃除等の家事、生活等に関する相談支援、並びに外出時における移動の援助その他生活全般にわたる援助を適切に行います。
- ・日常生活の苦手な部分の手伝いをするとともに、外出時の安全確保、地域との関わりの補助をしました。
- ④個別支援 個人を尊重し、その人自身の生活がより豊かなものになるよう、置かれていた状況、環境に応じて、利用者の思いに沿った個別の支援を行います。
- ・個性を尊重し、環境調整を行いつつ、利用者の思いに沿った支援をしました。それにより、自己肯定感、安心感を得てもらい、支援を楽しんでもらえるように取り組みました。個別支援として、利用者に関わる他の事業所、学校と支援担当者会議等で連携を深め、「なごみ園」、「大分県発達障がい者支援センター」「めぶき園」と話し合い、支援についての指導や助言や意見の交換等のサポートを受け、「生活の場」を安心・安全にすることをしました。
- ⑤心のケア 「癒し」をテーマとしたメンタルケアを通して、地域で安心して生活できるよう支援します。
- ・本人の思いに沿った対応を心がけ、日常生活のストレスを発散できるよう、外出の際は、商業施設での買い物・プール・散歩・公園・遊具等利用して、余暇時間を楽しみつつ、心の安定を図る支援をしました。

2. 営業内容

- ① 営業日 月曜日～日曜日
- ② 営業時間 相談に応じる
- ③ ヘルプ内容 身体介護、家事援助、移動介護、行動援護、その他必要に応じた相談・助言

第2章 利用者の利用状況

1. 令和3年度月別の利用状況

年 月	身体介護	行動援護	移動支援	利用回数計	時間計数
R3. 4月	14回	143回	0回	157回	364.5H
5月	0回	27回	0回	27回	58.5H
6月	22回	95回	0回	117回	213.5H
7月	18回	101回	0回	119回	251.5H
8月	0回	134回	1回	135回	362.0H
9月	8回	80回	0回	88回	170.0H
10月	32回	154回	0回	186回	371.0H
11月	30回	146回	0回	176回	357.0H
12月	34回	148回	0回	182回	362.0H
R3. 1月	6回	123回	0回	129回	286.5H
2月	0回	109回	0回	109回	251.0H
3月	36回	139回	0回	175回	349H
合 計	200回	1399回	1回	1600回	3396.5H

2. 市町村別の利用状況（令和4年4月31日現在）

地 域	契約者数(今年度新規)	地 域	契約者数(今年度新規)
豊後大野市	6名(0名)	別府市	0名(0名)
大分市	26名(0名)	竹田市	1名(0名)
佐伯市	0名(0名)	臼杵市	0名(0名)

第3章 総括

新型コロナウイルス感染症流行の継続により、利用者や保護者のニーズ（カラオケや各商業施設等の利用）に沿ったサービス提供が困難となり、当面の間、商業施設等利用を中心としたサービスを中止する等制限をかけ、プール、貸切風呂、海岸、河川等、屋外や人との密を避けた場所でのみのサービス提供を余儀なくされたが、そのような中においても利用者のライフステージの変化に合わせ、なごみ園、どんこの里、めぶき園などと連携することで、当法人を利用されている方を中心に日中活動後の継続したサービスを提供する事

で安定した生活を送る事が出来ている。

利用者各々のサービス担当者会議に参加することで、利用者に関わる各事業所や学校と情報交換を行い、保護者との関わりを深めることで、本人の個性を理解し、意見や支援技術を共有することができ、利用者の希望する生活や支援の方針が決まり、サービス利用計画案によりそれぞれの役割や課題が明確化され、利用者の日常生活全般を知ることができたことで、より安定した支援へとつながっている。

ヘルパー会議では、利用者への対応や支援者の心構え等について検討し、ヘルパーが共通認識をもった上で、統一した支援に取り組めるように心掛けている。虐待防止のチェックリストについても年3回実施することでヘルパー全員が再確認し、虐待防止に努めている。今後もスタッフの質の向上の為、会議を通して伝達研修・ケース検討を実施し知識や経験をヘルパー全員の財産にし、「法人の顔」として恥ずかしくない人材育成に取り組み、法人内外での連携を図り、各専門分野での意見、支援技術を共有し、保護者へより専門性の高い助言、支援を継続していく。

指定共同生活援助事業所 グループホームかわしま 事業報告

【目的】

利用者が地域において共同生活をしながら自立した日常生活又は社会生活を営むことができるように、利用者の身体及び精神の状況並びにその置かれている環境に応じて共同生活住居において、入浴、排泄又は食事の介助、相談、その他の日常生活上の援助を適切かつ効果的に行います。

【運営方針】

関係法令を遵守し、他の社会資源との連携を図った適正且つきめ細やかな共同生活援助サービスを提供し、快適な生活の場を目指します。

【施設の概要】

(1)事業所の種類	指定共同生活援助（介護サービス包括型）
(2)事業所の名称	共同生活援助事業 グループホームかわしま
(3)事業所の所在地	(A・B棟)大分県豊後大野市犬飼町下津尾 3709 番地 8 (戸次棟) 大分県大分市中戸次 4454 番地 1
(4)管理者	近藤 暢秀
(5)サービス管理責任者	近藤 暢秀
(6)主たる対象者	知的障害者
(7)定員	18名（A棟:7名、B棟:7名、戸次棟:4名）

【個別支援計画】

利用者のおかれている環境及び日常生活全般の状況等を通じて、利用者及びその家族が希望する生活や課題を明らかにし、適切な支援内容の把握に基づき、個別支援計画を作成します。個別支援計画の内容について、利用者とその家族などに対して説明を行い、文書により同意を求めます。

【支援内容】

①日課

7:00	起床・検温 清掃（居室・廊下・トイレ等）
8:00	朝食・歯磨き
8:40	出勤（リファイン大分・どんこの里いぬかい・なごみ園）
↓	↓（各事業所で活動。休憩。）
15:30	帰園（どんこの里いぬかい・なごみ園の利用者） 散歩(30分程度)・おやつ

- 16:00 入浴・洗濯
- 17:10 帰宅（リファイン大分の利用者）
おやつ・入浴・洗濯
- 18:00 夕食・歯磨き
余暇活動（外食・買い物・コーヒータイム・おやつ等）
- 20:00 学習（実習日誌・日記の記入等）
自宅への電話
- 22:00 就床

※月～金曜日は上記の流れ。

※土～日曜日はグループホームで過ごす為、活動はなし。

②日中活動

日中は、14名がどんこの里いぬかいにて生産活動や体力向上訓練等に取り組み、1名はリファイン大分にて職場実習として活動を実施、1名がなごみ園で活動に取り組んだ。なごみ園以外は全て公用車で送迎した。

③食 事

食事担当の職員を配置することで、朝食と夕食の全ての食事をグループホームかわしまで調理して食べた（担当職員が公休等で不在の場合は、どんこの里いぬかいの調理員がフォローに入った）。栄養計算されたメニューを取り入れたり白米の量を調整する等して健康管理に留意した。土曜日の夕食は在園者が少数の為、外食での対応とした。月1回の誕生日会（誕生者がいる月のみ）、クリスマス会やハロウィンパーティー等楽しい行事も夕食時に実施し、少人数の特徴を生かしたメニューも取り入れ、家庭的な雰囲気の温かみのある食事を提供した。

お誕生日会	4/20、5/31、6/24、7/20、8/26、9/28、1/27
-------	------------------------------------

④入 浴

毎日グループホームかわしまで入浴を行った。男性はA棟、女性はB棟の浴室を使用。戸次棟の利用者は戸次棟の浴室を使用。毎日男性、女性それぞれ担当の職員が見守り及び支援を行った。

⑤洗 濯

A棟・B棟・戸次棟にそれぞれ洗濯機を設置。入浴後に各自で洗濯し、干すようにしている。全員がほぼ問題なく取り組むことが出来た。冬や雨天時等洗濯物が乾きにくい時は大型乾燥機を使用した。戸次棟においては精度の良い除湿器を購入して使用することで、乾燥に役立っている。

⑥余暇活動

グループホームかわしまでの生活をより楽しく充実したものにしていくため、余暇活動には常に力を入れて実施した。夜間レク（カラオケレク・買い物レク・外食レクを月1

回ずつグループごとに実施)、コーヒータイム(毎週金曜日)、夜のおやつ(月～金曜日)はこれまで通り実施。その他、ビデオ鑑賞やカラオケ等、利用者のリクエストに応じて実施している。コロナ感染拡大防止の為、昨年度に引き続き、内容を変更して実施することが多くあったが、概ね落ち着いて参加することができている。

グループ	内容	日付
A	食事	4/20、5/31、6/24、7/20、8/26、9/28、11/25、1/17、2/22、3/29 (※すべてどんこレストランにて)
	買い物	5/11、6/7、8/10、9/7、1/13、2/8 (※おやつ購入のみ) 4/7、7/6、10/14、11/4、12/9、3/3
B	食事	4/20、5/31、6/24、7/20、8/26、9/28、11/25、1/17、2/22、3/29 (※すべてどんこレストランにて)
	おやつ 購入	4/7、5/11、6/7、7/6、8/10、9/7、10/14、11/4、12/9、1/13 2/8、3/3 (※カラオケは実施せず)
戸次棟	食事	4/20、5/31、6/24、7/20、8/26、9/28、11/25、1/17、2/22、3/29 (※すべてどんこレストランにて)
	買い物	5/11、6/7、8/10、9/7、1/18、2/8 (※おやつ購入のみ) 4/7、7/6、10/14、11/4、12/9、3/3
その他	ハロウィンパーティー → 10/28 かわしま一泊旅行 → 中止(コロナ感染拡大防止の為) クリスマス忘年会(12月の夕食レク) → 12/23 新年会(めぶき園と合同) → 中止(コロナ感染拡大防止の為) お楽しみ会 → 中止(コロナ感染拡大防止の為)	
戸次なごみ園との 交流(戸次棟のみ)	戸次なごみ園ハロウィン(仮装をしてお菓子配り) → 10/25～10/29 戸次なごみ園クリスマス会(プレゼント配り) → 12/20～12/25	

- ・毎日、夜のおやつタイム、金曜日コーヒータイムを実施した。
- ・毎日、夜の自由時間に実習日誌、日記を書き、職員が閲覧した。
- ・希望者は夜、自宅へ電話をしている。

⑦役割分担

トイレ、浴室、洗面所、廊下掃除などは、役割分担を決めて利用者に責任を持って行ってもらった。食事の準備や片付けは職員が行ったが、配膳等手伝ってもらい、日常生活に必要な技術を少しずつ身につけてもらうようにした。決められた役割はほとんど忘れることなく取り組むことができるようになっている。

⑧地域交流

河島地区（自治会）の行事や集会、清掃日などには職員が必ず出席し、近隣住民の方々と交流を図るよう努めている。しかし、今年度はコロナ感染拡大防止の為、7月の大掃除以外は中止となった。

河島天神区大掃除	7/4
いぬかい秋祭り(天満社秋季大祭)	中止
河島天神区総会	中止

【総括】

「家庭的」「豊かで楽しい」等のテーマを掲げ、平成22年1月1日に運営を開始したグループホームかわしまは、利用者が共同して自立した日常生活を送ることができるよう、地域社会と密着した環境で社会生活を送る基盤を整えてきた。地域の理解や協力も得られており、基盤となる枠づくりは定着した。また、一昨年からのコロナ禍の影響により、日々状況が変化する中での生活は些細な変化の連続や我慢を強いられることも多くあったが、これまでの積み重ねにより臨機応変に対応できる場面も増え、日常生活の中にある様々な課題に徐々に適応する能力も育ってきていると感じている。

コロナのパンデミックが収まることはなく、外での活動が制限される中で、余暇時間についてはこの環境においても少しでも満足してもらえるよう可能な限り工夫して計画し、実施した。利用者も日中活動で得た工賃で夜間レクに行くことを励みに頑張っている様子が見えてくる。昨年に引き続き、マクドナルドのドライブスルーでおやつを購入したり、夕食メニューを少し豪華にしたりという代替案がベースとなったが、それぞれが穏やかに受け入れて楽しむことが出来ていた。また、開設当時から継続している夜間の学習（日誌の記入や計算学習）においては、ゆっくりと時間をかけてやりとりできる貴重な時間となっており、よりよいコミュニケーションのツールとなっている。今後も引き続き支援の一環として行っていく。保護者会を含めた3月のお楽しみ会は中止とした。

グループホームを開設して以降、今日まで大きな課題もなく運営ができている背景には、保護者や地域の方々の協力があり、大変感謝している。恒例の地区行事である天神祭りは今年度も中止となったが、地域の草取りやゴミ置き場の清掃等には地区の一員として積極的に参加して交流を図り、連絡や情報共有を密にする等良い関係を保つことができています。保護者においては、週末帰宅の際に立ち話程度であったがグループホームでの状況や変化等を報告したり帰宅中の様子等をうかがう等して情報の共有に努めた他、年に数回の帰宅実施のような場合には定期的に事業所から連絡をして状況を伝える等緊密な連絡を取ることを心掛けた。在園することが増える利用者はもちろんだが、帰宅帰園の際にはコロナを持ち込ませない為保護者との情報共有は徹底して行った。時間を取って話すことが難しくなった今、必要なことを的確に伝えなければいけない状況にあった為職員自体のブラッシュアップにも繋がったのではないかと感じる。保護者から聞いた様子や日々の変化、また社会情

勢の変化等は、職員会議の中で常に共有を行い、意識が高い状態でコロナに罹患する職員もおらず、無事に年度を終了することができた。帰宅帰園については、その時のコロナ状況を鑑みて保護者とやりとりしながら継続して実施し、保護者の対応が難しく要望があった場合は、事業所が送迎を担った。「出来る限り帰宅させてあげたいが、保護者も高齢となって身体がきつくなってきたので、送迎してもらえることはとてもありがたい。」とのご意見をいただいている。今後も保護者や地域の方々との協力体制を大切に、利用者・職員ともに過ごしやすい事業所運営を行っていく。

指定障害福祉サービス事業所 どんこの里いぬかい

事業報告

第1章 運営理念

(1) 目的

利用者に福祉的就労の場を提供するとともに、一般就労に向けての支援によって、自立と社会参加を図ることを目的とする。また、生きがいとしての生産活動や余暇的、文化的活動を提供する。

(2) 方針

- ① 人権と主体性を尊重し、常に利用者の立場に立って支援する。
- ② 自立した日常生活及び社会生活を営めるように支援する。
- ③ 安心感と信頼関係に基づき、チームワークによる支援を行う。
- ④ 就労に必要な知識及び技術の向上に努めるとともに、可能な限り一般就労に向けて支援する。
- ⑤ 地域や家族との結びつきを重視し、関係機関との連携に努める。

第2章 施設の概要

- | | |
|-------------|--|
| ① 名称 | 指定障害福祉サービス事業所 どんこの里いぬかい |
| ② 所在地 | 大分県豊後大野市犬飼町久原1863番地の8 |
| ③ 利用定員 | 就労継続支援A型10名、生活介護20名 |
| ④ 運営主体 | 社会福祉法人 萌葱の郷 |
| ⑤ 管理者 | 近 藤 暢 秀 |
| ⑥ サービス管理責任者 | 工 藤 貴 志 |
| ⑦ 対象者 | 発達障がい者及び精神障害者・知的障害者 |
| ⑧ 設備の概要 | 厨房、フロア、事務室、販売所、更衣室、作業棟及び作業室、
A型～プレハブ・簡易トイレ・作業場・倉庫 |

第3章 事業概要

(1) 営業日 月曜日から金曜日（土・日曜日は基本は休みとする）

(2) 日 課

9:00 通所・更衣（ミーティング・体操）
活動開始（就労継続支援A型）
10:00 活動開始（生活介護・就労継続支援B型）

- 12:00 昼食（前半休憩）
- 13:00 昼食（後半休憩） 活動開始（前半休憩組）
- 14:00 活動開始（後半休憩組）
- 15:00 活動終了（生活介護・就労継続支援B型）
- 16:00 活動終了（就労継続支援A型）
活動終了後、帰宅

（3） 作業内容

<就労継続支援A型>

◎畑作業

4月	収穫（人参・大根）、播種（人参）、防除、草切、畝立て
5月	収穫（ニンニク）、播種（落花生）、防除、草切、堆肥散布
6月	収穫（大根・人参）、防除、草切、耕運
7月	収穫（人参・ゴボウ・大根）、ニンニクばらし、防除、草切、耕運
8月	収穫（人参・ゴボウ）、ニンニクばらし、除草・草切、耕運
9月	収穫（ゴボウ）、播種（大根・カブ）、定植（ジャガイモ）、ニンニクばらし、防除、草切
10月	収穫（ゴボウ・大根）、播種（人参・ニンニク）、ニンニクばらし、草切
11月	収穫（大根・ゴボウ・落花生・サツマイモ）、定植（玉ねぎ）、草切、耕運
12月	収穫（人参・大根・落花生・カブ）、定植（玉ねぎ）、耕運
1月	収穫（人参・玉ねぎ・カブ）、播種（人参）、防除、除草、堆肥散布
2月	収穫（人参・玉ねぎ）、播種（人参・大根）、定植（ジャガイモ）、防除 除草、堆肥散布
3月	収穫（人参、ジャガイモ）、播種（大根）、除草、耕運、堆肥散布

※年度当初から畑会議を定期的で開催し、年間作付け計画を立てた。

※月間、週間のスケジュールをたて、利用者の能力等を考慮し班編成を行った。

（総括）

今年度の一番大きな動きとしては、なし園が就労継続支援A型から生活介護になったこと、このことに伴い、これまでなし園で働いていた利用者2名を障害者雇用で契約したことである。数年かけて技術を身に付けてきた為即戦力として働いている。法人内とはいえ、初めて一般就労に繋げることができ、当事者にとっても事業所にとっても喜びや大きな自信になった。

畑では新たに4名の利用者と契約を結び、なし園より1名が農園へと移行した。相談支援事業所や支援学校から等の問い合わせも増え、当事業所の就労継続支援A型が周知されつつことを実感している。利用者の入れ替わりはあるものの互いに比較的良好な関係を築けており、対人関係でトラブルに繋がりがちなこともあったが、面談実施等その都度対応して解決を図ることで長引いたり大きな課題に発展することはなかった。今年度から利用者に対してより手厚い支援を提供するために応援職員を配置

したことも良い方向に働いており、日々の利用者の様子やプライベートの過ごし方等が把握しやすく、問題が起こった場合でもその場で早急に対応できたり、トラブルに至る前に防ぐことができる場面が増えた。利用者同士の良い交流も見られるようになっており、やりがいを感じながら働いている様子も見受けられる。一連の作業を通して日中働き、安定した工賃を得られる喜びを感じており、心身ともに安定したリズムで日々の生活を送ることに繋がっていると考える。利用者の持つ特性や心身の不調等の理由により継続して通所することが出来にくい利用者や気持ちの切り替えが難しい利用者については、ECOAL や相談支援事業所と情報共有を密に行う等連携して対応し、課題等の解決に努めているが、コロナ禍ということも大きく影響しており、残念ながら退所してしまったケースもあった。

作業内容については、年間を通して個々の利用者の特性に合わせて考慮し、取り組んでもらっている為全体計画の通りにいかないこともある。加えて、職業指導員が変更して体制を再編成しているところである為収益に反映させるまでには至らなかった。利用者の工賃を確保する為にも年間を通して計画的な野菜作りを行い、収益向上に繋げることが引き続き課題となる。応援職員を含め、毎月A型畑会議を開き、周知や確認、対応の検討等を話し合っている為チームワークや動きは無駄がなくなり、前年度に比べると格段に良くなった。

実習生については支援学校からの受入はなかったものの、相談支援事業所を通して希望してくるケース等今年度も積極的に受け入れて対応してきた結果、大きな課題も見られず無事に終わることができ、契約まで結びつけることができた。昨年度契約を結んだ支援学校卒業生2名は当初危惧されたような問題や怪我もなく、作業を通して充実した時間を過ごしている。支援学校の先生は卒業後も定期的に連絡をくれたり別件で訪問した際に様子をうかがう等気に留めていただき、継続して従事出来ていることを喜んでくれていた。

<生活介護>

機織り機での生地製作、機織り商品加工、販売を行う	<ul style="list-style-type: none"> ・機織り作業 ・横糸用の布切り作業 ・縦糸の仕掛け ・生地加工 ・ラベル用シール切り ・商品ラッピング ・マスク製作
敷地内清掃	<ul style="list-style-type: none"> ・草取り、ゴミ拾い ・公衆トイレの清掃、管理
アルミ缶つぶし	<ul style="list-style-type: none"> ・アルミ缶つぶし ・アルミ缶回収
グループホーム清掃	<ul style="list-style-type: none"> ・室内清掃 ・草取り、ゴミ拾い ・洗濯物仕分け
受注作業	<ul style="list-style-type: none"> ・カッター組立作業

	<ul style="list-style-type: none"> ・シイタケ作業 ・畜産公社での加工補助作業
なし園作業	<ul style="list-style-type: none"> ・草取り ・摘果、摘蕾、袋掛け ・収穫、出荷 ・ネット修繕や柵作り等環境整備 等
レストラン作業	<ul style="list-style-type: none"> ・レストラン業務 (接客、配膳及び下膳、盛付補助、食器洗浄および片付け、うどんゆで、ホールやトイレ清掃等) ・直販所内のレジ補助 (店内清掃、商品の品出しや補充、袋詰め等) ・弁当業務 (法人内職員用の弁当の盛り付け、配達準備等) ・加工品の製造 (梨パイやスイーツの製造補助、販売準備等) ・製麺作業 (麺打補助、製麺所清掃) ・清掃作業
体力向上訓練	<ul style="list-style-type: none"> ・ランニング ・ウォーキング
クラブ活動	<ul style="list-style-type: none"> ・絵画及びモザイク制作 ・ダンス

(総括)

今年度は就労継続支援B型が休止となり、レストラン業務が生活介護となった。認定調査の結果、個々の区分があがり、より手厚い支援が必要になった為である。保護者への説明はもちろんのこと、利用者本人への説明も丁寧に行った。中には、支援区分を持っていない利用者もあり、調査の手続きから始めて短期間ではあったが無事に区分を取得することができた。作業内容については利用者への影響はほぼなく、概ねスムーズに移行することができた。

レストラン業務については、引き続きコロナ感染対策を充分に行いながら取り組んだ。昨年度は感染が拡大した1か月間、大分方面の事業所に協力を仰ぎ、お弁当とスイーツの配達を行ったが、今年度は送迎体制を整えて大分方面も毎日お弁当配達を行い、売り上げに貢献した。その他でも行事弁当の予約を受けたり、地域の学校や業者からだけでなく一般の方も含めたテイクアウトの連絡も途絶えることはなく、お弁当の人気は広がりつつある。レストランのような場所は不特定多数と接する為不安はつきないが、今後もできる限りの対応を継続し、十分に注意して過ごしていく。また、期間限定の人気商品となった梨パイ・ジャム・乾燥梨等の加工品は、法人内外を問わずリピートのお客様が aumentando。今年度はジャムの価格を少し上げたが人気は変わらず、前年度よりもさらに売り上げは向上した。どの加工

品も大量生産はできないにも関わらず大好評であり、たくさんの注文をいただいている。利用者も梨の皮むきや切る作業などに積極的に取り組んでおり、不定期に作るクッキーやマドレーヌ、デザートやケーキも喜んで作る姿が見られた。また、これらのスイーツも定期的に大分方面に配達に行くことができ、安定した売り上げに繋げることができた。今後もこうした加工品の製造に取り組んでいく予定である。

全体的には利用者数やメンバーは変わらず今年度もスタートを切った。活動内容の再考、利用者の適性や利用者同士の関係も考慮して作業スペースを工夫する等取り組みを継続して進めた。支援を進めていく中で課題等が出た場合は会議等で話し合い、都度対応していった。外部受注作業（畜産公社での作業・カッター作業）も軌道に乗り、安定して取り組むことができている。また、新たな作業として犬飼町内より農作業の補助作業(シイタケのあし切り・ニンニクばらし)の依頼があり、引き受けることにした。判断が難しいこともあるが、回数を重ねる毎に徐々に手つきも慣れてきた様子がうかがえる。雨天時は畑での作業が中止になることもある為、室内でできる軽作業が定期的にあることは事業所としても有り難い。納期等がないところも利用者のペースに合わせて取り組むことができる為助かっている。どんこの里いぬかいを開設して以降、地域交流や地域貢献できるよう関わりを大事に運営してきたが、ここ近年の外部受注等の依頼からも、当事業所が地域に周知され、根付いてきたと感じる出来事である。今後も継続していきたい。その他、ランニング、ウォーキングや美術活動等の活動にも意欲的に取り組んでおり、楽しみにしている利用者も多い。感染症対策を徹底して行い、広い場所で密にならないよう距離をとりながらランニングや散歩等を実施している。機織り作品や美術関連も展示や販売に力を入れており、今年度は法人 30 周年記念の一環として開催されたアトリエMOE展にて多くの作品等を展示することができ、たくさんの方々に見ていただけたことは利用者の励みにもなっている。また、HP 上だけでなく期間限定でのショップ開催に作品を提供したり、イベントに参加したり等販売をする機会を持つことができている。

社会適応訓練については、コロナ対策を万全にして実施してきた。コロナ罹患者数が大幅に増えた際は午後からのお買い物に留めた月も 1～2 度あったが、「限られた環境の中でより楽しめる方法はないか？」と工夫を凝らして毎月実施した。12 月の忘年会は会場を貸し切ったの久々の外食となり、利用者は大いに喜んでいて。昨年に引き続き、人が大勢集まるような行楽地への外出は避け、なかよしホールを借りての餅つきやバーベキュー等を楽しんだ。他事業所の職員が応援に来てくれることもあり、事業所間交流にも繋がった。利用者だけでなく職員も一緒に楽しむことのできる時間を今後も大切にしていきたいと思う。

第 4 章 利用者の利用状況

	生活介護	就労継続支援 A 型	合計	延利用日数
4 月	2 2	8	3 0	5 8 7 日
5 月	2 2	9	3 1	5 3 8 日
6 月	2 2	9	3 1	6 2 7 日
7 月	2 2	1 0	3 2	6 2 6 日

8月	22	10	32	612日
9月	22	9	31	589日
10月	22	8	30	576日
11月	22	9	31	603日
12月	22	9	31	569日
1月	22	9	31	544日
2月	22	9	31	544日
3月	22	9	31	646日

第5章 社会適応訓練

期 日	場 所	利用者数
R3.4.26(月)	真玉海岸(マテ貝とり)	20名
R3.5.25(火)	道の駅きよかわ	22名
R3.6.29(火)	原尻の滝	21名
R3.7.26(月)	志高湖	21名
R3.8.30(月)	なかよしホール(昼食作り・縄跳び・ボール遊び)	21名
R3.9.27(月)	なかよしホール(楽器作り)・道の駅きよかわ	21名
R3.10.25(月)	やまなみ牧場	21名
R3.11.29(月)	豊後大野パークゴルフ場	22名
R3.12.15(水)	臼杵城&臼杵摩崖仏散策・レストラン KIJOKAKU	21名
R4.1.31(月)	餅つき・扇森稲荷神社	21名
R4.2.28(月)	県民の森ハイキング・川の駅宗麟大橋	22名
R4.3.28(月)	バーベキュー・道の駅きよかわ	22名

第6章 職員研修実施状況

期 日	研 修 名	参 加 者
5.12～14	強度行動障がい支援者養成研修	衛藤・近藤真
6.2	ホスピタリティを表現する接客マナー研修	船津
6.23	感染症対策と予防研修	首藤
7.13	安全運転管理者講習	柴田
7.21	福祉業界における介護ロボット・ICTの活用と課題	大久保
9.1	コンフリクトマネジメント研修	樋口
9.15	メンタルヘルス研修	山城
9.16～17	相談支援従事者初任者養成研修(基礎)	三宮

10.6~7	相談支援従事者初任者研修(演習①②)	三宮
10.20	効果的な部下・新人育成の実務研修	瀧田
11.17	プロ意識醸成研修 ~仕事の意欲向上のために~	庄
12.3	相談支援従事者初任者研修(演習③)	三宮
1.6~7	相談支援従事者初任者研修(演習④⑤)	三宮
1.12	アンガーマネジメント研修	清田
2.18	ECOAL 内部研修	柴田・樋口
3.25	外部事業所見学研修	近藤暢・工藤・柴田

※キャリアパス研修は適宜出席。

※SV養成研修（上級）に適宜出席。

令和3年度 戸次なごみ園 事業報告

第1章 療育活動

1、療育方針

- ①発達支援 一人ひとりの発達に合わせて、基本的な生活習慣、対人関係、言語やコミュニケーションなどの力を伸ばします。
- ・本児の好きな遊びや活動を一緒に楽しみ、他者とのやりとりで職員がモデルを示したり、気持ちの代弁をしたりして、本児に気づかせながら個々の自己表現を促し、子どもの発達を支援した。その結果、やりとりする中で、言葉の獲得が増え、良好なコミュニケーションができた。表情やジェスチャーなどノンバーバル（非言語）での表現で、他者と触れ合い、落ち着いて過ごすことができる子どももいた。良好なコミュニケーションができ、自信を高め、生き生きと遊ぶことにつながることができた。
 - ・基本的な生活習慣は、その子一人一人の実態に応じて、動作のポイントや手本を示すことで、靴が履けたり、手洗いが徐々にできたり、オムツがとれるようになってきたりした。また、ミーティングで職員の共通理解を図り、保護者とも連携して、子どもに対する一貫した支援ができたことも大きく影響していた。今後も連携を密にしていきたい。
- ②才能支援 生き生きと自己表現し、気持ちの交流ができるように支援します。
- ・個々の能力や個性に応じて、興味関心のある活動を提供した結果、それぞれの自己表現ができた。絵を描くことや製作活動を通して、自分の思いを表現して満足できることができた。個々の作品を管理し、年度末にまとめて渡すことで、満足と自信がついていた。また、園庭でのサッカーも大いに楽しみ、お互いパスを出したり、チームとして喜んだりする連携感も高められた。
- ③家庭支援 子育てについての相談や学習会を通して、子どもへの理解を深め、育ちと暮らしを支えます。
- ・子育てについては、必要に応じてゆっくり話ができる時間を確保し、母親の話を共感しながらよく聞き、母親と一緒に子どもの育ちを考えながら取り組んだ。臨床心理士につなげて相談するケースもあり、子育ての自信につながられた。今年度は、保護者会をコロナウイルス感染状況を踏まえて、3月に開催をした。感染防止のため、会自体の時間短縮のため、こちらから伝える内容だけにとどまり、保護者同士の情報交換はあまり設定できなかった。しかし、保護者からは、2年ぶりに開催できたのはよかったとの意見が多くあった。また、他の福祉サービス利用についての相談もあり、子どもの実態に応じた福祉サービス（短期入所や日中一時など）の利用につなげることができた。
- ④地域支援 保育園、幼稚園、学校、保健所、医療機関などと連携をとりながら地域での育ちと暮らしを支えます。
- ・児童発達支援事業では、各関係機関に訪問したり、見学を受け入れたりして、法人の理念や園の事業内容について説明し、啓発に取り組んだ。特に、

見学者には丁寧に説明し、福祉情報を伝え、地域支援をすすめた。保育所等訪問支援事業では、コロナウイルス感染防止の観点から訪問が中止した期間があった。実施できた保育園や幼稚園とは、密接な連携がとれ、子どもの支援向上につながった。今後も、保護者のニーズに応じて各関係機関との連携を深め、地域での育ちを支えていきたい。

・放課後等デイサービス事業でも、コロナウイルス感染防止の観点から訪問が中止した期間があった。実施できた小学校では、利用児や保護者の悩みや困りを学校と共有し、情報交換しながら対応することができた。また、ケースによっては、学校側からの訪問のリクエストが多くあった。今後も継続していきたい。

⑤心のケア やりとりで信頼関係を深め、安心感を育み、意欲につなげます。

・子どもの情緒をよく観察し、共感から始め、やりとりする中で、本人の気持ちと折り合いがつけるように対応した。状況に応じて、集団活動の内容を変更し、本人の好みの活動を取り入れることで、落ち着いて取り組めることができた。こちらが変わることで、子どもたちも変わり、肯定的な対応をすることで、自信を高め、意欲につなげることができた。ミーティングや職員会議で確認しながら取り組んだ。

・中学生や高校生の利用児には、ゆっくりと会話をし、本人の考えや気持ちを受け止め、心のストレスを発散し、次への意欲につなげるように取り組んだ。全職員で共通理解し取り組んだ。

2、日課

児童発達支援 開園日：月～金

時 間	内 容	具 体 的 な 活 動 内 容
9 : 3 0	登園 自由遊び (体を動かす活動)	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ・シール貼り・荷物整理など ・園庭で砂場、遊具、三輪車やバギー車、ボール遊び、追いかけてっこなど体を動かす遊びをした。季節に応じて、シャボン玉やプールなどをして楽しんだ。 ・室内では、マルチクッションやトランポリン、バランスボール、大型ブロック等の室内遊具で遊び、体を動かすことで体幹を育てた。 ・近くの公園にも散歩したり、大型遊具のある公園などに出かけたりして、大いに体を動かし発散した。 ・遊びを通して、友達とのやりとりや遊びのルール、動作技能の習得などを促した。 ・おもちゃの片づけも職員と一緒にしたり、視覚的支援をしたり、整理整頓への意識を高めるよう取り組んだ。
1 1 : 2 0	お集まり	<ul style="list-style-type: none"> ・朝のあいさつ、名前呼び

	<p>集団活動・粗大運動・芸術活動・工作活動・製作活動・課外活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本、音楽（リズム遊び）、感覚遊び、シートブランコなどを行い、着席や順番など集団活動でのルールを個々に合わせて取り組んだ。 ・季節に応じた製作活動を行い、季節を感じ取り、楽しむことが出来た。 ・集団活動を通して、自己表出や社会性を支援するとともに、集団のルール習得や準備・片付けなどの整理意識を育むよう支援した。
11:40	<p>昼食 歯磨き 片付け</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ ・持参した弁当を個々に応じて、楽しい雰囲気の中で落ち着いて食事ができるよう支援した。また、保護者と打合せをして食材を工夫し、偏食の改善など食育の向上を図った。
	<p>自由遊び (目と手の協応の遊び)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・パズル、プラレール、ママごと、ブロック、積み木、型はめ、色ぬり、お絵かき、色がみなど手先を使う玩具などを中心に遊んだ。
12:45	<p>降園</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今日の活動内容を振り返り、がんばったことやできたことを確認した。 ・次回の活動内容を確認し、自己意識や先の見通しを得る力を育むよう支援した。

放課後等デイサービス 開園日：月～土

時 間	内 容	具 体 的 な 活 動 内 容
<p>13:30 (下校時間に応じて)</p> <p>(土曜) 9:30 14:00</p>	<p>登園 自由遊び</p> <p>粗大運動・芸術活動・工作活動・制作活動・調理実習・課外活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ・出欠表・荷物整理・着替えなど ・園庭でブランコや砂場、自転車、バギー車なわとび、バドミントンやサッカーなど体を動かす遊びをした。季節に応じて、シャボン玉やプールで楽しんだ。 ・室内では、トランポリン、バランスボール等の室内遊具で遊んだ。また、本を読むことや絵を描くこと、トランプやボードゲームなど静かな遊びにも取り組んだ。プラレールやトミカなど想像力を高める遊びも楽しんだ。 ・遊びを通して、友達とのやりとりや遊びのルール、動作技能の習得などを促した。 ・友達や職員と遊びを楽しみ、気持ちのリフレッシュをした。また、一人になりたい気持ちを受け止め、別室で過ごす環境も確保

		した。
16:20 (土曜)	集団活動	<ul style="list-style-type: none"> ・活動を通して、自己表出や友達と良好なコミュニケーション、社会性を身につけるよう支援した。また、集団のルールの習得や準備・片付けなどの整理意識も育むよう取り組んだ。 ・季節に応じた製作活動を行い、季節を感じ取り、安定した情緒を図った。 ・コロナウイルス感染防止を考慮し、ウーバーイーツごっこや駄菓子屋ごっこなど子どもたちの興味に即した活動を工夫して取り組んだ。 ・施設周辺の散歩や買い物学習なども行い、地域との交流も図った。
10:50	おやつ	
15:20		
17:00 (土曜)	降園	<ul style="list-style-type: none"> ・今日の活動内容を振り返り、がんばったことやできたことを確認した。 ・次回の活動内容を確認し、自己意識や先の見通しを得る力を育んだ。
11:30		
16:00		

〈内容〉

◎集団活動：自らが意識的に集団活動へ参加していくことで、自己意識や他者意識を高め、社会的な適応力を身につける。

- ・集団活動に入れるように、子どもたちが興味関心を持つようなものを提示し、自発的に参加できることを、焦らずに待ちながら対応した。参加できた時には、賞賛して自信をつけ、成功体験を重ねることで、スムーズに自ら参加できるようになっていた。

◎粗大運動：感覚意識の統合性や身体的な運動能力を高めていく。(マルチクッション・トランポリン・バランスボール・三輪車・バギー車等)

- ・幼児では、徐々に体幹がしっかりしてきて、少しずつ動きが活発になった。マルチクッションの上に援助なしで登れたり、トランポリンも膝を上手く動かしながら上手に跳べるようになってきたりできていた。ストライダーやバギー車に乗ることができた事で自信を持ち、自転車への挑戦にも発展していった子どももいた。
- ・学童では、サッカーや野球(バッティング)で、ボールを捉える能力が向上し、自信を持ち、長い時間集中して遊ぶことができる子どももいた。

◎音楽活動：音楽活動を通して、共感性や場面への適応力を身につけていくとともに、自己表現や協調性が豊かに育てる。(歌、ダンス、楽器遊び等)

- ・リズム活動を通して、音楽に触れ、自己表現を促した。職員や友だちと一緒に取り組むことで、表現をためらっていた子どもも、徐々にうれしそうな表情と共に自ら生き生きと表現できるようになってきた。
- ・本物の楽器(フルートやサクソなど)に触れることで、音楽への意識を高めることができた。

- ◎工作活動：創作意欲を育てることで、自己表現力や有用感を高めていく（絵画、プラバン、アイロンビーズ等）。
- ・季節に応じた製作活動では、自由な表現で描いたり、点シールを貼ったり子どもの実態に応じて取り組んだ。お手本を見ながら作る子どももいたが、自分で想像して作品を仕上げる子どももいた。
 - ・出来た作品を室内に展示することで、自信を高め、自分の作品を他者にうれしそうに教えることもあった。
- ◎製作活動：製作活動を通しながら、季節感や創作意欲を獲得していく（七夕、クリスマスツリー、ひな人形等）。
- ・季節の飾り（七夕やクリスマスなど）では、個々の実態に応じて製作過程も工夫した。マジックペンやシールなど興味あるものを使い、手先の機能向上に取り組んだ。集中して取り組む子どもも多く、自由な表現を受け入れ、出来上がった喜びや達成感が本児の意欲につながっていた。
 - ・出来た作品を室内に展示することで、自信を高め、自分の作品を他者にうれしそうに教えることもあった。
- ◎調理活動：おやつ作りを通して、食育を図ると共に、自分の力で取り組んだり、共同作業を経験したりして、満足感や充実感を味わい自立心を育てる。（ホットケーキ・やきそば等）
- ・学童では、コロナウイルスの感染状況を踏まえて、準備から片付けまでの役割もいつもよりは短縮工程にして調理活動（おやつ作り）を取り入れた。各自の能力個性に応じて取り組んだ。意欲的に取り組み、自分の力で調理したことの喜びや出来上がりの達成感を感じていた。感染状況によって、ウーバーイーツごっこや駄菓子屋ごっこをしたりして対応した。
- ◎課外活動：公共の場の参加などを通して、社会的なルールの気づきを促す。（地域交流・買い物等）
- ・感染状況に応じて、大きな公園に出かけたり、地域を散歩したりした。交通ルールやマナーの意識が少しずつできた。今年度も、地域の祭りが中止のため、戸次なごみ園で出店を設定したりして、お祭りごっこをした。
- ◎母子通園：子どもとの関わり方の指導や母親のメンタルケア、職員を媒介とした母子関係の調整、母親同士の関係作りの構築等を支援する。
- ・今年度は、コロナウイルス感染防止のため、内容を短縮しての保護者会を実施した。保護者同士の交流は、少しできた。保護者とは、送迎時に子育ての悩みや喜びなど様々な情報交換をして、子どものことについての共通理解を密にするよう心がけた。また必要に応じて、ゆっくりと話す時間を設け、母親のメンタルケアや親子の良好な関係構築につなげることができた。今後も母親支援を高めていきたい。
 - ・学童の保護者では、卒業後の進路についての相談が多かった。
- ◎ソーシャルスキルトレーニング：発達に応じて、電車などの公共機関や買い物、調理など生活の流れに沿った必要なスキルが身につくよう支援する。また、保護者の希望も踏まえ、より生

活に根付いた技術の習得を目指していく。

・子ども同士での話し合いを通して、活動内容を決める取り組みをした。お互い意見を出し合い、意見の衝突があった場合は、職員が仲介し相手の気持ちを通訳して、折り合いがつくよう支援した。自分たちで決めた活動という意識が、スキル向上に大きく効果を発揮していた。

保育所等訪問支援：月～金

<内容>

保育所等（保育所、幼稚園、小学校、特別支援学校、認定こども園、乳児院、児童養護施設、その他市町村が認めた施設）を訪問し、障がい児以外の児童との集団生活への適応のための専門的な支援その他必要な助言を行った。

3、行 事

児童発達支援（幼児）

9月 親子遠足・保護者会→中止

12月 クリスマス会（各曜日ごと）

3月 保護者会

放課後等デイ（学童）

9月 梨狩り

12月 クリスマス会（各曜日ごと）

3月 保護者会

第2章 利用者の来園状況

1、令和3年度 月別の来園状況（定員：1日を通じて10人）

月	児童発達支援 (人)	放課後等デイ (人)	訪問支援 (人)	開園日数(日) (日)	1日平均 (人)
4	68	159	9	23	9.8
5	56	158	7	23	9.3
6	72	178	19	26	9.6
7	66	175	18	26	9.2
8	62	111	0	22	7.8
9	57	153	13	24	8.8
10	68	184	20	26	9.6
11	70	180	9	24	10.4
12	68	178	1	24	10.2
1	60	148	7	23	9.0
2	56	158	0	22	9.7
3	69	160	1	26	8.8
合計	772	1942	104	289	

保育所等訪問支援事業（計104件）

訪問施設名	登録人数	延べ人数
キッズアカデミー保育園	2	12
やまばと幼稚園	2	11
東植田幼稚園	1	3
吉野こども園	1	1
高田小学校	1	1
戸次小学校	5	18
犬飼小学校	4	40
犬飼中学校	2	8
合計	18	104

〈今年度の利用状況について〉

児童発達支援（幼児）は、OTやPT（機能訓練）の併用で、休みになることもみられた。また、保育園や幼稚園の行事で欠席になることもあった。欠席状況を踏まえて利用調整をしていくことが今後も必要である。また、今年度はコロナウイルス感染防止から利用を控える家庭がみられた。放課後等デイも体調不良以外では、コロナウイルス感染防止からの欠席が、多くみられた。

保育所等訪問支援もコロナウイルス感染防止により中止になることが多かった。来年度は、コロナウイルス感染状況を踏まえて、各機関と連携しながら、今年度以上の多くの利用児の支援をしていきたいと考えている。

2、通園コースの状況（令和4年3月31日登録）

幼児12名：月曜～金曜

学童49名：月曜～土曜

第3章 職員の体制

1、職員の体制

管理者	1名
児童発達支援管理責任者（管理者兼務）	1名（常勤・専従）
保育士	4名（常勤・専従）
保育士	1名（非常勤・専従）
作業療法士	1名（常勤・専従）
児童指導員	1名（非常勤・専従）
	<u>合計 8名</u>

第4章 職員の研修

1、職員の研修

今年度も、コロナウイルス感染状況から研修が中止になることもあった。また、昨年度に続きオンラインによる zoom 研修が多かった。参加できる範囲で、職員の個性や実務経験に応じて、受講した。発達支援や療育、相談等における適切な技術や知識の向上を図る研修や人材育

成の視点から法人内外の研修会への参加もした。強度行動障害支援者養成研修等の事業運営上に必要な資格研修会も受講した。

<外部研修>

期日	研修名	場所	参加者
6月 23日	ペアレントプログラム	大分市	福田
8月 14日	ペアレントプログラム	豊後大野市	福田
9月 11日	障害児通所支援事業所等交流会	大分市	福田
9月 17日	児童発達支援管理責任者研修	大分市	福田
11月30日～12月1日	強度行動障害支援者養成研修（基礎）		
12月 12日	人権啓発研修会	大分市	玉田
3月 3日	障害児通所事業等療育職員研修・児発	Zoom	渡邊
3月 8日～ 9日	放課後等デイサービス療育研修	Zoom	荒田
3月 9日～10日	強度行動障害支援者養成研修（基礎）	大分市	福田
3月 17日～18日	強度行動障害支援者養成研修（実践）	大分市	福田

<法人内研修>

期日	研修名	場所	参加者
5月12日～14日	強度行動障害支援者養成研修	なかよしホール	福田
6月25日	中堅職員研修会	なかよしホール	久原、荒田、渡邊 玉田、釘宮
8月21日	戸次なごみ園研修会 事例検討	戸次なごみ園	福田、久原、荒田 渡邊、玉田、釘宮 藤田、川野
8月24日	キャリアパス研修	Zoom	荒田
9月 3日	2園合同保育経過記録研修	法人本部	久原、渡邊
1月21日	事例検討会	へつぎ保育園	福田、久原、荒田 渡邊、玉田
3月12日	内定職員研修会	大分市	玉田

第5章 総括

戸次なごみ園は、平成29年5月8日開園いたしました。放課後等デイサービス事業は、大分支援学校の児童生徒を中心に、地域の小学校支援学級（戸次小、松岡小、明野東小、別保小、高田小、犬飼小など）の学童を支援しています。今年度の登録は、49名でしたが、現在も利用の問い合わせがあります。待機待ちを了解の上で見学を受け入れ、法人の理念や園の療育方針などを丁寧に説明することを心掛け、福祉サービスの啓発に努めました。年々、支援学校への就学が増えていることから、今後も利用希望が多いことが伺えるため、定員の状況に応じて、柔軟に対応していきたいと思っております。

児童発達支援事業は、平成29年9月1日から事業を開始しました。今年度は、2歳から6歳までの幼児12名でした。育ちや発達に心配のある子どもの保護者や関係機関、保健師からの問い合わせが多く、定員超過の状況を説明し、待機待ちをしていただいている状況です。単

独通園ができる児童発達支援事業所は、大分市内にそれほど多くない為、当法人への利用希望者が増えていくことが予想されます。また、園庭のある事業所も少なく、体を動かして活動してほしい希望の保護者も多くいることが伺えました。

保育所等訪問支援事業を通して、保育園や幼稚園と連携した結果、安定して集団生活を送ることができる子どももいました。また、幼稚園や小学校への就園・就学に対して、各機関と情報共有など密な連携により、スムーズな就学等につなげることができました。今後も必要に応じて、就園・就学への取り組みを積極的に取り組んでいきたいと思ひます。

今年度も体を動かす活動「動の活動」とじっくり取り組む「静の活動」を多く取り入れました。園庭で追いかけて走ったり走り回ったりを始めて、ストライダーや三輪車など操作する楽しさを味わい、楽しく遊べる心身の療育に力を入れてきました。また、知育教材（パズルやブロック等）や製作活動（絵画や書道、七夕・クリスマスツリー製作等）などの「静の活動」では、個々の特性や実態に応じて、取り組んできました。幼児は、身体機能や体力の向上、学童には、ストレス発散やリフレッシュにつなげることができたと感じています。また、高校生や中学生では、ゆっくり自分の興味ある話や日々の悩み、将来の仕事について受け止めながら支援し、心のリフレッシュにもつなげていきました。

来年度も子どもたちの気持ちに寄り添いながら、療育について職員間で研修研鑽し、子どもたちの心の育ちを支え、興味関心のある様々な活動を提供し、安心して楽しく過ごせる充実した生活を支援していきたいと思ひます。また、保護者会もコロナ感染状況を踏まえて開催していきたいと思ひます。今後も、情報を発信しながら、保護者とのつながりを大切に、家庭支援に取り組んでいきたいと思ひます。

来年度もコロナ感染防止対策を徹底しながら、安全で安心した療育活動を展開していきたいと思ひます。法人内の各事業所とも連携を図りながら、利用児に寄り添う支援を中心に、戸次なごみ園がみんなの心の居場所になれるよう職員一丸となって努力していく所存です。

令和3年度 相談支援事業所プラス 事業報告

第1章 計画作成状況

	計画数	モニタリング数
障がい者	4	10
障がい児	52	186
(総数)	56	196

第2章 職員研修・協議体・講師等実施状況

1) 研修、講師

期 日	研 修 名	場 所
R3. 5. 12~14	強度行動障害者支援者養成研修（法人内）	豊後大野市
R3. 5. 24~25	強度行動障害者支援者養成研修（国研修・基礎）	ZOOMにて
R3. 5. 27~28	強度行動障害者支援者養成研修（国研修・実践）	ZOOMにて
R3. 7. 29	親亡き後支援者養成研修①	大分市
R3. 8. 4	親亡き後支援者養成研修②	大分市
R3. 9. 13	親亡き後支援者養成研修③	大分市
R3. 10. 20	親亡き後支援者養成研修④	大分市
R3. 11. 1	親亡き後支援者養成研修⑤	大分市
R3. 11. 17	強度行動障害者支援者養成研修（県・基礎）	大分市
R3. 11. 26	定期事例検討会	大分市
R3. 11. 30	強度行動障害者支援者養成研修（県・実践）	大分市
R4. 3. 10	強度行動障害者支援者養成研修（県・基礎）	大分市
R3. 3. 17	強度行動障害者支援者養成研修（県・実践）	大分市

2) 協議体

期 日	会 議 名	場 所
毎月	豊後大野市自立支援協議会 相談支援部会	豊後大野市

2ヵ月毎	豊後大野市自立支援協議会 生活支援部会	豊後大野市
不定期	豊後大野市自立支援協議会 定例会	豊後大野市
不定期	地域移行支援会議	豊後大野市

第3章 職員体制

管理者	(兼務)	1名
相談支援専門員	(専従)	1名
事務員	(専従)	1名

第4章 総括

今年度は法人内に相談支援事業所プラスαが開設されたこともあり、大きく体制が変更してのスタートとなりました。加えて、収まることのないコロナ禍の下では研修や会議は最低限の開催となる等全体的に縮小傾向の中での支援展開ではありましたが、利用者等や事業所と電話やメールでのこまめなやりとり、個々で会って話をする等じっくりと丁寧に関わることができ、着実に信頼関係を築けつつあると感じています。特に関係事業所においては、利用者等とのやりとりにおいてこちらの対応や心配りが行き届かない点や直接的な対応等様々な面でご配慮いただき、大変感謝しております。また、プラスαとは毎月1回業務における確認事項や対応について話し合う時間を設けており、連携して相談業務を遂行することができていると思われる為、今後も協力していきたいと考えます。

豊後大野市からは昨年同様に相談支援事業の委託を受け、業務遂行させていただきました。職員体制の変更により、昨年度に比べると相談対応件数はかなり減少しましたが、市役所や他相談支援事業所のサポートやフォローを受けながら1つ1つのケースに丁寧に関わることができ、結果としていずれのケースも良い方向に繋げることができました。

新体制での1年を終え、相談支援業務の幅の広さに戸惑いながらも、利用者等や関係機関・事業所に支えられて進めることができ、『地域で(皆で)支え合う』ということの重要性を改めて感じています。今後も、利用者個々のニーズに沿った支援プランを提案できるよう日々の支援に努めていくと同時に、事業所として求められている役割が何か？ということを常々考え、地域での相談支援に貢献することができるよう努めてまいります。

令和3年度 いぬかいこども園 事業報告

第1章 施設運営

(1) 理念と方針

子ども達の発達と職員の働きがいを最大限保障する施設を目指します

1. 子育て支援の核として、地域ニーズに応える施設を目指します
2. 行き届いた説明と情報開示により、信頼される施設を目指します
3. 常に業務内容の点検・検討を行い、安全と安心の向上を目指します
4. 多角経営と人事交流により、効率的で安定した運営を目指します
5. 人材育成と人事考課制度により、職員が働きがいと誇りの持てる施設を目指します

(2) 実施事業内容

- | | |
|------------------|------------------|
| 1. 教育保育事業（1号） | 月～金（9：00～13：00） |
| 2. 教育保育事業（2号・3号） | 月～土（7：00～18：00） |
| 3. 特別保育事業 | 月～土（7：00～18：00） |
| 4. 延長保育事業 | 月～土（18：00～19：00） |
| 5. 一時保育事業 | 月～金（9：00～17：00） |
| 6. 子育て支援センター事業 | 月～金（9：00～14：00） |

(3) 児童処遇（定員75名）

本年度は79名でスタートし最大で83名の受け入れを行いました。乳児保育については、月齢差を考え職員配置に配慮して行いました。特別保育に関しては、なかよしひろばとの併行通所利用園児が8名在籍しており、個別ケース会議の実施等を通して関係機関との連携を図りながら支援しました。延長保育は今年も1時間延長を行い平均して2名～3名の受け入れを実施しています。一時保育においては、事業運営に支障がない範囲で今年も受け入れる態勢を整えましたが、コロナ禍であり利用者受け入れができない状況でした。子育て支援センターは、今年も千歳の出張ひろばの活動も委託され実施しました。

1. クラス編成（令和4年3月31日）

クラス名	年齢	2・3号	1号
めばえ	0歳	13	
つぼみ	1歳	11	
つくし	2歳	12	
たんぽぽ	3歳	11	3

すみれ	4歳	20	5
さくら	5歳	6	4
合 計		73	12

2. 事業編成（令和4年3月31日）

事業名	保育教諭数（パート）	その他の職員数
教育保育	12（3）	0
一時保育	0（1）	0
特別保育	1	0
延長保育	交代制	0
子育て支援センター	1（2）	0
園長・副園長	1	1
主幹保育教諭	2	0
看護師	0	1
調理師	0	2（3）
運転手	0	0（1）
合計	17（6）	4（4）

3. 月別利用児童数（月初め）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	平 均 79人
79人	79人	77人	77人	77人	77人	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
77人	78人	80人	83人	83人	83人	

4. 月別開園日数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	合 計 290日
25日	23日	26日	25日	25日	21日	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
26日	24日	24日	23日	22日	26日	

5. 月別一時保育利用数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	合 計 0人
0人	0人	0人	0人	0人	0人	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
0人	0人	0人	0人	0人	0人	

6. 月別特別保育利用数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	平均 7.3人
6人	6人	7人	7人	7人	7人	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
8人	8人	8人	8人	8人	8人	

7. 延長保育利用児童数（一日平均）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	平均 2.4人
3人	4人	3人	2人	1人	3人	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
2人	2人	2人	2人	3人	2人	

8. 月別子育て支援センター利用数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計 2265人 大人1001人 子ども1264人
209人	148人	228人	174人	173人	178人	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
212人	252人	205人	208人	48人	230人	

*2月：コロナ禍のため休業要請週間あり。

9. 健康管理・感染症対策

子どもたちの体調の変化については、様子を観察後、異変があった場合は早急に保護者へ連絡し、病院受診等をお願いしました。特に頭部の怪我については配慮しました。園での子どもたちの体調の変化は、口頭でお伝えするようにして家庭と密に連絡をとるようにしています。

新型コロナウイルス感染症対策として毎朝の検温と健康観察を園児と職員に実施しました。職員による園内の定期的な消毒も実施しています。併せて専門業者による除菌、抗菌作業も実施しました。玩具に関しては、赤外線にて除菌・抗菌を行う機器を導入し、定期的に使用しています。職員による感染症研修会の実施も行い、実際に吐物処理の実演も行いました。

厚生労働省による保育所における感染対策ガイドラインや豊肥保健所における情報などをもとにほけんたよりの発行をし、感染症の園内感染者情報を園に掲示して全体に周知しました。

職員の健康管理については、職員健診やインフルエンザの予防接種を実施しています。

10. 年間保健行事

保健行事	歯科指導（6月）手洗い指導（10月）
内科健診	全園児（前期7月6日）（後期12月13日）
薬剤師検査	水質検査（8月5日）
身体測定	全園児（毎月）
歯科健診	全園児（前期11月4日）（後期2月24日）
職員の健康管理	職員健診、インフルエンザ予防接種

11. 年間行事

（月例行事：誕生会・身体計測・避難訓練・サッカー教室）

（隔週行事：運動遊び）

月	行事
4月	第6回入園式 第7回入園式 たけのこ収穫体験
5月	こどもの日楽しみ会
6月	芋の苗植え 歯科指導 人参収穫体験 第1回保護者の会役員会 プール掃除
7月	プール開き 内科検診 七夕・縁日ごっこ クッキング（さくら組） サマーナイト（さくら組） 一日保育者体験
8月	第2回保護者の会役員会 こざいこども園年長児交流（プール） プール納め
9月	プール納め（以上児） 小運動会
10月	大運動会 クッキング（すみれ組） 社会見学（さくら組） 第3回保護者の会役員会 クッキング（さくら組）
11月	歯科検診 秋の遠足 芋ほり ピーマン収穫体験 サファリごっこ クッキング（さくら組） クッキング（すみれ組） 親子研修遠足（以上児） クッキング（すみれ組） 消防ひろば 観劇（そらいろ人形劇場）
12月	焼き芋・だんご汁大会 第3回保護者の会役員会 犬飼小学校交流会（さくら組） はっぴょう会リハーサル 内科検診 はっぴょう会 クリスマス会 大掃除 保育納め
1月	保育始め こざいこども園年長児交流（サッカー） 凧あげ 餅つき バイオプロテクトCT施行
2月	節分・豆まき 卒園記念制作（タイルアート） お店屋さんごっこ 歯科検診 サッカー大会（さくら組）
3月	おもいで遠足 雛祭り クッキング（さくら組） クッキング（たんぼぼ組） 卒園式リハーサル お別れ会食会 第4回保護者の会役員会 第7回卒園式 新年度入園内定者説明会

(4) 教育保育理念と目標

今年度もコロナ禍での園生活となり年間を通した活動や運動会、発表会などの各行事も制限や縮小をしながらではあるが、実施することができたことで、それぞれの場面で園児が自信を得る機会を設定することができました。3歳、4歳、5歳児クラスには配慮を要する園児が複数在籍しながら、個々の多様性を尊重する取り組みが日常の保育の中で営むことができ人権意識も深まりました。異年齢での活動を多く取り入れることで、優しさや憧れをいなく機会も設定しました。5歳児は配慮の必要な園児を含め24名と多いクラス運営となりましたが、年間を通して活動を積み重ねることにより、集団のルールだけではなく自分や友だちの個性を認めながらも自分の力を発揮している姿を見ることができました。

また、園内での野菜栽培や園外で作物を種まきから収穫する等、社会体験学習の機会を取り入れるなど、幅広く食育活動もすすめてきました。

1. 教育保育理念

子ども一人一人をかけがいのない存在として尊重し、保護者や地域社会とともに人権意識を育む。

2. 教育保育目標

- 明るく伸び伸びした子ども
- 喜んで話し喜んで聞く子ども
- 思いやりのある優しい子ども
- 心豊かで工夫する子ども
- よく見よく考える子ども

3. 7つの教育保育方針

- ① 家庭や関係機関と連絡をとりあい、安心感を育てます。
- ② よく食べ、よく遊び、しなやかで丈夫な身体を育てます。
- ③ のびのびと成長・発達する心を育てます。
- ④ 自分を大切にし、お友達の個性が理解できる知識を育てます。
- ⑤ 聴く力、考える力、ゆたかに自己表現できる才能を育てます。
- ⑥ 身辺自立の基盤となる生活習慣を育てます。
- ⑦ お友達の気持ちや集団生活のルールを考える力を育てます。

4. 各組の教育保育目標

① さくら組（5歳児）の年間目標

目標に向けて力を合わせ、達成感や充実感を味わうことで仲間意識を育て、お互いに相手を許したり、異なる思いや考えを認められる知識を獲得する。

② すみれ組（4歳児）の年間目標

身近な環境に積極的に関わることで、想像的・目的的な行動ができるようになり、身近な人の気持ちを察して、手伝ったり、自分の気持ちを抑えることができる。

③ たんぽぽ組（3歳児）の年間目標

身辺が自立し、知的興味や関心が高まるとともに、予想や意図、期待を持って自らすすんで行動できる。いろいろな行事や活動を体験しながら、集団への関心を高める。

④ つくし組（2歳児）の年間目標

基本的な運動・指先機能が高まり、身の回りのことを自分でしようとしたり、動作やおしゃべりといった表現活動や模倣遊びを楽しむ。

⑤ つぼみ組（1歳児）の年間目標

大人との信頼関係のもとで意欲的に身近な人や身の回りの物に働きかけ、指さし、身振り、片言などを盛んに使いながら遊ぶ。

⑥ めばえ組（0歳児）の年間目標

保育教諭との親密な関わりを通して、情緒的な絆が形成され、安心感のもとで周囲の人や物に興味を持つ。表情や動作、発声などのサインを通して、コミュニケーションをとる。

⑦ 特別保育の年間目標

発達特性に向けた配慮のもと、諸機関と連携しながら個別の発達段階に応じた教育保育を提供する。

（5）食事

検食担当職員の感想をもとに給食会議にて、献立内容や味付け・形態について検討しました。試食会の代わりに給食レシピや災害時の食事バランスガイドなどを配布しました。食育に関しては、筍掘りをして園庭で皮むきをして給食とおやつで提供しクッキング活動を通して、自分たちが育てた野菜を楽しんで味わう機会と郷土料理を作り味わう機会を設け、生きる力を育む食育に取り組みました。また、災害の日に非常食の説明をし、非常食の試食をすることで非常食がどのようなものか知ってもらう機会を作りました。

1. 目標『味わいながら、楽しく食べる子』に育てる。

配慮事項

- ① 薄味に心がける。
- ② 旬の素材を使った献立作りを心がける。
- ③ 見た目においしく、食べておいしい食事づくりを心がける。
- ④ 保護者や保健所との連携を密にし、個別的な配慮を心がける。

2. 栄養管理

毎日の献立の栄養計算を行い、月報を作成しました。

3. 食育

食育だより：毎月の献立表にいぬかいこども園の食事の紹介や食育活動の様子、栄養情報などを記載しています。アレルギー児に関しては個別に対応しました。

給食会議：0歳児は月1回の離乳食会議にて子どもの食事の状況、離乳食の移行時期、献立については、園長・主幹・クラス担当・栄養士・調理員で検討しました。

・アレルギー食数（1日平均）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	平均 3.4人
3人	3人	3人	3人	3人	3人	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
3人	3人	3人	4人	5人	5人	

4. 衛生管理

衛生チェック表を作成し、毎日衛生項目に添って確認するとともに、調理員の細菌検査（毎月1回）調理室の掃除、ワゴン清掃（毎日）、冷蔵庫消毒、食器洗浄後熱風庫にて保管、原材料・調理済み食品を保存（2週間）しました。

・細菌検査

4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計 342人
30人	28人	28人	30人	31人	28人	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
28人	27人	29人	27人	28人	28人	

5. 特別食（離乳食・アレルギー）に関して

離乳食に関しては、園児1人1人に合わせて無理なく進めました。アレルギー食については、園児専用の食器を準備し、保育者と連携を取りながら安全な提供を行いました。また、完全除去により不足する栄養素を考慮し、可能な限りの代替食での対応を行いました。

・離乳食数（0歳児）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計 53食
7人	5人	4人	5人	5人	4人	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
3人	2人	2人	6人	5人	5人	

・月別給食仕出し食数（なかよしひろば）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	合 計 1463食
147食	99食	134食	132食	135食	111食	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
136食	119食	115食	110食	92食	133食	

6. 豊後大野市認可保育園献立会議

4月14日・6月9日・7月14日・11月10日・12月8日・1月12日 3月9日

（6）職員処遇

新制度への移行に伴い、職員体制を手厚くすることができ、専門性の向上に向けて研修等へも積極的に参加をしました。

1. 健康管理

・健康診断 1年 1回（9月）

2. 職員会議

・全体会議

4月5日 4月7日 5月20日 6月4日 6月24日 7月15日 8月26日 9月3日 9月14日 9月30日 10月21日 11月26日 12月24日 1月27日 2月17日 3月15日 3月19日
--

・主任会議（4/19 8/24 11/19）

クラス担当者会議（全体会議の他に必要に応じて開催）

未満児：4月13日 5月29日 8月19日 10月20日 11月11日 12月3日 1月14日 2月17日 3月25日
--

以上児：4月8日 4月23日 5月18日 6月16日 8月6日 8月19日 10月15日 11月2日 11月5日 11月11日 12月4日 1月20日 2月17日 3月25日
--

3. 研修報告

・園内

研修名	日時	場所
どうする？保護者対応・保護者支援事例を交えて	4月1日	遊びの部屋
どうする？保護者対応・保護者支援事例を交えて	4月1日	遊びの部屋

保育者としての専門性 丁寧な保育とは？	8月26日	遊びの部屋
子どもの未来を支える保育環境の作り方	9月25日	子育て支援センター
いろいろな色をもつ子ども達 みんなちがってすてきなね！	12月27日	子育て支援センター

・豊後大野市教育保育協議会

日時	内容	場所
4月27日	園長会	豊後大野市役所
5月18日	園長会・総会	豊後大野市役所
7月14日	調査・広報委員会メール会議	
9月24日	調査・広報委員 zoom 会議	ZOOM
10月6日	調査・広報委員 zoom 会議	ZOOM
10月23日	スキルアップ研修（講演会）	大野公民館
11月26日	園長会	豊後大野市役所
11月30日	調査・広報委員会校正会議（メール）	
12月17日	調査・広報委員会わくわく通信配布、仕分け	豊後大野市役所
2月22日	園長会	豊後大野市役所

・外部研修

研修名	日時	場所
新任職員研修会	4/26～27	オンライン
(園)長・主任研修会	5/16 ・/5/25	オンライン
キャリアアップ研修【マネジメント】	6/11 6/14 ・15	オンライン
保育コーディネーターフォローアップ研修全体研修①	6/21	オンライン
キャリアアップ研修【保護者支援・子育て支援分野】	6/16～6/17 6/24	オンライン
保育コーディネーターフォローアップ研修専門講座②	7/30 ,8/19, 9/17	わくわくかん
豊後大野市キャリアアップ研修（保護者支援・子育て支援）	8/17～8/18	豊後大野市役所
専門職員研修Ⅱ（幼児教育）	8/30～9/1	オンライン
食育推進研修会	9/9,10 9/17	オンライン
スキルアップ研修「非認知能力」が子どもを伸ばす	10/23	大野公民館
認定こども園研修会	11/25	オンライン
キャリアアップ研修会専門職員Ⅰ（乳児保育）	11/22 ～1/31	eラーニング
キャリアアップ研修（保健衛生・安全対策）	11/22 ～1/31	eラーニング

豊後大野市キャリアアップ研修（乳児保育）	11/29,30	豊後大野市役所
子育て支援員研修	11/30	オンライン
保育コーディネーターフォローアップ研修全体研修②	12/21	オンライン
大分県保育事業大会	1/21	オンライン
保育コーディネーター養成研修」閉講式	2/1	オンライン
保育コーディネーター、キャリアアップ研修（補講）	2/21,24	オンライン

第2章 施設管理

（1）避難訓練・設備管理の実施状況

1・避難訓練月日

4月27日	5月28日	6月28日	7月29日	8月27日	9月29日
地震・火災	火災	不審者侵入	火災	台風	地震・火災
10月27日	11月29日	12月23日	1月28日	2月25日	3月14日
火災	消防ひろば	地震・火災	地震	不審者侵入	地震・火災

2・遊具点検月日

4月1・27日	5月28日	6月28日	7月30日	8月27日	9月9日
10月29日	11月29日	12月23日	1月31日	2月25日	3月14日

3. 消防用設備等点検

令和3年8月26日、令和4年2月24日

第3章 諸機関との連携

（1）保護者との連携

・連絡帳を通して、こどもたちの日々の様子を伝達するとともに、園だよりとクラスだよりを毎月1回発行しました。

・メーリングリストを作成し、緊急のお知らせや感染症などのお知らせを行いました。

・保護者アンケートを通して、ニーズの調査を行いました。

（給食試食会、個人面談、保育教諭体験等について）

（2）小学校や幼稚園との連携

進学をふまえた訪問交流を行うとともに、年長組を対象にこども園の中で芽生えた力や個性、配慮点を記録した「教育保育要録」を作成して引き継ぎました。

(3) 相談機関や療育機関などとの連携

こどもの発達や保護者のニーズに応じて、療育機関やなかよしひろばとの併用利用を導くとともに、療育機関や福祉制度の利用についての案内をご家族に行い、合計 8 名の児童を特別に保育しました。

(4) 地域との連携

1. 地域における世代間交流や異年齢児交流、育児講座への参加や開催を、縮小且つ内容変更等を熟考しながら開催しました。

会議・交流事業名	日時	場所
愛育会・班会	4月8日	犬飼支所
愛育会・班会	6月(中止)	
愛育会・班会	8月5日	犬飼支所
愛育会・班会	10月7日	犬飼支所
愛育会・班会	12月9日	犬飼支所
愛育会・班会	3月3日	犬飼支所
支援センター連絡会議	8月5日	本庁会議室
支援センター連絡会議	3月17日	本庁会議室
消防ひろば	11月29日	こども園
そらいろ人形劇鑑賞	11月30日	なかよしホール
県央豊肥ブロック地域子育て拠点 子育て支援拠点スタッフ ネットワーク研修	11月30日	エイトピアおおの 会議室
愛育会親子クリスマス会	12月21日	なかよしホール
なかよしこよしのつどい	中止	
こどもひろば	中止	
こども園運動会交流	中止	
こども園もちつき交流	中止	

2. 地域の子育て家庭を援助するため、一時保育、園庭開放、育児相談、子育て講座の開催、絵本の貸出、出張ひろば、男性子育て応援企画、地域向け育児情報の提供等からなる豊後大野市子育て支援拠点事業を実施しました。(コロナ禍で内容縮小・変更等あり)

月	行事
4月	誕生表作り・こいのぼり制作・母の日制作
5月	保健講話・野菜の苗植え・お見知り遠足

6月	園庭遊び・プレゼント制作・ママのリフレッシュ講座・七夕制作
7月	子育て座談会（講師依頼）・水遊び・夏祭り
8月	きらきら出張相談会・水遊びおさめ
9月	敬老の日制作・おやこからだ教室・ママのリフレッシュ講座・パパといっしょ
10月	運動会ごっこ・九電 IH クッキング・ママのリフレッシュ講座
11月	子育て座談会（講師依頼）・秋の遠足・九電 IH クッキング・こども園体験保育
12月	クリスマス制作・ママのリフレッシュ講座・リンパケア講習
1月	リズム楽器遊び・ゆうゆうキッズカフェ・鬼のお面制作
2月	おひな様制作＊開所自粛期間あり＊
3月	おやこからだ教室・記念品制作・お別れ遠足・お別れ会・パパといっしょ

＊毎月：身体計測・誕生会・身体計測・園庭開放

＊毎週木曜日：ちとせ出張ひろば

○ペアレント・プログラム事業（大分県委託事業）

豊後大野市（2回）	竹田市（1回）
（対象者） 三重幼稚園保護者	（対象者） こどもデイサービスゆうゆう利用家庭
（会 場） 豊後大野市中央公民館	（会 場） こどもデイサービスゆうゆう会議室
（対象者） おおの子育て支援センター利用家庭	
（会 場） 大野公民館	

3. 地域交流や次世代育成を踏まえ、ボランティアや実習生を受け入れています。

期日	ボランティア・実習生	内容
5月18, 19日	犬飼中学校2年生	職場体験延期 12、3月中止
5月25日	犬飼公民館	チャレンジデー 中止
6月15日	小野農園	人参収穫体験
6月29日	要保護会議	地域の要保護家庭について
7月5日	野津FC	サッカー教室
8月26日	いぬかいこども園保護者	一日保育者体験
8月27日	野津FC	サッカー教室
10月12日	愛育会	支援センター 運動会ごっこ
10月28日	野津FC	サッカー教室

11月10日	麻生農園	ピーマン収穫体験
11月17日	子育て支援センター	保育体験
11月26日	社会福祉協議会	元気ハツラツ交流会(お達者レター)
12月7日	愛育会	支援センター 講座託児
12月8日	犬飼小学校1年生	年長児との交流会
12月21日	愛育会	支援センター クリスマス会
12月23日	野津FC	サッカー教室
2月	要保護会議	地域の要保護家庭について

第4章 総括

今年度は最終的に85名の受け入れを行いました。24名の卒園児を抱える状況であり園児の減少が進む状況にあります。豊後大野市の出生数は毎年10人に満たない状況を見ると今後の定員数の変更を視野に入れる必要があると思われま。

園生活については、コロナ禍の状況が続いており、様々な園の行事を変更しての実施となりました。このような中でも子ども達の大切な経験の場として運動会や発表会、卒園式等の大きな行事は縮小を強いられながらも行うことができ、子ども達の成長した姿を見ることができました。今後もいぬかいこども園としての感染症対策を徹底しながら保護者への協力を求め、継続して園運営ができる環境を作っていきたいと思ひます。

豊後大野子育て総合支援センターとしては、子ども一人ひとりの多様性を尊重し、児童発達支援センターなかよしひろばとの更なる連携を深めていきます。地域での子育て家庭への支援も子育て支援センターの利用を周知することで、こども園への受け入れにつながる園児も確保することができました。あと、大分県からの委託事業である、ペアレント・プログラムも3年間の延長事業となり、実施できる職員の育成を考えると共に他機関へ講師として出向くことで関係機関との連携も深めました。

職員の育成については、コロナ禍で多くの研修が中止やZOOMでの参加となり、対面での研修に制限がかけられる中で職場内での研修を多く行うことにより、職員自らで考え提案しやすい職場の雰囲気作りに今後も取り組みたいと思ひます。

職員の体制については、法人内での連携を図ることにより地域での保育士不足の喫緊の課題もなく事業運営ができ加算分の配置も確保することができています。産休や育休においても職安への対応を迅速に行うことで補充をおこなうことができました。今後も職員に働きやすい環境を提供していきたくて思ひます。

令和3年度 こざいこども園事業報告

第1章 施設運営

(1) 理念と方針

子どもたちの発達と職員の働きがいを最大限保障する施設を目指します

1. 子育て支援の核として、地域ニーズに応える施設を目指します
2. 行き届いた説明と情報開示により、信頼される施設を目指します
3. 常に業務内容の点検・検討を行い、安全と安心の向上を目指します
4. 多角経営と人事交流により、効率的で安定した運営を目指します
5. 人材育成と人事考課制度により、職員が働きがいと誇りの持てる施設を目指します

(2) 実施事業内容

1. 通常教育保育 月～土（7:00～18:00）
2. 特別教育保育 月～土（7:00～18:00）
3. 延長保育 月～土（18:00～19:00）
4. 預かり保育 月～金（14:00～18:00）

(3) 児童処遇

定員75名（1号15名、2号27名、3号33名）

本年度は85名でスタートし、最大で89名の受入れをしました。

特別教育保育に関しては2名の児童を大分なごみ園や学校等と連携して支援しました。

延長保育は1時間延長を開所しましたが、利用する家庭は多くありませんでした。

一時保育はニーズが減少しているため、預かり保育のみ行いました。

1. クラス（）内は1号

クラス名	年齢	30年4月	31年3月	2年3月	3年3月
つき	0歳	7	11	10	10
ほし	1歳	11	12	13	13
そら	2歳	14	13	13	12
ひかり	3歳	16（3）	12（6）	14（5）	14（4）
にじ	4歳	13（3）	10（3）	10（9）	13（5）
はな	5歳	15（1）	14（2）	11（3）	9（9）
合計		76（7）	83（11）	88（17）	89（18）

2. 事業編成（令和3年3月31日）

事業名	保育教諭（パート）	その他の職員
教育保育	16（3）	5（5）
一時・預かり保育	0（2）	0
特別教育保育	0（2）	0
延長保育	交代制	0

3. 職種

職名	保育教諭 (パート)	その他の職員
園長	0	1
副園長	1	0
主幹保育教諭	1	0
保育教諭	14 (7)	0
看護師	0	1
調理員	0	3 (1)
保育補助、環境整備	0	0 (4)
合計	16 (7)	5 (5)

4. 月別利用児童数 (月初め)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	平均 87.3人
85人	86人	86人	86人	87人	88人	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
88人	88人	88人	88人	89人	89人	

5. 月別開園日数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計 293日
25日	23日	26日	25日	25日	24日	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
26日	24日	24日	23日	22日	26日	

6. 月別特別保育利用数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	平均 2人
2人	2人	2人	2人	2人	2人	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
2人	2人	2人	2人	2人	2人	

7. 一時預かり (1号) 利用児童数 (月平均)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	平均 15.1人
14人	12人	16人	16人	11人	17人	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
16人	14人	18人	15人	15人	18人	

8. 延長保育利用児童数 (月平均)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	平均 6.5人
3人	3人	8人	5人	6人	9人	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
5人	9人	9人	6人	6人	9人	

9. 健康管理・感染症対策

体調の変化について連絡帳や家族との口頭でのお知らせを通して家庭と密に連絡をとるとともに、異変があった時には緊急連絡や病院の受診を行うなど、早めの対応を行いました。今年度も引き続き新型コロナウイルス感染症が流行したため、県や市から通達があった厚生労働省のガイドラインに従って、感染予防行動を職員、園児、保護者に口頭や文書を用いて周知しました。手洗い・手指消毒の徹底、園内の環境整備（アルコール消毒）、職員・園児の検温表記入の徹底を実施しました。

新型コロナ感染症者が発生した場合は、速やかに保健所（規定が変更になる前まで）、幼児保育教育課、嘱託医に連絡し連携を取り、三者の指示に従い行動しました。玩具や室内の消毒は毎日行っていました。感染者が発生した場合は、より念入りに消毒を行いました。厚生労働省による保育所等における感染症対策ガイドラインや大分市保健所による食中毒・感染症対策情報をもとに、保健だよりの発行やインフルエンザや他の感染症の園内感染者数を園に掲示して全体に周知しています。嘔吐下痢が発生した場合は、朝礼などで職員に消毒方法や換気についてその都度説明し実施してもらいました。一年を通して室内温度と湿度の管理を行い、エアコンや床暖房などで環境の調整をしました。環境整備としては、毎日最低でも1回は次亜塩素酸ナトリウムでの消毒を各クラスで行っています。エアコンや加湿器のフィルターの掃除もこまめに行うようにしました。また換気は最低でも1時間毎に行いました。夏季は外気温に注意して園外活動を行い、水分摂取を細目に促しました。職員が感染の媒介者とならないために、マスクの装着やアルコール消毒・石鹸での手洗いを促しました。

10. 年間保健行事

内科健診	全園児（前期4月20日）（後期10月12日）
薬剤師検査	水質検査（5月24日） 室内二酸化炭素検査（2月2日）
身体測定	全園児（毎月）
歯科健診	全園児（前期5月15日）（後期10月20日）

11. 年間行事

（月例行事：誕生会・身体計測・避難訓練）

月	行事
4月	第3回入園式 玉葱の収穫（はな） 内科検診 歯科検診
5月	保護者面談（ひかり・にじ・はな） さつま芋の苗植え（はな） 小佐井商店（はな）
6月	保育参加（つき・ほし・そら） 社会見学（はな） ジャガイモの収穫（にじ・はな） 玉葱収穫（にじ） 歯科指導（にじ・はな） 保育参観（はな） プール開き（ひかり・にじ・はな） クッキング（ひかり・はな）
7月	夏まつり（全園児） プール開き（ほし・そら） トウモロコシ皮むき（ひかり・にじ） クッキング（にじ）
8月	プール納め スイカわり 食育活動 野菜スタンプ（そら） 地域交流事業 （はな・卒園児） 別府短期大学実習
9月	小運動会 秋のお楽しみ会（はな） 保育参加（ひかり・にじ） クッキング（ひかり・はな） 別府短期大学生実習
10月	大運動会 ハロウィン 内科検診 歯科検診 じゃが芋の苗うえ（にじ） 芋ほり 次年度1号説明会 クッキング（にじ）

11月	秋の遠足 秋の収穫祭 消防広場 社会見学ラクテンチ (はな) クッキング (にじ・はな) 保育参観 (ひかり・にじ) 地域交流事業 (はな・卒園児) 焼き芋会 (ひかり・にし・はな)
12月	餅つき クリスマス会 クッキング (そら・ひかり) ラクテンチごっこ 東高等学校3年生保育実習
1月	鏡開き 生活発表会リハーサル 大根の収穫 いぬかいこども園交流サッカー 交流 (はな)
2月	節分 別府短大実習 生活発表会 新入園児一号体験入学 地域交流事業 (はな・卒園児)
3月	ひな祭り 思い出遠足 入園説明会 地域交流事業 卒園式リハーサル、お別 れ会食会 クッキング (にじ・はな) 第3回卒園式

(4) 教育保育理念と目標

認定こども園として教育要素を高めるための研修や園内での公開保育、ミーティング等を通して職員全員がこどもの発達に応じた教育保育環境に配慮するとともに、運動会や生活発表会などの各行事場面で園児が主体的に参加できるように演出することで、クラスや園全体がまとまってきました。人権意識については、日常の教育保育場面で丁寧な代弁的な関わりをすることにより、聴く力や考える力のみならず、周りの人の気持ちを考える力も深まりました。

各行事場面で集団のルールだけでなく、自分や友だちの個性を認めながら自分の力をのびのびと発揮している姿を見ることができています。

また、地域の方々の協力のもと、玉ねぎや芋の収穫や調理等の社会体験学習の機会をつくることができ、食育活動もすすめることができました。

1. 教育保育理念

子ども一人一人をかけがいのない存在として尊重し、保護者や地域社会とともに人権意識を育む。

2. 教育保育目標

- 明るく伸び伸びした子ども
- 思いやりのある優しい子ども
- よく見よく考える子ども
- 喜んで話し喜んで聴く子ども
- 心豊かで創工夫する子ども

3. 7つの教育保育方針

- ① 家庭や関係機関と協働し、安心感を育てます。
- ② 伸び伸びと成長・発達する心を育てます。
- ③ 身辺自立の基盤となる生活習慣を育てます。
- ④ よく食べ、よく遊び、しなやかで丈夫な身体を育てます。
- ⑤ 友達の気持ちや集団生活のルールを考える力を育みます
- ⑥ 自分を大切にし、友だちの個性が理解できる知識を育てます
- ⑦ 聴く力、考える力、ゆたかに自己表現できる才能を育てます。

4. 各組の教育保育目標

① はな組（5歳児）の年間目標

目標に向けて力を合わせ、達成感や充実感を味わうことで仲間意識を育て、お互いに相手を許すことや異なる思いや考えを認められる知識を獲得する。

② にじ組（4歳児）の年間目標

身近な環境に積極的に関わることで、想像的・目的的な行動ができるようになり、身近な人の気持ちを察して、手伝ったり、自分の気持ちを抑えたりできる。

③ ひかり組（3歳児）の年間目標

身辺が自立し、知的興味や関心が高まるとともに、予想や意図、期待を持って自らすすんで行動できる。いろいろな行事や活動を体験しながら、集団への関心を高める。

④ そら組（2歳児）の年間目標

基本的な運動・指先機能が高まり、身の回りのことを自分でしようとするとともに、動作やおしゃべりといった表現活動や模倣遊びを楽しむ。

⑤ ほし組（1歳児）の年間目標

大人との信頼関係のもとで意欲的に身近な人や身の回りの物に働きかけ、指さし、身振り、片言などを盛んに使いながら遊ぶ。

⑥ つき組（0歳児）の年間目標

保育教諭との親密な関わりを通して、情緒的な絆が形成され、安心感のもとで周囲の人や物に興味を持つ。表情や動作、発声などのサインを通して、コミュニケーションをとる。

⑦ 特別保育の年間目標

発達特性に向けた配慮のもと、諸機関と連携しながら個別の発達段階に応じた教育保育を提供する。

（5）食事

検食担当の職員の感想をもとに給食会議にて、献立や食器についての感想や反省、改善案などを検討しました。今年度もコロナ対策の為、テラスでの喫食やクッキングの際は各自のトレーを用いて衛生面にも配慮して行いました。コロナ禍での活動で制限がありましたが、行事の時にも見た目から楽しんでもらえる食事の提供に努めました。

1. 目標『食に興味を持ち、楽しく食べる子』に育てる。

配慮事項

- ① 薄味に心がける。
- ② 旬の素材を使った献立作りを心がける。
- ③ 見た目においしく、食べておいしい食事づくりを心がける。
- ④ 保護者との連携を密にし、個別的な配慮を心がける。

2. 栄養管理

毎日の献立の栄養計算を行い、月報を作成しました。

3. 食育

毎月一予定献立表を配布（アレルギー幼児食は個別）し、食育だより一毎月の献立表にこざいこども園の食事の紹介や食事の様子、食育活動の様子なども記載しています。

給食会議一0歳児は月1回の離乳食会議にて子どもの食事の状況、離乳食の移行時期、献立については、園長・主任・クラス担当・栄養士・調理員で検討しました。

・アレルギー食数（1日平均）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	平均 1人
1食	1食	1食	1食	1食	1食	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
1食	1食	1食	1食	1食	1食	

4. 衛生管理

衛生チェック表を作成し、毎日衛生項目にそって確認するとともに、調理員の細菌検査（毎月1回）調理室の掃除、ワゴン清掃（毎日）、冷蔵庫消毒、食器洗浄後熱風庫にて保管、原材料・調理済み食品を保存（2週間）しました。

・細菌検査

4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計 277人
29人	20人	21人	21人	29人	21人	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
21人	21人	29人	21人	22人	22人	

5. 特別食（離乳食・アレルギー）に関して

個人差を考え、無理なく離乳を進めました。1歳児の食事に関しては離乳食後、間もないため、必要に応じて完了食も準備することや、アレルギーを持つ児童用に専用の食器を準備、「代替食」を対応し、子どもの症状に応じて除去解除をしました。

・離乳食数（0歳児）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計 50食
5食	7食	4食	3食	3食	4食	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
5食	5食	5食	5食	3食	1食	

6. 大分市献立会議

4月6日、7月2日、10月1日、11月1日、12月6日、1月7日 5月、6月、8月、9月、2月、3月（コロナの為中止）
--

（6）職員処遇

新制度への移行に向けて職員体制を手厚くし、専門性の向上に向けて研修等へも積極的に参加するようにしました。

1. 健康管理

・健康診断 1年 1回（9-12月）

2. 職員会議

・全体会議

4月9日、5月21日、6月11日、7月15日、8月27日、9月22日、10月29日、 11月26日、12月10日、1月20日、2月22日、3月18日

- ・クラス担当者会議（全体会議の他に必要に応じて開催）

ミニ会議	4月9日、5月21日、6月11日、7月15日、8月12日、9月22日、9月28日、10月29日、11月25日、12月10日、1月20日、2月22日、3月18日
未満児	4月6日、4月23日、5月12日、6月7日、7月5日、7月26日、7月30日、8月11日、8月23日、9月21日、10月25日、11月22日、12月7日、1月19日、2月21日、3月17日
以上児	4月28日、5月6日、5月18日、6月8日、7月14日、8月10日、9月21日、10月26日、11月24日、12月2日、1月19日、2月21日、3月17日
給食担当者会議	4月6日、5月25日、6月25日、7月26日、8月25日、9月27日、8月25日、10月25日、11月25日、12月24日、1月25日、2月25日、3月25日

- ・3園会議（いぬかいこども園・へつぎ保育園・こざいこども園）

4月20日、5月25日、6月30日、8月20日、10月26日、11月29日、1月31日、2月28日

3. 研修報告

- ・法人研修

日時	内容	場所
4月1日	萌葱の郷の理念	なかよしホール
4月29日	接遇マナー研修	なかよしホール
5月8日	自閉症発達支援・保護支援	わくわくかん
5月28日	自閉症・発達障がい基礎知識・心の理論について	オンライン
7月2日	てんかんについて	オンライン
7月27日	1次救命処置とAEDについて	なかよしホール
9月24日	萌葱の郷の事業内容について	わくわくかん
11月19日	合理的配慮	オンライン
11月25日	インフルエンザ・感染症・嘔吐処理	なかよしホール
12月2日	AED研修	なかよしホール

- ・公開保育

つきぐみ	11月30日
ほしぐみ	9月6日
そらぐみ	9月2日
ひかりぐみ	9月10日
にじぐみ	9月9日

- ・外部研修

研修名	日時	場所
東部地区献立会議	4月6日	大分市
幼保連携型認定こども園新規職員研修	5月11日	大分市
令和3年度園長・主幹保育士研修	5月19. 25日	オンライン
キャリアアップ研修 保護者支援・子育て支援	6月16. 17. 24日	オンライン

保育コーディネーターフォローアップ研修	6月21日	大分市
東部地区全体研修	6月26日	オンライン
東部地区献立会議	7月2日	大分市
幼保連携型認定こども園新規職員研修	7月14日	大分市
幼保連携型認定こども園新規職員研修	7月28日	大分市
保育コーディネーターフォローアップ研修	7月30日	大分市
キャリアアップ研修 保護者支援・子育て支援	8月17. 18. 19日	オンライン
保育コーディネーターフォローアップ研修	8月19日	大分市
キャリアアップ研修 マネジメント	8月23. 24. 25日	オンライン
幼保連携型認定こども園新規職員研修	8月25日	大分市
キャリアアップ研修 幼児教育	8月30. 31日9月1日	オンライン
キャリアアップ研修 食育・アレルギー対応	7月3日～8月31日・9月1日	eラーニング・大分市
キャリアアップ研修 幼児教育	7月31日～8月31日・9月9日	eラーニング・大分市
保育コーディネーターフォローアップ研修	9月17日	大分市
キャリアアップ研修 マネジメント	8月16日～9月16日・9月24日	eラーニング・大分市
東部地区献立会議	10月1日	大分市
キャリアアップ研修 障がい児保育	9月19日～10月20日・10月30日	eラーニング・大分市
東部地区献立会議	11月1日	大分市
キャリアアップ研修 保健衛生・安全対策	10月2日～11月2日・11月11日	eラーニング・大分市
4地区合同研修会	11月13日	オンライン
令和3年度就学前研修会	11月16日	大分市
キャリアアップ研修 乳児保育・障がい児保育	11月22日～1月31日	eラーニング
キャリアアップ研修 乳児保育	10月21日～11月21日・11月29日	eラーニング・大分市
幼保連携型認定こども園新規職員研修	12月1日	別府市
キャリアアップ研修 保護者支援。子育て支援	11月3日～12月3日・12月11日	eラーニング・大分市
保育コーディネーターフォローアップ研修	12月21日	オンライン
東部地区献立会議	R4,1月7日	大分市
第48回大分県保育事業研究大会	1月24日	オンライン
大分県労働基準監督署労災防止対策	2月22日	オンライン
青年部オンライン研修	3月3日	オンライン

第2章 施設管理

避難訓練・設備管理の実施状況

毎月の避難訓練と遊具等の設備点検の他、年2回の消防用設備等点検や遊具の保守点検を専門業者に依頼して行いました。日常の教育保育場面でも砂場の掘り起しや、遊具の異常や破損を発見等の報告を受けた時には迅速に対処しています。

(1) 避難訓練月日

4月19日	5月28日	6月29日	7月28日	8月24日	9月1日
全体	消火・火災	消火・地震	消火・不審者	消火・火災	消火・地震
10月21日	11月19日	12月27日	1月25日	2月28日	3月14日
消火・火災	消防広場	消火・地震	消火・地震	消火・火災	消火・火災

(2) 遊具点検月日

4月27日	5月31日	6月29日	7月26日	8月26日	9月25日
10月23日	11月29日	12月10日	1月27日	2月22日	3月14日

(3) 消防用設備等点検

令和3年5月6日、令和3年10月22日

(4) 遊具保守点検

令和3年12月10日

第3章 諸機関との連携

(1) 保護者との連携

- ・連絡帳を通して、子どもたちの日々の様子を伝達するとともに、園だよりとクラスだよりを毎月1回発行しました。
- ・メーリングリストを作成し、緊急のお知らせや感染症などのお知らせを行いました。
- ・保護者アンケートを通して、ニーズの調査を行いました（給食試食会）。
- ・個別面談を必要に応じて行いました。

(2) 小学校や幼稚園との連携

進学をふまえた訪問交流を行うとともに、年長組を対象にこども園の中で芽生えた力や個性、配慮点を記録した「教育保育要録」を作成して引き継ぎました。

幼・保・小接続会議

期日	会議名	場所
7月16日	第1回幼保小連絡会議	小佐井小学校
R4.2月14日	小佐井小学校連絡会議	こざいこども園
3月8日	坂ノ市小学校連絡会議	こざいこども園

(3) 相談機関や療育機関などとの連携

こどもの発達や保護者のニーズに応じて、保育コーディネーターが軸となって療育機関や福祉制度の利用についての案内をご家族に行うとともに、関係諸機関との協働を通して合計2名の児童を特別に保育しました。

(4) 地域との連携

こざいこども園の利用児家庭のみならず、地域の子育て家庭に向けた支援として、一時保育事業の他にも地域交流や次世代育成を踏まえ、ボランティアや実習生を受け入れています。

期日	ボランティア・実習生	内容
7月15日	地域交流	一日体験（夏まつりごっこ）
8月17～27日	別府大学短期大学部学生	保育実習
9月2～8日	別府大学短期大学部学生	保育実習
12月21日	大分県立東高等学校保育実習	保育実習
R4.2月7～18日	別府大学短期大学部学生	保育実習
2月17日	地域交流	一日体験（保育教育活動参加）

第4章 総括

コロナ禍にも関わらず、園への利用ニーズは年々と増加しており、1号については定員の120%である18名まで受け入れました。2-3号においてもニーズが多く寄せられていることから定員以上の受け入れをすすめてきましたが、当園を希望する待機児童は増加の1途を辿っており、20名以上が慢性的に待機している状況が続いています。

行事等においては、コロナ禍における自粛や感染症対策を保護者の協力を得ることで、運動会や発表会などの基本行事は開催することができました。また、蔓延防止措置時にも保護者の協力のもとで感染症対策を徹底しながら継続して保育を必要とする児童の受け入れを行いました。

地域との連携についてはコロナ禍のために活発に行うことは出来ませんでしたが、感染症対策を徹底することで小学校との交流や東高校や教育実習生の受け入れを行いました。特別支援に関わる療育機関や学校等との連携については、特別支援保育事業に該当しない児童においても、保護者からの希望に応じて隣接する児童発達支援センターとの協働支援に発展させることができました。また、職員を他の保育施設や教育機関等にスーパーバイザーとして派遣する等、地域への貢献にも変わらず務めてまいりました。

職員体制につきましては、保育士不足が社会的な課題とされている情勢にも関わらず、例年通り加算分の配置を減らさずに手厚く配置することができ、産休や休暇代替や内外の専門研修や保育コーディネーターフォローアップ研修への参加を確保する等、働きやすさや専門の向上に努めることで離職を防ぐようにしました。処遇面においても処遇改善費Ⅰ・Ⅱと市の助成を満額受けとり、職員へ均等に配分することができました。

これからも制度や助成事業を上手く活用することでこどもの発達を最大限保証できる教育保育環境をすすめていくと同時に、職員にも働きやすい職場の環境を向上していくことで、社会福祉法人の使命である地域貢献・社会貢献に務めてまいります。

令和3年度 へつぎ保育園事業報告

第1章 施設運営

(1) 理念と方針

子どもたちの発達と職員の働きがいを最大限保証する施設を目指します

1. 子育て支援の核として、地域ニーズに応える施設を目指します
2. 行き届いた説明と情報開示により、信頼される施設を目指します
3. 常に業務内容の点検・検討を行い、安全と安心の向上を目指します
4. 多角経営と人事交流により、効率的で安定した運営を目指します
5. 人材育成と人事考課制度により、職員が働きがいと誇りの持てる施設を目指します

(2) 実施事業内容

1. 通常保育事業 月～土 (7:00～18:00)
2. 特別保育事業 月～土 (7:00～18:00)
3. 延長保育事業 月～土 (18:00～19:00)

(3) 児童処遇 (定員18名)

本年度は17名でスタートし、途中入園もあり21名の受け入れを行いました。

延長保育は一時間の延長保育を行いました。利用児は数名でした。

特別支援保育に関しては、児発の利用までは至りませんでした。療育手帳取得や児発の見学等に繋げることはできました。

1. クラス編成

クラス名	年齢	3年4月	4年3月
つき	0歳	5名	8名
ほし	1歳	6名	7名
そら	2歳	6名	6名
合計		17名	21名

2. 事業編成

事業名	保育士数 (パート)	その他の職員数
保育	4 (2)	0
特別保育	0 (1)	0
延長保育	交代制	0

3. 職種

(パート職員)

園長	1	
主任保育士	1	0
保育士	4 (3)	
栄養士兼調理師	0	1 (1)
看護師	0	1
事務兼子育て支援	0	1
合計	6 (3)	3 (1)

4. 月別利用児童数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	平均 19人
17人	17人	17人	18人	20人	19人	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
21人	20人	21人	21人	21人	21人	

5. 月別開園日数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	平均 24日
25日	23日	26日	25日	25日	24日	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
26日	24日	24日	23日	22日	26日	

6. 月別特別保育利用数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	平均 1人
1人	1人	1人	1人	1人	1人	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
1人	1人	1人	1人	1人	1人	

7. 延長保育利用児童数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	平均 2.4人
2人	1人	1人	2人	2人	1人	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
1人	2人	3人	1人	2人	1人	

8. 健康管理・感染症対策

体調の変化については朝の検温表を保護者に記入してもらい、密に連絡を取るとともに、体

調不良等があった場合は、早やめに保護者に連絡をいれ、病院受診をお願いし、解熱後普段の生活が出来る様になってからの登園をお願いしました。厚生労働省による保育所における感染症対策ガイドラインや大分市保健所による感染症対策情報をもとに、毎月保健だよりの発行をし、感染症の園内感染情報を保護者に周知しています。一年間を通して室内温度や湿度の管理を行い、エアコンや床暖房などで環境の調整を行いました。また、室内清掃・玩具の消毒は特に細目に行い感染症予防に努めました。

9. 年間保健行事

内科健診	全園児 (前期7月13日)(後期11月18日)
歯科検診	全園児 (前期5月10日)(後期11月29日)
身体計測	全園児 (毎月)

10. 年間行事

(月例行事：誕生会・身体計測・避難訓練)

月	行事
4月	第二回入園式・進級式
5月	歯科検診
6月	保育参加・給食試食会 園外保育(なかよしホール)
7月	プール開き 七夕 内科健診
8月	なつまつり・プール納め
10月	親子遠足(運動会ごっこ) ハロウィン
11月	園外保育(こざいこども園) 歯科健診 内科健診
12月	保育参加・クリスマス会
1月	たこあげ大会
2月	豆まきごっこ
3月	ひなまつり・遠足(こざいこども園)・卒園式

(4) 保育理念と目標

小規模保育園で未満児を対象にしている為、一人の子どもと密に関わることが出来ました。担任だけではなく、全体で子ども達を見守り、多職種と連携をとり情報共有をすることで、子ども一人ひとりに寄り添い、個々の発達を捉えることができました。発達に応じた環境配慮を行うことで、子どもがのびのびと自分の力を発揮している姿が見られます。

1. 保育理念

子ども一人一人をかけがえのない存在として尊重し、保護者や地域社会とともに人権意識を育む。

2. 保育目標

- 明るく伸び伸びした子ども
- 思いやりのある優しい子ども
- よく見よく考える子ども
- 喜んで話し喜んで聴く子ども
- 心豊かで創意工夫する子ども

3. 7つの保育方針

- ①家庭や関係諸機関と協働し、安心感を育てます
- ②のびのびと成長し・発達する心を育てます
- ③身辺自立の基盤となる生活習慣を育てます
- ④よく食べ、よく遊び、しなやかで丈夫な身体を育てます
- ⑤友だちの気持ちや集団生活のルールを考える力を育てます
- ⑥自分を大切にし、友だちの個性が理解できる知識を育てます
- ⑦聴く力、考える力、豊かに自己表現できる才能を育てます

4. 各組の保育目標

①そら組(2歳児)

基礎的な運動・指先機能が高まり、身の回りのことを自分でしようとしたり、動作やおしゃべりといった表現活動や模倣遊び楽しむ。

②ほし組(1歳児)

大人との信頼関係のもとで意欲的に身近な人や身の回りの物に働きかけ、指さし、身振り片言などを盛んに使いながら遊ぶ。

③つき組(0歳児)

保育士との親密な関わりを通して、情緒的な絆が形成され、安心感のもとで周囲の人や物に興味を持つ。表情や動作、発声などのサインを通して、コミュニケーションをとる。

④特別保育の年間目標

発達特性に向けた配慮のもと、諸機関と連携しながら個別の発達段階に応じた保育提供する。

(5) 食事

検食担当の職員の感想をもとに給食会議にて、献立や形状についての感想や反省、改善案などを検討するとともに保護者が試食する機会もつくりました。お誕生日会には行事食を

取り入れるなど、楽しい雰囲気づくりをし、食への関心を高められるようにしています。

1. 目標『味わいながら、楽しく食べる子』に育てる。

配慮事項

- ① ゆったりとした雰囲気の中で食欲を育む。
- ② 個人差に配慮しながら、食べようとする気持ちを大切にする。
- ③ 食べる事の喜びや楽しみを感じられるように保育室の環境に配慮する。
- ④ 個々の食欲に合わせて量の調節をする。
- ⑤ 保護者との連携を密にし、個別的な配慮を心がける。

2. 栄養管理

毎日の献立の栄養計算を行い、月報を作成しました。

3. 食育

毎月一献立表を配布し、アレルギー食・離乳食に関しては個別に記載し、保護者に伝える様
にしています。家庭での様子も記入してもらい子どもの状態がお互いに理解できるように
しています。

給食会議—職員会議・クラス会議等を利用し離乳食の移行時期や食事の状況について、園
長・主任・担当保育士・栄養士（調理員）で検討しました。

4. 衛生管理

衛生チェック表を作成し、毎日項目にそって確認するとともに、調理人の最近検査（毎月）
調理室の掃除、ワゴン清掃（毎日）、冷蔵庫消毒、食器洗浄後熱風庫にて保管、原材料・調
理済み食品を保存（2週間）しました。

・細菌検査数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計 126人
10人	10人	10人	10人	10人	10人	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
11人	11人	11人	11人	11人	11人	

5. 特別食（離乳食・アレルギー食）

個人差を考え保護者と相談しながら、無理なく離乳を進めました。1歳児の食事に関しては、
離乳食（完了食）後が間もない為、必要に応じて離乳食（完了食）も準備したり、アレルギ
ーを持つ子ども用に専用の食器を準備し、保育士と連携を取りながら安全な提供を行いま
した。また、除去による不足する栄養素を考慮し、可能な限り代替食を子どもの症状に応じ
て、提供しました。

・離乳食数（0歳児）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	平均 6.5食
5食	5食	5食	6食	6食	6食	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
7食	7食	8食	8食	8食	8食	

・アレルギー食数（1日平均）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	平均 1食
1食	1食	1食	1食	1食	1食	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
1食	1食	1食	1食	1食	1食	

6. 大分市献立会議

4月8日	5月10日	6月3日	7月5日	8月2日	9月2日	10月4日
11月5日	12月4日	1月11日	2月7日	3月3日		

(6) 職員処遇

職員体制を手厚くし、専門性の向上に向けて研修等へも積極的に参加するようにしました。

1. 健康管理

- ・健康診断 1年1回（9月～12月）

2. 職員会議

- ・全体会議

4月19日	5月22日	6月26日	7月24日	8月30日	9月25日
10月16日	11月19日	12月16日	1月24日	2月30日	3月24日

- ・クラス担当者会議は必要に応じて随時行う
- ・給食会議は職員会議に含む

3. 研修報告

- ・法人研修

日時	内容	場所
8月21日	「乳幼児期の心の育ちと関わり方」「子どもとの豊かなコミュニケーションを築くインリアル法」	戸次なごみ
9月25日	大分保育セミナー 『子どもの未来を支える保育環境の作り方』 ～大人の主導の保育から子ども主体の保育	ZOOM
11月25日	感染症の基礎と対策について	なかよしホール

・外部研修

研修名	日時	場所
令和3年度 所長(園)主任(主幹)保育士 研修	5月19・24日	オンライン研修
滝尾大南地区全体研修(コ ミュニケーションは技術)	6月8日	ZOOM研修
大分県私立保育協議会、 キャリアアップ研修会「保護 者支援」	6月16・17・24日	
滝尾大南地区調理研修会	6月15日	
大分市特別支援教育・保育研 修会	7月8日	全労済ソレイユカト レアA
大分市保育所等職員研修II 「言葉」	9月22日	大分市教育センター
大分市保育士等職員研修 「障がい児保育」	9月21・28日 10月1・14・30日	eラーニング 中小企業会館
大分市保育士等職員研修 「保健衛生」	10月4・20・28日 11月2・10日	eラーニング 植田市民行政センタ ー
大分市保育士等職員研修 「乳児のふれあい遊び」	10月19日	全労済ソレイユカト レアA
大分市保育士等職員研修	10月22・29日・	eラーニング

「乳児保育」	11月5・6・12日 30日	大分市役所
大分市保育士等職員研修 「保護者支援」	11月17・20・29日 12月1・15日	eラーニング 植田市民行政センター
大分市調理担当者研修	2月14日	リモート研修
大分県 働き方改革 推進フ ォーラム	2月22日	リモート研修
大分県私立保育協議会 青年部オンライン研修	3月3日	リモート研修

第2章 施設管理

避難訓練・設備管理の実施状況

毎月の避難訓練と遊具等の設備点検、安全衛生管理点検、砂場の掘り起こしを行いました。異常や破損を発見した時には迅速に対処しています。

(1) 避難訓練月日

4月30日	5月28日	6月30日	7月 30日	8月27日	9月24日
火災	不審者・火災	火災	水害	地震・火災	不審者・火災
10月27日	11月26日	12月23日	1月31日	2月25日	3月24日
火災	火災(おやつ 時)	地震・火災	不審者・火災	火災(登園 時)	総合訓練

(2) 消防用設備点検

令和3年9月9日 令和4年3月30日

第3章 諸機関との連携

(1) 保護者との連携

- ・連絡帳を通して、子ども達の日々の様子を伝達するとともに、園だより・クラスだよりを毎月1回発行しました。
- ・メーリングリストを作成し、緊急のお知らせや感染症などのお知らせを行いました。
- ・保護者アンケートを通して、ニーズの調査を行いました。(保育参加・給食試食会)

(2) 接続園との連携

- ・2歳児の修了後の受け入れ先のキッズアカデミー保育園・みのり保育園と修了児の配慮点を記録し、引き継ぎました。

(3) 相談機関や療育機関などとの連携

子どもの発達や保護者のニーズに応じて、療育機関や福祉制度の利用についての案内を保護者に行い、1名の児童を特別に保育しました。

第4章 総括

令和2年4月に開所し、2年目になりました。今年度は新型コロナ感染状況により、計画していた行事が思うように行えず、保育園での様子を保護者に見て頂く機会が持てませんでした。送迎の際に詳しく様子を伝えたり、日々の保育の様子をDVDに収録し回覧してもらったり、親子遠足をかねて屋外で運動会ごっこを計画し、保護者にも参加してもらい子ども達の様子を見て頂きました。感染対策としては、職員一人一人が意識し、毎日の部屋の掃除・遊具の消毒・検温・手指消毒を徹底し行うことで、感染者を出すことなく過ごす事ができています。

保育に関しては、ベテランの保育士を手厚く配置し、一人一人にじっくりと寄り添うことが出来、個々の発達段階を捉え、丁寧な保育を行う事が出来ました。

看護師を常勤させ乳児期の病気やケガに即座に対応できるようにしています。また、栄養士も配置しているので、離乳食の進め方等に関しても保護者の相談に応じることが出来ました。

職員体制につきましては、法人内外の研修や保育コーディネーター研修・キャリアアップ研修等の参加を促し、保育のスキルアップを図り、保育の質の向上に繋げることが出来ました。また、今年度はリモート研修・会議が多く、園内で受講することが出来、昨年度より多くの職員が研修を受けることが出来ました。今後も引き続き保育士としての質の向上を図り、人材育成を行っていくとともに、働きやすい環境を整えていきたいと考えています。保護者からの要望として、3歳以降も継続したいとの意見が多く、今後も保育園への移行も視野に入れ、子育て支援のニーズに応えられるように大分市とも検討をしていきたいと思えます。

令和3年度なかよしひろば事業報告

第1章 療育活動

1. 療育方針

- ① 発達支援 人との信頼関係を軸にしながら、一人一人の発達段階に応じた育ちを支援します
- ・年齢ではなく一人一人の生活経験や器質的な特性・発達段階に応じたクラス分けを行っています。
 - ・愛着や信頼関係、自己肯定感を丁寧に育んでいき安心感や信頼関係を軸に、順番やルールを守るといった自律する力を育てていけるよう、こども一人一人の成長段階に合わせたクラス編成と活動を実施しました。
 - ・サービス利用時間を通じて代弁的コミュニケーション支援技法を用いた表出支援を行いました。支援者が表出モデルを見せていくことで、言語表出やジェスチャー等のサインを用いた表出が増えていきました。
 - ・学童児にはモラルスキルやソーシャルスキルトレーニング等を取り入れながら、集団適応及び対人折衝力の向上に努めました。
- ② 才能援助 様々な経験が得られる機会をつくることで、一人一人の可能性を引き出したり、伸ばしたりしながら自己表現力や有用感の育ちを支援します。
- ・粘土や砂遊び、色水遊びなど様々な感覚の遊びが経験できるようにしました。
 - ・スポーツや工作等、個別支援を通じて得意分野を伸ばしていきました。
 - ・めぶき園での陶芸体験や児童館に出掛けてボルダリング体験をするなど、普段はできない活動を取り入れて、子どもたちの関心を広げることができました。
 - ・小学生以上の児童を対象に自分達がしたい遊びや活動がある時には、計画書の作成を促しています。他者の理解が得られるようにプレゼン内容の練り直しをしたり、必要物品のリストを把握したりする等、計画作成の過程を通じてしたいことを実現する方法を学び得る機会を提供することができました。
- ③ 家庭援助 子育てについての相談や学習会を通して、お互いにお子さんへの理解を深めながら育ちと暮らしを支えます。
- ・親子通園日に臨床心理士を中心とした保護者のグループミーティングを設定し、臨床心理士による子育てのアドバイスや、保護者同士が互いに

近況報告や子育てのアドバイスすることで、お子さんへの理解を深めていきました。

- ・個別面談を行い、子育ての悩みについての相談対応を行っていきました。
- ・医療機関の紹介や受診時に必要な情報書の作成を行いました。また就学に向けたサポートでは、保護者への情報提供を行うだけでなく、教育委員会を紹介することや、学校見学の同行などを行っていきました。

④ 地域援助 ボランティアの要請や、相談会・研修会への協力、保育園、幼稚園、学校保健所などの関係諸機関と連携することで子どもの育ちと暮らしを支えます。

- ・5歳児健診に参加をすることで、地域の支援ニーズを把握することや、医師や保健師など母子保健に関わる職種との繋がりを強化することができました。
- ・家庭支援の必要なケース等は、関係機関と役割分担を行いチームで支援をすることができました。また警察等、これまで直接的に関わりを持つことのなかった機関とも連携する機会を得ることができました。

⑤ 心のケア 関係性の視点から子どもの心身の状態を把握し、「安心感」を軸とするメンタルケアを施すことで発達を促します。

- ・不登校や対人不安が強いため個別に対応が必要なケースについては、過ごす場所や人的環境の配慮を行ったり、気持ちの代弁や受容を継続して行ったりすることで、集団に参加できる機会が増えていきました。
- ・なかよしホールなどの広い空間を生かしたダイナミックな遊びを展開することでストレス発散を促す機会を作りました。

2. 日 課

児童発達支援

時 間	内 容	具 体 的 な 活 動 内 容
9 : 3 0	登園 自由遊び 個別学習	ブランコやトランポリン、ボールプール等の大型遊具や三輪車、プラレール、積み木などの玩具を共有して遊びながら集団のルールや動作技能の習得を促します。
1 1 : 0 0	お集まり（※クラス別） ・集団活動・外活動 ・親子遊び・運動遊び ・音楽遊び	音楽、体操、絵カードやサーキットなどの集団状況を通して社会的な適応力を育てたり、身の自立を促したりするような課題設定を行います。

	・リラクゼーション	
11:30	昼食・おやつ 準備・片付け	集団のルールに応じることや、片付け、準備などの整理意識を育てます。
12:30	制作・調理実習 専門活動 降園準備	制作や鑑賞などを通して自己表出支援を行う。 今日の活動内容や次回の活動内容の確認をすることで、自己意識や先の見通しを得る力を育みます。
15:30	閉園	活動の記録や準備等を行います。

放課後等デイサービス ①学校休業日 ②登校日

時 間	内 容	具 体 的 な 活 動 内 容
① 10:00 ② 14:00	登園 自由遊び・個別学習	大型遊具やパズル、プラレール、積み木などの玩具を共有して遊びながら集団のルールや動作技能の習得を促します。
① 11:00 ② 16:00	お集まり 集団活動 粗大運動・芸術活動 工作活動・制作活動 調理実習・課外活動 リラクゼーション 専門活動	音楽、体操、絵カードやサーキットなどの集団状況を通して社会的な適応力を育てたり、身の自立を促したりするような課題設定を行う。
① 12:00 ② 16:30	昼食 片付け・おやつ	自己表出支援とともに、集団のルールに応じることや、片付け、準備などといった整理意識を育てます。
① 13:00	自由遊び 個別学習	個々の才能に着目し、伸ばしていくことで、自己表現力や有用感の育ちを支援します
① ② 17:00	降園	今日の活動内容や次回の活動内容の確認をすることで、自己意識や先の見通しを得る力を育みます。

日中一時支援

(1)開所日 月曜日から金曜日

(2)サービス提供時間 15:00～17:00

(3)日課

①15:00自由遊び・個別学習

・球技、トランポリン、工作、散歩など

②16:00集団活動

・鬼ごっこ、粗大運動、調理活動、課外活動など

③16:30おやつ

④17:00降園

※クラスのねらい

◎こあら・ぱんだ組（おおむね年少児まで）

○愛着・信頼関係・自己肯定感を育てる。

○対人意識を高める（目が合う、人を意識する、人と関わることが楽しいと感じる等）

○人への安心感をはぐくみ、安心感をもとに小集団で過ごしていく

◎らいおん組・きりん組（おおむね年中児）

○人への安心感を軸にしながら、自己表現力をのばす。

○小集団のなかで、大人との信頼関係を基盤にして、友だちへの意識を高める。

○個々の発達段階に合わせた生活習慣や身辺自立を高める。

内 容

◎集団活動:自らが意識的に集団活動へ参加していくことで、自己意識や他者意識を高め、社会的な適応力を身につける。

- ・こあら組等の発達段階のクラスでは、配置職員数を増やし、安心感を持って過ごせるようにしました。ふれあい遊びや子ども達からの発信に丁寧に対応し、情緒的な交流機会を持つことで他者意識や集団意識を高めていくことができました。
- ・発達段階に応じて、ルールを取り入れた遊びを加え、仲間と協力したり助け合ったりする経験を通じて他者と友好的な人間関係を育む力を伸ばしていきました。

◎親子遊び:親との共感的なやりとりの中から、情緒を育てる。

- ・臨床心理士を中心としたグループミーティングを開催し、お子さんへの具体的な関わり方のアドバイスを行いました。またアドバイスをした内容を保護者が親子遊びで実践することができるように支援者が関わり方のモデルを見せたり、より良い親子関係の構築を目的としたアドバイスを場面ごとに行ったりしていきました。

- ・ 親子遊びでは、ふれあいを通して愛着関係が築けるように、ふれあい遊びの時間を多く取り入れたり、褒めたりする機会を持てるような遊びを設定し、親子関係のサポートを行いました。

◎運動遊び:感覚意識の統合性や身体的な運動能力を高めていく(ブランコ・トランポリンボールプール・技巧台等)。

- ・ シェルボーンムーブメントの技法を取り入れた運動遊びを継続的に実施することで、体の使い方を意識するだけでなく体遊びを通じて他者への意識を育てていく働きかけを行いました。他の技法も組み合わせながら対人意識の向上を促すことができました。また作業療法士からのアドバイスを参考にした体遊びの設定も行っています。
- ・ トランポリンでは、児童がジャンプをするリズムに支援者も合わせて跳ぶことで、支援者を意識したリズムの跳び方に変わり対人意識の向上を促すことができました。
- ・ 晴れた日は屋外で遊び三輪車に乗ったり、縄跳びをしたりして様々な運動にチャレンジする機会を作りました。

◎音楽遊び:音楽等を通してながら、共感性や場面への適応力を身につけていくとともに、自己表現や協調性が豊かに育つことを期待する(ダンス、楽器遊び等)。

- ・ 汽車ポップなどの導入遊びでは、音楽に合わせて歩きながら友だち同士で連結をしたり、トンネルを作ったりして仲間意識や集団への所属意識を高めていきました。
- ・ ダンスに関心のある児童には iPad を使って見本のダンスを見せたり、覚えたダンスを披露したりする機会を作っていました。

◎制作:行事用の制作活動を通してながら、季節感や創作意欲を獲得していき、自己表現力や有用感を高めていく(クリスマス用靴下、ひなかざり等)。

- ・ 新聞紙や段ボールなど様々な物を用いて、剣を作ったり衣装を作ったりとイメージしたものを作り上げていけるようにサポートを行なっています。制作物は、ごっこ遊びに使用して、遊びが発展していきました。
- ・ 夏は色水遊びを行い、色を混ぜながら色の変化に興味を示したり、色水をジュースに見立ててジュース屋さんごっこなどを楽しんだりすることができました。
- ・ 小学生はハロウィンの時期にお化け屋敷作りに取り組みました。子ども達がアイデアを出し合い、装飾作りやブースの設置を行い、一室をお化け屋敷に作り替えました。子どもたちが主体性を持って取り組み、達成感を得ることができました。

◎調理活動:生理的な欲求を自分の力で満たす経験や、準備から整理までの経験を得ていくことで、自立心を育てる(ホットケーキ、焼きそば等)

- ・ 新型コロナウイルスへの感染対策を行いながら、調理活動を実施した。子ども達と調理計画書を作成し、必要な材料や器具の確認を行い、目的意識を持ち主体的に取り組むことができました。

・調理したものを振る舞い、感謝されることで有用感を得る機会を作ることができました。

◎課外活動:公共の場に参加することなどを通して社会的なルールの存在に対する気付きを促す(地域交流・交通機関の利用等)

- ・公園や道の駅など、公共施設を利用する時には事前に公共施設でのルールや立ち振る舞いについて口頭及び視覚的な情報提示を用いて伝え、実践できるように支援者がサポートを行っていきました。社会規範を意識して過ごす姿が見られたり、互いに注意をし合う姿が見られたりするなど、公共の場での過ごし方を学ぶ機会となりました。

◎リラクゼーション:活動を媒介にして他者との共感的なやりとりを経験する。また、シート遊びや楽器演奏などを通して情緒の安定やリフレッシュを図るとともに、他者との共感性や場面への適応力を身につけていく

- ・シートブランコを継続して行い、シートに包まれて心地よい揺れを感じる時間を設けています。自然ともう一回したいといった要求が出ることで、要求交換の練習となりました。また親子遊びの時間でも活動にリラクゼーションを取り入れ、親子がリラックスして過ごす時間を作っています。
- ・小学生は体を動かして遊ぶ活動を取り入れて、ストレスが発散できるように支援を行いました。

◎専門活動:主に外部の専門家やインストラクターに依頼することで、専門性の高い発達支援が受けられる場を提供する。

・動作法トレーナーに週1回来てもらい、専門的な立場からの助言を支援に生かしています。また臨床心理士による発達検査の実施や、子育てに関する相談ができる環境を作り保護者支援にも取り組みました。

- ・ペアレントプログラムに講師を派遣して、地域の子育て世代への支援を行いました。

3. 行 事・内部研修

- ◎ 5月 21日・・・内部研修 (発表者:森 菜摘)
- ◎ 7月 2日・・・内部研修 (発表者:新宮貴志)
- ◎ 7月 6日・・・内部研修 (発表者:詫摩かおり)
- ◎ 7月 7日～9日・・・夕涼み会
- ◎ 9月 17日・・・内部研修 (発表者:廣田千穂)
- ◎ 10月 22日～28日・・・ハロウィンウィーク
- ◎ 11月 5日・・・親子遠足
- ◎ 12月 20日～24日・・・クリスマスウィーク
- ◎ 3月 7日～18日・・・頑張り賞ウィーク

(その他、法人が実施するキャリアパス研修に対象者及び希望者が参加している。)

第2章 利用者の来園状況

1. 令和3年度月別の来園状況

	児童発達支援 (人)	放課後等デイ (人)	保育所等 訪問支援 (人)	日中一時支援 (人)	開園日数 (日)
4月	372	181	0	50	21
5月	312	163	17	56	19
6月	393	201	22	69	23
7月	365	172	5	58	21
8月	368	144	0	41	22
9月	325	136	3	52	21
10月	372	169	7	61	22
11月	359	160	7	61	21
12月	328	165	2	57	21
1月	306	135	3	41	21
2月	299	130	0	51	19
3月	403	166	0	62	22
合計	4202	1923	66	659	253

5. 通園の状況（令和4年3月31日現在）

幼児 47名：月、火、水、木、金曜日

学童 31名：月、火、水、木、金曜日

日中一時支援 9名：月、火、水、木、金

第3章 職員の体制

1. 職員の体制

管理者	(兼務) 1名	
児童発達支援管理責任者(専任)	1名	(兼務) 1名
児童指導員(常勤・専任)	5名	(非常勤) 3名
保育士(常勤・専任)	6名	(非常勤) 1名
指導員(常勤・専任)	2名	
作業療法士(常勤)	1名	
栄養士(非常勤・専任)	1名	

第4章 地域・施設交流実施状況

1、研修会

期 日	研修名	場 所	参加者
8月21日	インリアル研修	戸次なごみ園	神品友香 柳井実奈
9月27日	衛生推進者研修	大分県労働基準協会	足立朋子
11月7日	未来はばたきネット研修会	オンライン	新宮貴志
3月22日	CDS 研修	オンライン	新宮貴志
10月1日	ペアレントプログラム	ゆうゆう	新宮貴志
10月15日			足立朋子

2、個別支援会議（22件）

日にち	会議内容	場所	参加者
4月9日	K・Mさん支援会議	川登小学校	新宮貴志 詫摩かおり
5月26日	A・Yさん支援会議	三重第一小学校	新宮貴志
6月21日	K・Hさん支援会議	新田小学校	新宮貴志 廣田千穂
6月24日	A・Yさん支援会議	菅尾小学校	新宮貴志 合田紀子
7月8日	K・Mさん支援会議	川登小学校	新宮貴志 詫摩かおり
7月20日	A・Yさん支援会議	三重第一小学校	新宮貴志 釘宮慎太郎
8月20日	M・Yさん支援会議	三重東小学校	新宮貴志
9月2日	A・Mさん支援会議	三重東小学校	新宮貴志
10月5日	A・Yさん支援会議	三重第一小学校	釘宮慎太郎
10月6日	K・Mさん支援会議	川登小学校	新宮貴志 詫摩かおり
10月18日	H・Iさん支援会議	ももえだこども園	足立朋子 河野李佳
10月20日	S・Dさん支援会議	宇目こども園	足立朋子
11月12日	K・Hさん支援会議	新田小学校	新宮貴志 廣田千穂
12月10日	K・Mさん支援会議	川登小学校	詫摩かおり

12月20日	M・Yさん支援会議	三重東小学校	新宮貴志
12月24日	M・Yさん支援会議	豊後大野警察署	新宮貴志
1月5日	M・Yさん支援会議	豊後大野警察署	新宮貴志
1月11日	Y・Sさん支援会議	三重第一小学校	新宮貴志 森 菜摘
1月31日	K・Mさん支援会議	オンライン会議	新宮貴志 足立朋子
3月14日	I・Hさん支援会議	緒方保育園	新宮貴志
3月17日	K・Hさん支援会議	新田小学校	新宮貴志
3月25日	Y・Sさん支援会議	三重第一小学校	新宮貴志

※全利用児童のモニタリング会議の実施及び相談支援専門員が開催する担当者会議に出席している

3、施設交流（3件）

日にち	内容	場所	担当職員
12月10日	陶芸教室	めぶき園	足立朋子 河野李佳
12月17日	ボルダリング体験	犬飼児童館	足立朋子 河野李佳
3月11日	ボルダリング体験	犬飼児童館	足立朋子 河野李佳

4、外部機関実習

実習生氏名	受け入れ期間	学校・機関名	担当職員
別府短期大学部 初等教育課 2名	8月17日～27日	別府短期大学部 初等教育科	新宮貴志
保育士 8名	11月17日	保育コーディネーター 養成研修	新宮貴志
福岡女子短期大学 子ども学科 1名	2月28日～3月11日	福岡女子短期大学 子ども学科	新宮貴志

5、関係機関連携・支援（10件）

日にち	内容	場所	担当職員
4月1日	放課後等デイ見学同行	ぽっけ	新宮貴志
5月31日	千歳小学校連絡会議	千歳小学校	新宮貴志
7月9日	令和3年度第1回発達障がい児等心の診療ネットワーク会議	オンライン会議	新宮貴志

10月4日 5日13日	豊後大野市5歳児健診参加	豊後大野市役所	新宮貴志
10月19日	臼杵支援学校見学同行	臼杵支援学校	新宮貴志
10月21日	戸次中学校見学同行	戸次中学校	新宮貴志
10月26日	大分支援学校見学同行	大分支援学校	新宮貴志
11月18日	県議会議員視察	豊後大野子育て総合支援センター	新宮貴志

6、地域支援（10件）

日にち	内容	場所	担当職員
9月8日	豊後大野市自立支援協議会児童部会	豊後大野市役所	新宮貴志
11月10日	きらきら教室	豊後大野市役所	新宮貴志
11月24日	地域子育てサポート・センターまかせて会員養成講習会	豊後大野市役所	新宮貴志
1月14日	豊後大野市自立支援協議会児童部会	豊後大野市役所	新宮貴志
年6回	ペアレントプログラム講師派遣	大野ルンビニこども園	足立朋子

7、施設内職員会議

日にち	内容	参加職員
4月9日	職員会議	常勤職員
5月15日	職員会議	常勤職員
6月11日	職員会議	常勤職員
7月10日	職員会議	常勤職員
8月21日	職員会議	常勤職員
9月18日	職員会議	常勤職員
10月16日	職員会議	常勤職員
11月13日	職員会議	常勤職員
12月26日	職員会議	常勤職員
1月22日	職員会議	常勤職員
2月19日	職員会議	常勤職員
3月18日	職員会議	常勤職員
4月6日	業務推進会議	管理者・主任
5月12日	業務推進会議	管理者・主任
6月9日	業務推進会議	管理者・主任
7月6日	業務推進会議	管理者・主任
8月18日	業務推進会議	管理者・主任

9月1日	業務推進会議	管理者・主任
10月12日	業務推進会議	管理者・主任
1月14日	業務推進会議	管理者・主任
2月17日	業務推進会議	管理者・主任
3月14日	業務推進会議	管理者・主任

第5章 総括

昨年度に引き続き、新型コロナウイルスの感染対策を実施してきました。感染予防を徹底したことで、施設から感染者が出ることはありませんでしたが、行事の規模を縮小したり思うように訪問支援が実施できない時期が続いたりするなど、多くの影響を受けました。特に地域関係諸機関との連携については、コロナの感染拡大状況を見ながら会議や訪問を実施する必要があるため、訪問支援の回数自体はコロナ前の水準まで戻ることができていません。しかし重点的に支援を必要とするケースについては、これまでに築いてきた関係性を軸に関係機関で役割分担をして、チームで支援を行うことができました。関係機関との連携・協働の在り方が、また一步前進した年であったと思います。

児童発達支援については、多くの利用希望をいただきました。特に2～3歳頃の新規利用希望者が多くなり、早期支援のニーズが年を追うごとに高まっていることが想像できます。多くの利用ニーズに対応するため、金曜日の親子登園日に単独通所のクラスを設定しました。そのクラスでは普段の療育活動では体験することのできないめぶき園での陶芸体験や、犬飼児童クラブでのボルダリング体験など、活動の幅を広げるとともに地域との交流機会を持つことができました。放課後等デイサービスでは、2名の児童が利用を終了し地域へ移行をすることができました。また支援学校に通う児童については、高学年に近づくにつれ、成人期以降の生活の姿を保護者と話し合いながら、なごみ園への移行を進めることで、ライフステージに沿ったサービス利用の提案を行うことができました。しかし児童発達支援同様に放課後等デイサービスにも多くの利用希望をいただいています。令和2年度より日中一時支援の提供も開始しましたが、それでも定員の関係上、全てのニーズにお応えすることが難しい状況にあることが課題として挙げられます。

ICTを活用した業務の効率化や保護者との連携強化を目的として、ICTツール（コドモン）の導入も行いました。これまで、保護者との連絡手段としては主に電話を使用していましたが、コドモンを導入してからはアプリで保護者との情報交換が容易に行うことができるようになり、保護者からは「便利になった」という声を頂いています。また配布物の一部をアプリで配信するなど、ペーパーレス化を進めていくこともできました。

職員の育成については、新人職員への定期的な面談や支援の振り返りを行うフォローアップの時間を設けました。また外部への研修機会が限られるため、内部研修を実施し職員の専門性の向上に努めました。来年度も職員の専門性の向上に努め、地域から寄せられる期待に応えていけるよう取り組んで参ります。

平成3年度 こども発達支援センター大分なごみ園 事業報告

第1章 療育活動

1、療育方針

- ① 発達支援 一人ひとりの発達に合わせて、基本的な生活習慣、対人関係、言語やコミュニケーションなどの力を伸ばす。
- ・児の特性や発達段階を見極めながら、様々な遊びや活動を通して気持ちの表出を促すための代弁的コミュニケーション支援を行いました。言葉でのやりとり、ジェスチャーやサインなどで気持ちを表現することができるようになってきた子もいますが、発達がゆっくりな子多いため今後も丁寧に支援していきます。
 - ・基本的な生活習慣は昨年度同様その子に応じて、食事の場面、衣服の着脱の場面、手洗いや歯磨き、靴下を履く動作を支援しています。また、トイレ誘導による排泄も繰り返すことによって身に付きつつあります。今後も基本的な生活習慣が定着するように支援していきます。
- ② 才能支援 様々な経験が得られる機会をつくることで、一人一人の可能性を引き出し、伸ばしたりしながら自己表現力や有用感の育ちを支援します。
- ・能力や個性に応じて、興味関心のある活動を提供するとともに、好きな遊びや活動を通して自己表現ができるようになりつつあります。製作活動を取り組むことで自己表現力を伸ばしたり制作活動への苦手意識を少なくすることができる子もいました。また、日頃から描いている絵を作品展に応募し賞（佳作）をとる子もいて有用感を得る経験になっています。外出活動では、地域の公園や川、買い物学習を行うことによって社会性を学ぶ機会を設定しました。その他、調理活動を通して自分の思いを表現したり、自分で作って食べることを楽しむ経験も出来ました。また、サッカーや野球、自転車乗り、探検などで他児や職員とのやりとりを楽しみ、上達した子どももいました。
- ③ 家庭支援 子育てについての相談や学習会を通して、子どもへの理解を深め、育ちと暮らしを支えます。
- ・子育てについては、送迎時のやりとりや電話・LINEを通して子どもの育ちを考えながら家庭支援を行いました。職員も保護者の話をよく聞き、共感しながら子どもの育ちや子育てについて一緒に考えていくよう努めました。
 - ・コロナ禍により様々な交流行事が中止となりました。令和4年度はなごみの会や行事を行う保護者会などを行いながら家族支援を行っていきます。
- ④ 地域支援 保育園、幼稚園、学校、保健所、医療機関などの関係諸機関と連携することで地域での子どもの育ちと暮らしを支えます
- ・地域の保育園・幼稚園、学校等に保育所等訪問による連携を行うことにより子どもたちの育ちや家庭支援につなげることができました。また、支援会議の開催や各関係機関と連携してすることにより、子どもも保護者もスムーズに就園・就学ができたように感じています。今後も、各関係機関との連携を深めて、地域での育ちを支えていきたいと考えています。

⑤ 心のケア 関係性の視点から子どもの心身の状態を把握し、「安心感」を軸とするメンタルケアを施すことで発達を促します

・子どもとのやりとりの中で、本人の気持ちを汲み取り、代弁的コミュニケーションを行ってきました。そのことにより、わかってもらえる・共感してもらえる経験ができ、肯定感や物事に取り組むための意欲の向上にもつながりました。

2、日課

児童発達支援 開園日：月～金

時 間	内 容	具 体 的 な 活 動 内 容
9 : 3 0	登園 自由遊び 個別学習	ブランコやトランポリン、ボールプール等の大型遊具や三輪車、プラレール、積み木などの玩具を共有して遊びながら集団のルールや動作技能の習得を促します。
1 1 : 0 0	お集まり ・集団活動・外活動 ・親子遊び・運動遊び ・音楽遊び、製作あそび ・リラクゼーション	音楽、体操、絵カードやサーキット、からだ遊びや製作活動などの集団状況を通して社会的な適応力を育てたり、身近の自立を促したりするような課題設定を行います。
1 1 : 3 0	昼食・おやつ 準備・片付け	楽しくお弁当を食べながら集団のルールに応じることや、片付け、準備などの整理意識を育てます。
1 2 : 3 0	自由遊び・制作 専門活動	制作や鑑賞などを通して自己表出支援を行う。
1 2 : 4 5	降園準備	今日の活動内容や次回の活動内容の確認をすることで、自己意識や先の見通しを得る力を育みます。
1 3 : 0 0	降園	
1 4 : 0 0	個別相談・療育活動 降園	保護者からの相談や個別での遊びを通して対人意識や愛着、信頼関係を深める。活動の中で制作やからだ遊び、課外活動、調理活動を通して技能的な課題に取り組んだり、社会的な適応力を育てていく。
1 5 : 3 0	閉園	活動の記録や準備等を行います。

放課後等デイサービス ①学校休業日 ②登校日

時 間	内 容	具 体 的 な 活 動 内 容
③ 1 0 : 0 0	登園	園庭、固定遊具、大型遊具やパズル、プラレール、積み木などの遊具や玩具を共有して遊びながら集団のルールや動作技能の習得を促します。
④ 1 4 : 0 0	自由遊び・個別学習	

③ 11:00 ④ 15:30	お集まり 集団活動 粗大運動・芸術活動 工作活動・制作活動 調理実習・課外活動 リラクゼーション 専門活動	公園遊び、買い物活動等といった集団状況を通して、社会的な適応力を育てたり、製作、調理活動などの技能的な課題設定を行います。また、からだ遊びを通してリラクゼーションや自身の身体への意識を高める。
③ 12:00 ④ 16:20	昼食・おやつ 準備・片付け	自己表出支援とともに、集団のルールに応じることや、片付け、準備などといった整理意識を育てます。
② 13:00	自由遊び 個別学習	個々の才能に着目し、伸ばしていくことで、自己表現力や有用感の育ちを支援します
② ② 17:00	降園	今日の活動内容や次回の活動内容の確認をすることで、自己意識や先の見通しを得る力を育みます。

<内容>

◎**集団活動**：自らが意識的に集団活動へ参加していくことで、自己意識や他者意識を高め、社会的な適応力を身につける。

・同じ利用日の幼児や児童たちとの活動や外出（調理・お出かけ・買い物）を通して、自己意識や他者意識を高めるとともに適応力を身に付ける支援を行いました。回数を重ねることで皆と同じ場面で過ごせるようになりつつある子もいます。

◎**粗大運動**：感覚意識の統合性や身体的な運動能力を高めていく。（ブランコ・トランポリン・ボールプール・巧技台・土管山・自転車等）

・園庭や遊具で思い切り体を動かすことで体の使い方が徐々にうまくなってきています。また、体力がついたことで土管山を介助なしで登ったり自転車をしっかりこぐ力がついてきました。トランポリンでも複数名で跳んでも転ばない子も増えてきています。

◎**音楽活動**：楽器を使った活動を通して、共感性や場面への適応力を身につけていくとともに、自己表現や協調性を豊かに育てる。（歌、ダンス、楽器遊び等）

・音楽や楽器に触ったりリズム遊びを通して、自己表現を促しました。その結果、表現をためらっていた子どももうれしそうに表現できるようになってきたり、皆との一体感を味わえることができました。

◎**工作活動**：創作意欲を育てることで、自己表現力や有用感を高めていく（模型・粘土等）。

・段ボールや厚紙・紐等を使い、自由な発想で工作を行い自己表現をしました。プラ板づくりでは、思い思いの絵を自分たちで描いてキーホルダーにしたりして、自ら作り上げる喜びを体験することができました。

◎**制作活動**：行事用の制作活動を通しながら、季節感や創作意欲を獲得していく（こいのぼり、クリスマスブーツ、ひなまつり等）。

・行事の飾り作り（七夕やクリスマス会など）では、はさみやクレヨン、シール

など子どもの能力に応じて、手先の機能の向上に取り組みました。集中して取り組む子どもも多く、自由な表現を肯定的に受け入れ、出来上がった喜びや達成感が子どもの意欲につながりました。

◎調理活動：生理的な欲求を自分の力で満たす経験や準備から整理までの経験を得ていくことで、自立心を育てる。(ホットケーキ・カップケーキ等)

・放課後等デイ(学童)では、調理活動にも取り組みました。その都度役割を決め、各自の能力・個性に応じて取り組みました。その結果、意欲的に取り組み、自分の力で調理したことの喜びや出来上がりの達成感を感じていました。

◎課外活動：公共の場の参加などを通して、社会的なルールの存在の気づきを促す。(地域交流・交通機関の利用等)

・公園・お花見・散策・初詣・駄菓子屋に行くなど、公共の場の利用することで、交通マナーや社会的ルールの意識付けを行いました。放課後等デイでは、美術館に出かけマナーを守ったりするなど体験できました。

◎リラクゼーション：活動を媒介にして他者との共感的なやりとりを経験する。また、シーツ遊びや楽器演奏などを通して情緒の安定やリフレッシュを図るとともに、他者との共感性や場面への適応力を身につけていく。

・児童発達支援の活動では、主に手足ブランコやシーツ遊び、からだ遊びに取り組みました。シーツの中にくるまって揺られる心地よさやからだ遊びでの大人に身を任せる動きなど取り入れ、共感的な関わりの中で情緒の安定を図ることもできました。放デイでは別室で音楽鑑賞を行いたい子どもには特別感を出しつつ場面提供を行い、一緒に音楽を楽しんだりゆっくり過ごせるよう配慮しました。

◎専門活動：専門家に依頼することで、専門性の高い発達支援を提供する(動作法や音楽療法など)。

・今年度は動作法や音楽療法に取り組みませんでした。利用児の保護者を講師に招いて親の思いやこれから立ち上げる放課後等デイサービスへの思いを聞くことができました。保護者の考えや気持ちを理解し、支援を振り返る時間を設けることができました。

◎ソーシャルスキルトレーニング：発達に応じて、電車などの公共機関や買い物、調理など生活の流れに沿った必要なスキルが身につくよう支援する。また、保護者の希望も踏まえ、より生活に根付いた技術の習得を目指していく。

・今年度は、コロナ禍の為、電車等の公共機関を利用できませんでしたが、課外学習等では公園や神社等にてマナーや他者への配慮等が身に付く場面提供ができたと思います。

3、行 事

児童発達支援（幼児）

4月	花見（公園）
7月～8月	プール
11月	芋ほり
12月	クリスマス会
3月	おもいで会

放課後等デイ（学童）

4月	花見（公園）
7月～8月	プール
11月	芋ほり
12月	クリスマス会
3月	おもいで会

第2章 利用者の来園状況

1、令和3年度 月別の来園状況（定員：1日を通じて10名）

	児童発達支援 （人）	放課後等デイ （人）	訪問支援 （人）	開園日数 （日）	1日平均利用 （人）
4月	65	128	0	21	9.1
5月	62	107	0	18	9.3
6月	82	131	7	22	9.6
7月	67	122	3	20	9.4
8月	81	99	0	20	9.0
9月	67	109	0	20	8.8
10月	81	121	8	21	9.6
11月	83	117	4	20	10.0
12月	79	109	2	20	9.4
1月	75	90	2	19	8.6
2月	68	93	0	19	8.4
3月	72	103	10	22	7.9
合計	882	1329	36	242	9.1

保育所等訪問支援員事業（36件）

訪問施設名	登録人数	延べ人数
大分支援学校	9	9
別保小学校	4	8
大在小学校	2	2
大在西小学校	1	1
丹生小学校	1	2

松岡幼稚園	1	3
キッズアカデミー保育園	1	4
こもれび保育園	1	3
こころの森こども園	1	1
みなはるあけぼの保育園	2	2
明野中学校	1	1

〈平成3年度の利用状況について〉

今年度より利用定員を1日通じて10名に変更しました。児童発達支援・放課後等デイサービスともにコロナ禍ということもあり、利用人数・日数ともに減少しました。児童発達支援では、特に兄弟児で上の子が小学校等に行っている子どもは長期的に休む傾向にあり、1日の利用人数が大幅に減少しました。放課後等デイサービスでは長期休暇以外はコンスタントに利用されているが、コロナによる利用控えで長期的に休む子どもがいました。保育所等訪問支援も訪問先でコロナ感染者が出たため中止になることが多く、十分な訪問ができませんでした。

2、通園コースの状況（令和4年3月31日現在）

幼児 15名（幼児）：月曜～金曜

児童 41名（学童）：月曜～金曜

第3章 職員の体制

1、職員の体制

管理者（兼務）1名 保育士（非常勤・兼務）1名
 児童発達支援管理責任者（兼務）1名 児童指導員（非常勤・兼務）2名
 保育士（常勤・兼務）3名
 児童指導員（常勤・兼務）1名
 有資格 保育士・児童指導員・社会福祉士・介護福祉士・強度行動障害支援者

第4章 研修等実施状況

1、職員研修

<外部研修>

期日	研修名	参加者名	場所
9月27日（水）	衛生推進者養成講習	原田 薫	大分県労働基準協会
10月6日（水）	全国知的障害者関係施設長会議	小野淳一郎	オンライン
10月7日（木）	全国知的障害者関係施設長会議分科会	小野淳一郎	オンライン
10月20日 （水）	効果的な部下・新人育成の実務研修	牧 楓	大分県総合社会福祉会館
11月17日 （水）	プロ意識醸成研修～仕事の意欲向上のために～	原田 薫	大分県総合社会福祉会館
3月8日（火） 9日（水）	療育担当職員基礎研修	井上 智恵 牧 楓	オンライン

〈法人内研修（キャリアパス・事業所内研修）〉

期日	研修名	参加者名	場所
6月25日 (金)	中堅職員研修	牧 楓	なかよしホール
7月10日 (土)	フォローアップ研修	牧 楓 横山 勇人	なかよしホール
11月19日 (金)	キャリアパス研修「合理的配慮」	横山 勇人	オンライン
3月2日(土)	事業所内研修	小野淳一郎 井上 智恵 加納 優 牧 楓 原田 薫 森 博美	大分なごみ園

2、個別支援会議(担当者会議は利用開始時、利用児の誕生月に実施)

日にち	会議内容	場所	参加者
6月25日	I・Nさん支援会議	大分支援学校	小野
7月6日	T・Mさん支援会議	大分療育センター	井上
7月16日	H・Hさん支援会議	大分支援学校	加納
8月5日	T・Kさん支援会議	松岡幼稚園	小野
10月5日	T・Mさん支援会議	大分療育センター	小野

5、施設内職員会議

日にち	内容	参加職員
4月13日	職員会議	常勤職員
5月12日	職員会議	常勤職員
6月23日	職員会議	常勤職員
7月14日	職員会議	常勤職員
8月18日	職員会議	常勤職員
9月15日	職員会議	常勤職員
10月13日	職員会議	常勤職員
11月18日	職員会議	常勤職員
12月16日	職員会議	常勤職員
1月26日	職員会議	常勤職員
2月18日	職員会議	常勤職員
3月25日	職員会議	常勤職員

第5章 総括

平成25年に大分なごみ園が開園してから8年が経過しました。開園時より大分市東部地域を中心に、発達に不安や心配のある子どもと保護者を対象に児童の発達支援や家族の相談支援、保育所等訪問支援を行ってきました。また、平成27年度から令和2年度までは児童発達支援センターに移行し、地域の中核的な療育支援施設として様々な関係機関と連携を図り、地域の子育て家庭が安心して暮らせるように、子ども一人ひとりの生活環境や特性に応じた発達を支援しながら、自立生活に向けて対人関係を中心とした育ちを支援してきました。

今年度、新たに児童発達支援センターが開所したことにより、当事業所ではより丁寧な支援を希望する保護者のニーズに伴い、開園当初の1日10名定員の少人数支援に取り組んできました。発達支援をセンターと事業で利用児及び支援内容を細分化したことにより、合理的配慮に基づいた環境設定ができ、これまで以上に一人ひとりの発達段階に応じた支援に取り組んできました。

今年度も児童発達支援では大分市東部地域を中心に2歳から6歳までのこども15名が登録しており、保育園やこども園等の就園に向けた支援の取り組みや並行通園による他事業所との支援の統一を目指しました。また、対人関係を中心とした育ちを促すために特性に応じた環境設定や代弁的コミュニケーション支援を中心に取り組むとともに微細運動や粗大運動を行い身体機能の向上や情緒の安定を図りました。

放課後等デイサービスでは、大分支援学校の児童・生徒を中心に支援していきます。今年度も35名登録しており、戸外活動や調理活動、季節に応じた活動等、少人数ならではの活動場面を提供しながら自立生活に向けた支援を促すとともに、余暇やリフレッシュできる環境づくりの充実も図りました。

保育所等訪問支援事業では、昨年度に引き続き保護者のニーズに応じて保育園やこども園、小学校等を訪問し、教員や保育士と情報共有をしながら子どもたちの集団適応についてサポートし、安心して充実した生活ができるように支援してまいりました。

これからも日々の支援を振り返りながら法人内の各事業所や他法人の関係事業所とも連携を図り、切れ目のない支援を目指すとともに、研修や委員会などで交流する機会を整えることで職員の専門性の向上にも努めてまいります。

令和3年度

こども発達・子育て支援センターわくわくかん 事業報告

第1章 療育活動

1、療育方針

①発達支援 人との信頼関係を軸にしなが、一人一人の発達段階に応じた育ちを支援します

・年齢ではなく一人一人の生活経験や器質的な特性・発達段階に応じたクラス分けを行っています。

・愛着、信頼関係、自己肯定感を丁寧に育んでいき、安心感や信頼感を軸に、順番やルールを守るといった自律する力を育てていけるよう、こども一人一人の成長段階に合わせたクラス編成と活動を実施しています。

・いろいろな遊びや活動を通して、気持ちの表出を促すための代弁的コミュニケーション支援を行っています。

・基本的な生活習慣に関しては、その子に応じて、動作のポイントやモデルを示し、環境調整を行いながら、身辺自立できるよう促しています。

・学齢時には、個々の発達に応じて対人意識、モラルスキル、SST（ソーシャルスキルトレーニング）等を取り入れながら、集団適応及び対人折衝力の向上に努めています。

②才能支援 様々な経験が得られる機会をつくることで、一人一人の可能性を引き出したり、伸ばしたりしながら自己表現力や有用感の育ちを支援します。

・能力や個性に応じて、興味関心のある活動を提供し、好きな遊びを通して自己表現ができるようになっていきます。製作活動に取り組むことで、自己表現力を伸ばしたり、シールを張ったり、なぐり書きをしたり、新聞紙を破ったりする様々な経験を通して微細運動の能力を高めたり、製作に対する苦手意識を少なくすることができました。外出活動では、駄菓子屋やドラッグストア、大型スーパーなどで買い物をしたり、地域の公園に行ったりするなどを通して、社会性を学ぶ機会を持てる子もいました。コロナウィルス感染予防のため、調理活動を設けることがあまりできない面がありましたが、調理活動を行うことで、自分で作ることで食べれなかったものでも食べれるようになっていたり、おうちで作って食べたりと、食べることを楽しむ経験ができています。また、戸外では、サッカーや野球、自転車など練習して上達したり、他児や職員とのやりとりを楽しむことでリフレッシュや発散、能力向上につながっています。

③家庭支援 子育てについての相談や学習会を通して、子どもへの理解を深め、育ちと暮らしを支えます。

・親子通園を通して、主に臨床心理士を中心に相談したり、母親同士の親睦・情報交換の場を設けたりして、日々の子育てや子どもの育ちを一緒に考えながら家庭支援を行っています。

・ペアレントメンターや大分県発達障がい者支援専門員を講師に迎え、子どもの心の育ちや子育ての悩みの共有やアドバイスを聞く機会を設けています。

・個々の保護者の相談には丁寧に応じ、共感しながら子どもの育ちや子育てにつ

いて一緒に考えていくよう努め、必要に応じて関係機関と会議を行ったり、訪問支援につなげるなど、保護者と一緒に子どもの成長を促していけるよう家族支援を行っています。

④地域支援 ボランティアの要請や、相談会・研修会への協力、保育園、幼稚園、学校、保健所、医療機関などの関係諸機関と連携することで地域での子どもの育ちと暮らしを支えます

・同法人のこざいこども園との連携を密に取り、また地域の保育園・こども園・幼稚園とも連携しながら、就園就学につなげることができています。発達巡回や施設支援を行うことで、さらに保育園等からの相談等に応じながら、児童発達支援へのスムーズな利用、就学に対するフォロー等行うことができました。また、併行通園する子が増え、保育所等訪問支援を行うことで保育園、こども園、幼稚園と連携して子どもたちの育ちや家庭支援につなげることができてきています。見学、体験入園や支援会議等を通して、各関係機関と連携して、子どもも保護者もスムーズに就園・就学ができているように感じています。今後も、各関係機関との連携を深めて、地域での育ちを支えていきたいと考えています。

⑤心のケア 関係性の視点から子どもの心身の状態を把握し、「安心感」を軸とするメンタルケアを施すことで発達を促します

・子どもとのやりとりの中で、本人の気持ちを汲み取り、代弁を行うことで分かってもらえる経験を積み、安心感信頼感といった関係性を深めていくことで情緒の安定を促すことができてきています。また、気持ちの代弁を行うことでコミュニケーション能力の向上にもつながっています。

・幼稚園・保育園に通っているお子さんで園に行った後、リフレッシュや個別支援の必要性に応じて、午後の個別支援の時間を利用し、メンタルケアとともにライフスタイルに応じた支援に取り組んできました。

・広い園庭を利用して、遊具やボール、自転車等で思い切り体を動かして遊ぶことで、心身の発散ができ、リフレッシュに繋がっています。

2、日課

児童発達支援 開園日：月～金

時 間	内 容	具 体 的 な 活 動 内 容
9 : 3 0	登園 自由遊び 個別学習	ブランコやトランポリン、ボールプール等の大型遊具や三輪車、プラレール、積み木などの玩具を共有して遊びながら集団のルールや動作技能の習得を促します。
1 1 : 0 0	お集まり（※クラス別） ・集団活動・外活動 ・親子遊び・運動遊び ・音楽遊び、製作あそび ・リラクゼーション	音楽、体操、絵カードやサーキット、からだ遊びや製作活動などの集団状況を通して社会的な適応力を育てたり、身の自立を促したりするような課題設定を行います。
1 1 : 3 0	給食 準備・片付け	楽しく給食を食べながら集団のルールに応じることや、片付け、準備などの整理意識を育てます。
1 2 : 3 0	自由遊び・制作 専門活動	制作や鑑賞などを通して自己表出支援を行う。
1 4 : 0 0	個別療育 活動 おやつ 降園準備	個別や少人数グループで遊具やおもちゃでの遊びを通して対人意識や愛着、信頼関係を深める。活動の中で製作やからだ遊び、課外活動、調理活動を通して技能的な課題に取り組んだり、社会的な適応力を育てていく。今日の活動内容や次回の活動内容の確認をすることで、自己意識や先の見通しを得る力を育みます。
1 5 : 3 0	閉園	活動の記録や準備等を行います。

※クラスのねらい

◎こあら・ぱんだ組

- 愛着・信頼関係・自己肯定感を育てる。
- 対人意識を高める（目が合う、人を意識する、人と関わることが楽しいと感じる等）
- 人への安心感をはぐくみ、安心感をもとに小集団で過ごしていく

◎きりん・らいおん組

- 人への安心感を軸にしながら、自己表現力をのばす。
- 小集団のなかで、大人との信頼関係を基盤にして、友だちへの意識を高める。
- 個々の発達段階に合わせた生活習慣や身の自立を高める。

放課後等デイサービス 開園日：月～金 ①学校休業日 ②登校日

時 間	内 容	具 体 的 な 活 動 内 容
⑤ 10:00 ⑥ 14:00	登園 自由遊び・個別学習	園庭、固定遊具、大型遊具やパズル、プラレール、積み木などの遊具や玩具を共有して遊びながら集団のルールや動作技能の習得を促します。
⑤ 11:00 ⑥ 15:30	お集まり 集団活動 粗大運動・芸術活動 工作活動・制作活動 調理実習・課外活動 リラクゼーション 専門活動	地域のお祭りへの参加、公園遊び、買い物活動等といった集団状況を通して、社会的な適応力を育てたり、製作、食育活動などの技能的な課題設定を行います。また、からだ遊びや粗大運動を通してリラクゼーションや自身の身体への意識を高める。
⑤ 12:00 ⑥ 16:20	昼食・おやつ 準備・片付け	昼食・おやつを楽しみ、自己表出支援とともに、集団のルールに応じることや、片付け、準備などといった整理意識を育てます。
③ 13:00	自由遊び 個別学習	個々の才能に着目し、伸ばしていくことで、自己表現力や有用感の育ちを支援します
③ ② 17:00	降園	今日の活動内容や次回の活動内容の確認をすることで、自己意識や先の見通しを得る力を育みます。

〈内容〉

◎集団活動：自らが意識的に集団活動へ参加していくことで、自己意識や他者意識を高め、社会的な適応力を身につける。

・無理に集団活動に入れるのではなく、活動内容を具体物や写真などの視覚支援を提示したり、事前予告をするなどしながら、子ども自身が興味を示して、見通しをもって自主的に活動に参加できるよう支援しています。

◎粗大運動：感覚意識の統合性や身体的な運動能力を高めていく。(ブランコ・トランポリン・ボールプール・巧技台・土管山・自転車等)

・幼児は、思いっきり体を動かすことで、自分の体の動きが徐々に理解でき、少しずつ活動が活発的になった。土管山の坂を援助なしで登れたり、トランポリンも膝をうまく動かして跳べるようになったりと個々の身体能力も向上していた。学童でも、トランポリンやブランコ、マルチファンクションで体幹を高めたり、園庭でサッカーボールや野球、ボール投げなどすることで運動能力を高め、対人意識、集団意識の向上にもつながった。

・作業療法士による体幹や課題となる筋力の向上を目指し、アスレチックや運動遊びといった遊びや楽しく活動する中で、自分で自分の体をコントロール捨て行く力を高めていけるよう取り組むことで、体の機能が向上し、それに伴って言葉や気持ちの安定、意欲や自信につながっている。

- ◎音楽活動：音楽活動を通して、共感性や場面への適応力を身につけていくとともに、自己表現や協調性が豊かに育てる。(歌、ダンス、楽器遊び等)
- ・音楽や楽器に触れ、ダンスやリズム遊びを通して、自己表現を促した。その結果、表現をためらっていた子どももうれしそうに表現できるようになってきたり、みんなとの一体感を味わえることができたりしていた。
- ◎工作活動：創作意欲を育てることで、自己表現力や有用感を高めていく(模型・粘土等)。
- ・粘土やスライムでは、感触を楽しんだり、型抜きで自由な表現をしたりして取り組んでいた。
 - ・プラ板づくりでは、思い思いの絵を自分たちで描いてキーホルダーにしたりして、自ら作り上げる喜びを体験することができた。
 - ・段ボールで自分が乗れるほどの車を作ったり、秘密基地や剣など思い思いの作品を作り、意欲や自信につなげることができた。
- ◎制作活動：季節に合わせた制作活動を通しながら、季節感や創作意欲を獲得していく(こいのぼり、クリスマスブーツ、ひなまつり等)。
- ・季節の飾り作り(七夕やクリスマスなど)では、はさみやクレヨン、シールなど子どもの能力に応じて、手先の機能の向上(微細運動)に取り組んだ。集中して取り組む子どもも多く、自由な表現を肯定的に受け入れ、出来上がった喜びや達成感が子どもの意欲につながっていた。
- ◎食育活動：生理的な欲求を自分の力で満たす経験や準備から整理までの経験を得ていくことで、自立心を育てる。(ホットケーキ・たこ焼き等)
- ・放課後等デイや児童発達支援の個別支援では、食育活動を取り入れ、利用児同士での話し合いを通して、メニューや準備物、流れ、役割を決め、各自の能力個性に応じて取り組んだ。その結果、意欲的に取り組み、自分の力で調理したことの喜びや出来上がりの達成感を感じていた。中には家で作ったものを紹介してくれ、なごみでも作ってくれる子もいた。
- ◎課外活動：公共の場の参加などを通して、社会的なルールの存在の気づきを促す。(地域交流・交通機関の利用等)
- ・コロナウィルス感染予防で地域の行事もなく、あまり交流という形での取り組みができなかったが、大きな公園に出かけたり、お花見散策や初詣、駄菓子屋に行くなど、感染対策を行いながら、公共の場の利用することで、交通マナーや社会的ルールの意識を高めることができた。
 - ・食育活動で使う食材等の買い物に出かけるといった、自分たちで食べ物などを購入して作ったり、みんなのおやつのお買い出しを手伝ってもらった体験をすることで、集団意識や自己有用感を育てていく機会となった。
- ◎リラクゼーション：活動を媒介にして他者との共感的なやりとりを経験する。また、シーツ遊びや楽器演奏などを通して情緒の安定やリフレッシュを図るとともに、他者との共感性や場面への適応力を身につけていく。
- ・児童発達支援の活動では、主にシーツ遊びやからだ遊びに取り組んだ。シーツの中にくるまって揺られる心地よさやからだ遊びでの大人に身を任せる動きなど取り入れ、共感的な関わりの中で情緒の安定を図ることもできた。また、親子

遊びでのバルーン（横になって上から降りてくるシーツの感覚を楽しむ）では、ゆっくりと落ち着いた雰囲気（静かな音楽を流すなど）の中で、クールダウンできたり、自分でバルーンを持つことでふわふわとシーツが揺れる感覚を楽しむことができていた。

◎親子通園：親と子ども（幼児）が一緒に来園する親子通園を毎週木曜日に設定している。臨床心理士の指導を通して、子どもとの関わり方や母親のメンタルケア、職員を媒介とした母子関係の調整、母親同士の関係作りなどを支援する。

・臨床心理士とのグループミーティングでは、育ちの悩みや喜びなど様々な意見や情報交換ができ、母親のメンタルケアや良好な親子関係の構築ができていた。また、職員と情報を共有するなど連携することで、子どもへの接し方の共通理解や統一感ができていた。

・親子遊び（リズム遊びや手遊びなど）や親子製作活動では、母親と一緒にすることで一緒に楽しむといった共感性を育む経験を持つことができた。

・支援学校の見学会を企画し、支援学校の説明を受けたり学校内を見学することができ、今後の進路の情報提供することができた。

・子育て座談会や講演会を行い、子どもの心の育ちやインリアル法、メンターの方との交流会などを行うことで保護者のメンタルケアや学びの場を提供することができた

◎ソーシャルスキルトレーニング：発達に応じて、買い物、調理など生活の流れに沿った必要なスキルが身につくよう支援する。また、保護者の希望も踏まえ、より生活に根付いた技術の習得を目指していく。

・話し合いをすることで、活動内容を決めた。お互い意見を出し合い、相手の話をよくきくことの大切さに気づく経験を積めた。意見の衝突があった場合は、職員がサポートし、相手の気持ちを代弁したり、やりとりの中で互いに折り合いをつけていけるよう支援した。自分たちで決めた活動という意識が、意欲的な姿勢に大きく影響していた。

また、駄菓子屋などでの買い物をするなど社会経験の中で望ましい行為やマナーを身につけることに取り組んだ。

3、行事

児童発達支援（幼児）

- 10月18日～23日 わくわくまつりウィーク
- 11月11日（木） 総合避難訓練（消防署員・消防車来所）
- 12月13日～17日 クリスマス会ウィーク
- 2月26日（土） がんばり賞（午前・午後）
クラスごとに分けて少人数で実施

放課後等デイ（学童）

- 10月18日～23日 わくわくまつりウィーク
- 12月13日～17日 クリスマス会ウィーク
- 3月12日（土） がんばり賞（午前・午後）
曜日利用児ごとに分けて少人数で実施

第2章 利用者の来園状況

1、令和3年度 月別の来園状況

	児童発達支援 (人)	放課後等デイサービス (人)	保育所等訪問支援 (人)	開園日数 (日)
4月	315	156	3	21
5月	273	130	8	18
6月	385	171	16	22
7月	373	145	19	20
8月	381	134	2	20
9月	422	144	8	20
10月	429	157	19	21
11月	406	149	26	20
12月	406	135	20	20
1月	399	114	1	19
2月	450	109	7	19(18)
3月	528	144	16	22(23)
合計	4767	1688	145	242

2、通園の状況（令和3年3月31日現在）

幼児 57名：月曜～金曜

学童 29名：月曜～金曜

第3章 職員の体制

1、職員の体制

管理者 (兼務) 1名
 児童発達支援管理責任者 (専任) 1名 (兼務) 1名
 児童指導員 (常勤・専任) 5名 (非常勤) 1名
 保育士 (常勤・専任) 7名 (非常勤) 3名
 作業療法士 (常勤・専任) 1名
 看護師 (常勤・専任) 1名
 栄養士 (非常勤・専任) 1名
 指導員 (常勤・兼務) 2名

第4章 地域・施設交流・研修等実施状況

1、職員研修

〈法人内研修（キャリアパス・事業所内研修）〉

日にち	参加者名	研修名	場所
4月1日	松下美沙 渡邊智美	キャリアパス研修 萌葱の郷の理念・	なかよしホール

	芝関友里	これまでの歩み・展望について（理事長講話）	
4月23日	松下美沙 渡邊智美 芝関友里	キャリアパス研修 接遇マナーについて	なかよしホール
5月8日	五十嵐康子 後藤伸二 渡邊紀暁 佐藤瑠美 小代夏美 荒巻香奈江 木藤拓弥 宮崎美佐 大津珠美 安達悠花 小出百世 松下美沙 渡邊智美 芝関友里	こざい・わくわく合同研修会 ◎自閉症療育マニュアルについて 講師：五十嵐猛センター長 ◎保護者支援について 講師：飯田法子先生	わくわくかん
5月28日	松下美沙 渡邊智美 芝関友里	キャリアパス研修 自閉症・発達障がいの基礎知識・心の理論	Zoom わくわくかん
6月25日	佐藤瑠美 大津珠美 木藤拓弥	全体会 中堅職員研修	なかよしホール
7月2日	松下美沙 渡邊智美 芝関友里 宮崎美佐	キャリアパス研修 てんかんについて	Zoom わくわくかん
7月10日	松下美沙 渡邊智美 芝関友里	新人フォローアップ研修	なかよしホール
7月28日	松下美沙 渡邊智美 芝関友里 後藤伸二	キャリアパス研修 AED・救急法	なかよしホール
9月24日	安達悠花 小出百世 松下美沙 渡邊智美 芝関友里 阿孫充	キャリアパス研修 萌葱の郷事業内容について	わくわくかん
11月19日	松下美沙 渡邊智美	キャリアパス研修 合理的配慮について	Zoom こざいこども園

	芝関友里 阿孫充 渡邊紀暁		
11月25日	松下美沙 渡邊智美 芝関友里 宮崎美佐	キャリアパス研修 けが・体調不良時の処置について (インフルエンザ・熱中症・嘔吐・食中毒)	なかよしホール
12月2日	小出百世 後藤伸二	キャリアパス研修 AED・救急法	なかよしホール
2月19日	五十嵐康子 後藤伸二 渡邊紀暁 佐藤瑠美 小代夏美 荒巻香奈江 木藤拓弥 宮崎美佐 大津珠美 安達悠花 小出百世 松下美沙 渡邊智美 芝関友里 阿孫充	事業所内研修（ビデオ研修） 事業開設の想い（大分なごみ園で実施） 利用児保護者の講話	わくわくかん
2月19日	松下美沙 芝関友里 阿孫充 渡邊紀暁	事業所内研修（めぶき園） 動作法	Zoom わくわくかん

〈外部研修〉

日にち	参加者名	研修名	場所
5月12～14日	大津珠美 安達悠花	強度行動障害支援者養成研修（基礎・実践）	なかよしホール
8月18・19日	五十嵐康子	サービス管理責任者等更新研修	コンパルホール
2月28日	渡邊紀暁	大分県障がい者虐待防止・権利擁護研修会	オンライン
10月6・7日	後藤伸二	サービス管理責任者等更新研修	コンパルホール
10月27～29日	荒巻香奈江	サービス管理責任者等基礎研修	大分県総合社会福祉会館
11月7日	後藤伸二 佐藤瑠美	未来はばたきネット研修会	オンライン
2月28日	渡邊紀暁	大分県障がい者虐待防止・権利擁護研修会	オンライン
3月8・9日	渡邊紀暁 阿孫充	障害児通所支援事業等療育担当職員基礎研修	オンライン

2、個別支援会議（17件）

日にち	会議内容	場所	参加者
4月9日	F・Oさん支援会議	大分療育センター	五十嵐康子
5月14日	Y・Tさん支援会議	わくわくかん	五十嵐康子
6月25日	S・Kさん支援会議	旦の原こども園	佐藤瑠美
7月6日	T・Mさん支援会議	大分療育センター	五十嵐康子
7月16日	H・Hさん支援会議	大分支援学校	荒巻香奈江
7月21日	J・Nさん支援会議 K・Nさん支援会議	坂ノ市小学校	五十嵐康子
8月5日	T・Kさん支援会議	松岡幼稚園	荒巻香奈江
8月19日	Y・Sさん支援会議	こざいこども園	五十嵐康子 後藤伸二 佐藤瑠美
9月3日	S・Aさん支援会議	わくわくかん	五十嵐康子 後藤伸二
10月5日	T・Mさん支援会議	大分療育センター	五十嵐康子
11月4日	H・Kさん支援会議	小佐井小学校	五十嵐康子 荒巻香奈江
11月29日	A・Hさん支援会議	坂ノ市小学校	五十嵐康子
12月6日	S・Kさん支援会議	戸次なごみ園	五十嵐康子
12月7日	T・Mさん支援会議	大分療育センター	五十嵐康子
12月21日	H・Kさん支援会議	小佐井小学校	五十嵐康子 荒巻香奈江
3月1日	T・Mさん支援会議	大分療育センター	五十嵐康子

（半年に1回行うモニタリング会議の実施や相談支援専門員が開催する担当者会議（利用開始・誕生月）やモニタリング会議に出席している）

3、外部機関実習

実習生	受け入れ期間	学校・機関名	担当職員
大分県発達障がい者支援専門員養成研修受講生(34名)	6月14・15・28・29日、7月5・6・12・13・26・27日、8月2・3・16・17・30・31日、9月6・7・13・14・27・28日、10月11・12・18・19・25・26日	大分県発達障がい者支援専門員養成研修（中級）	五十嵐康子 後藤伸二
佐竹 真白 平井 泉水	8月2日～8月17日	別府溝部学園短期大学 幼児教育学科	佐藤 瑠美
御手洗結友 姫野 伶菜	8月17日～8月30日	別府大学短期大学部初等教育科	佐藤 瑠美
徳丸 咲良 大久保芽吹	9月3日～9月16日	別府大学短期大学部初等教育科	佐藤 瑠美
三代 美紀 高橋 朋晏	3月2日～3月15日	大分保育専門学校 保育学科	佐藤 瑠美

◎ボランティア受け入れ

◇多田真菜（日本文理大学） 7/26・30, 8/2・4・6・11・18

4、関係機関連携・支援（4件）

日にち	内容	場所	担当職員
5月20日	よいこの森こども園教員2名見学対応	わくわくかん	五十嵐康子
6月17日 6月29日 7月1日	大分支援学校見学会 保護者7名参加	大分支援学校	五十嵐康子 後藤伸二
8月4日	坂ノ市幼稚園教員3名見学対応	わくわくかん	五十嵐康子
8月23日	高田幼稚園園長、教員2名見学対応	わくわくかん	五十嵐康子 小代夏美
2月25日	大分市地域療育等支援事業担当者連絡会	Zoom	五十嵐康子

◎施設支援：みどり幼稚園・めぐみ保育園・みんなの森こども園

※保育所等訪問支援事業の訪問先施設名

こざいこども園	大分明星幼稚園
明野しいのみ保育園	ひまわり明野幼稚園
みんなの森こども園	聖公幼稚園
よいこの森こども園角子原分園	みどり幼稚園
大在愛育保育園	大分市立別保小学校
大分市立高田幼稚園	大分市立高田小学校
大分市立大在幼稚園	大分市立小佐井小学校
大分市立松岡幼稚園	大分市立大在西小学校
大分市立坂ノ市幼稚園	大分市立丹生小学校
大分市立舞鶴幼稚園	大分市立明治小学校
由布市立由布川幼稚園	大分市立桃園小学校
夢のくに保育園	大分支援学校

5、施設内職員会議

日にち	内容	参加職員
4月3日	職員会議・主任以上会議	常勤職員
5月28日	職員会議・クラス会議	常勤職員
6月10日	給食会議	園長・佐藤主任・栄養士
7月3日	職員会議・クラス会議	常勤職員
7月16日	こざい・わくわく合同主任以上会議	主任以上職員
8月31日	こざい・わくわく合同主任以上会議	主任以上職員
9月11日	職員会議・クラス会議・放デイ会議	常勤職員
10月2日	職員会議・クラス会議・放デイ会議	常勤職員
11月20日	職員会議・クラス会議報告	常勤職員
12月18日	職員会議・クラス会議報告	常勤職員
1月8日	職員会議・クラス会議報告	常勤職員

1月19日	こざい・わくわく合同主任以上会議	主任以上職員
2月19日	職員会議・クラス会議報告	常勤職員
3月17日	こざい・わくわく合同主任以上会議	主任以上職員

第5章 総括

4月より、児童発達支援・放課後等デイサービス・保育所等訪問支援・居宅訪問型児童発達支援に務める「こども発達・子育て支援センターわくわくかん」を開所させ、大分市東部地域を中心に、子どもの発達が気になる段階から身近な地域で支援できるよう、障がいの種別に関わらず、質の高い専門的な発達支援の充実を目指して、幼児・児童の発達支援や家族の相談支援、保育所等との連携・訪問支援を行ってまいりました。

昨年に続くコロナ禍のため、感染予防による利用の自粛や保育所等の休園休校などでの欠席、支援会議の中止や訪問支援の自粛等、様々な影響が続いている状況であり、居宅訪問型児童発達支援に関しては感染リスクが高いことから利用はありませんでしたが、通所利用者の延べ人数は児童発達支援が4,767名、放課後等デイサービスは1,688名、保育所等訪問支援は145名と多く寄せられており、当法人への発達支援ニーズの高さを実感しています。また、職員一人一人が感染予防に努めたこともあり、わくわくかんの職員から感染者を出さずに事業所を継続できたことを幸いに感じています。

大分市より受託している大分市障がい児地域療育等支援事業は、新型コロナウイルス感染予防の影響で中止した月もありましたが、大分市役所大在支所で月2回実施する療育相談「あたたか」は70件、施設支援は3件の利用がありました。また大分市発達障がい児巡回専門員派遣事業では大分市内18園の4歳児クラスに巡回し早期発見・対応のための助言等を行い、両事業を通して地域の保健師、市の保育幼児教育課との連携を図ることができました。保健師や地域の保育園等からの紹介から利用希望が多くみられるとともに、利用にもつながっており、早期の発達支援のニーズが高まっていることを実感しています。

移行支援については、幼稚園への就園や学校へのスムーズな就学に向けて保護者や関係諸機関と情報共有を行う支援会議を行ったり、併行通園ができるように送迎を調整したりするなど、ニーズに合わせて積極的に取り組んだ結果、地域の保育園幼稚園の併行通園する利用児が増えました。

療育環境においては、発達段階に応じた環境を設定し、幼児には運動機能や体力の向上、学童には情緒の安定に向けた活動を設定すると同時に、外出活動や食育活動など、子どもたちの興味関心のある様々な活動を提供することで社会性の向上を目指す活動が広がるように工夫しています。関わりにおいても一人一人の特性や生活環境に応じた環境設定とともに、補助自我支援、共感に基づく代弁的コミュニケーション支援をすすめた結果、利用児童の言語発達や集団適応、不適応行動の軽減といった対人関係の向上や自律心の成長とともに就園や就学がすすみやすくなり、保護者や関係諸機関からも評価をいただくことができました。

職員の育成に関しては、新型コロナウイルスの影響もあり、なかなか外部研修に参加できない状況ではありましたが、内部研修への参加や事業所内研修を行ったり、各クラス会議等で支援の振り返りやスーパーバイズを行ったりすることにより、資質の向上に努めてまいりました。今後、新型コロナウイルスの影響が下がれば、ロールプレイやビデオを用いた支援の振り返り、関係性を軸にして研修を行うことで、専門性と資質の向上を目指して取り組みたいとも考えています。

令和3年度 相談支援事業所プラスα 事業報告

第1章 計画作成状況

	計画数	モニタリング数
障がい者	3	8
障がい児	113	259
(総数)	116	267

第2章 職員研修・協議体・講師等実施状況

1) 研修、講師、事務局

期 日	研 修 名	場 所
R3. 7. 14	大分市相談支援事例検討会	大分市
R2. 11. 9	大分県相談支援従事者現任者研修①	大分市
R2. 11. 26	大分市相談支援事例検討会	大分市
R3. 12. 3	大分県相談支援従事者コース別研修	大分市
R3. 12. 14	大分県相談支援従事者現任者研修②	大分市
R4. 1. 22	大分県相談支援従事者現任者研修 SV	大分市

※大分県相談支援従事者現任者研修③④はコロナ感染予防のため来年度4月頃に延期

2) 協議体

不定期	大分市相談支援専門員連絡会	大分市
-----	---------------	-----

第3章 職員体制

管理者	(専従)	1名
相談支援専門員	(専従)	1名

第4章 総括

今年度から、こども発達支援・子育て支援センターわくわくかんの発足とともに、相談支援事業所「プラスα」を開設することで、わくわくかんの利用児及び同法人の大分なごみ園、戸次なごみ園の利用児の計画相談・相談支援を行ってまいりました。

支援の内容は、子育てや子どもの特性に関する相談のみならず、就園や就学に対する相談、就学後の学校生活に対する相談や関係機関からの相談等、様々な相談に対応しており、特に困難を抱えたご家庭からの相談においては、課題の改善や解決に向けて法人内のサービス利用を通して生活の安定を目指すようにしましたが、育児負担から児童虐待や育児ノイローゼに至る等、法人内の事業では対応しきれない困難ケースについては市役所や他相談支援事業所以外にも各市町村の保健所や児童相談所、こども家庭支援センター等や短期入所事業所と密に連携を図りながら支援に努めるようにしました。

相談には高度な専門性や情報量が問われることから、市の事例検討会や相談支援専門員連絡会、現任者研修に参加するとともに、他機関との連携・協働、支援にかかわる情報の収集や知識の習得、専門性の向上にも努めるようにしてまいりました。しかし、職員1名の体制では新規利用者の受け入れが徐々に難しくなっていることから、来年度は相談支援専門員を2名に増員することで継続的に利用児者のニーズに沿った支援プランを提案できるように体制を整える予定です。